

小・中学校の再編に関する 保護者及び地区住民との意見交換結果

■ 実施期間（令和４年６月～令和６年７月）

○ 船形地区		P 1～5
○ 那古地区		P 7～13
○ 北条地区		P 15～19
○ 館山地区		P 21～25
○ 西岬地区		P 27～31
○ 房南地区		P 33～46

（房南地区／小規模特認校に関するアンケート調査含む）

○ 豊房地区		P 47～51
○ 館野地区		P 53～59
○ 九重地区		P 61～65
○ 神余地区		P 67～114

● 小・中学校の再編に関する地区住民アンケート結果

（令和６年６月～７月／各地区説明会）

.....	P 115～121
-------	-----------

意見交換等の実施回数（令和４年６月～令和６年７月）

地 区	地区組織（※１）	PTA関係（※２）	地域関係（※３）	合 計
船形	６	５	５	１６
那古	６	４	４	１４
北条	６	５	３	１４
館山	６	５	４	１５
西岬	６	５	５	１６
房南（神戸・富崎）	７	５	７	１９
豊房	６	５	４	１５
神余（※４）	８	８	２	１８
館野	６	５	４	１５
九重	６	６	５	１７
小 計	６３	５３	４３	１５９

（※１）各地区において、組織した「学校のあり方を考える会」・「学校再編委員会」を指す。

構成メンバーは、現小学校保護者・未就学児保護者に加え、区長会・公民館・コミュニティ委員会などからの推薦委員によるもので、各地区１０人前後にて組織したもの。

（※２）各小学校のPTA役員会や保護者全員を対象とした、意見交換会・説明会・回覧を指す。

（※３）各地区の区長会や地区住民全員を対象とした、意見交換会・説明会・回覧を指す。

（※４）神余学校再編委員会は、保護者・地域住民により合計３９人にて組織され、令和４年７月～令和５年９月（地区報告書作成）までの期間において、約５０回の会合を重ねている。

船形地区

(協議記録)

日 付	内 容
令和 4 年 7 月 5 日	保護者・地区住民説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について	
令和 4 年 10 月 28 日	第 1 回「学校のあり方を考える会」 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和 4 年 12 月 9 日	第 2 回「学校のあり方を考える会」 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和 5 年 1 月 27 日	第 3 回「学校のあり方を考える会」 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和 5 年 2 月 28 日	保護者説明・意見交換会（P T A 役員会への事前説明）
令和 5 年 3 月 17 日	保護者説明・意見交換会（4 月 10 日まで意見聴取）
令和 5 年 5 月 19 日	第 4 回「学校のあり方を考える会」 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和 5 年 5 月 24 日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和 5 年 6 月 9 日	船形地区（区長会）にて保護者意見の説明・意見交換
令和 5 年 6 月 15 日	船形地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）
【 第 2 テーマ 】 「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換	
令和 5 年 11 月 16 日	第 5 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見交換）
令和 5 年 12 月 13 日	第 6 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見集約）
令和 6 年 2 月 13 日	保護者意見交換会（2 月 29 日まで意見聴取） ※ 不参加の保護者へマチコミメールにて意見聴取実施
令和 6 年 3 月 21 日	保護者通知（素案に対する意見聴取結果を保護者宛て周知）
令和 6 年 5 月 14 日	船形地区（区長会）にて保護者意見の説明及び地区説明会周知
令和 6 年 6 月 22 日	地区住民意見交換会

「船形地区学校のあり方を考える会」

■ 委員 10 名（小学校保護者 3 名・未就学児保護者 3 名・地区代表 4 名）

【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について

(検討期間／令和 4 年 10 月～令和 5 年 6 月)

(協議内容)

□ 保護者として考える望ましい学校規模について

- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
- ✓ 1 学年単学級での教育環境を望む。
[市が示す最低限の学校規模（1 学年 15 人，小学校全体 90 人）以上]
- ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

(協議結果／「学校のあり方を考える会」保護者委員意見)

結 論
小学校・中学校共に、クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む
理 由
● 一定規模での集団生活を送ることで、多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。 (人間関係の固定化回避) ● より多くの人間関係を、子供自身が選択して構築することが可能となる。また、人間関係に配慮が必要な場合にも対応可能となるため。
各委員の意見（クラス替え可能な学校規模を望む意見）
【小学校のあり方に関する事項】 ○ 少しでも多くの友人と色々な経験をさせてあげたい。【多数意見】 ○ 極端な男女比の偏りが発生する可能性があり、その状態で 6 年間で過ごすことが、子供にとって良いとは思えない。 ○ 子供同士の関係性がこじれてしまい、どうしても修復が不可能となるような状態の場合、クラス替えという方法を取れなく卒業まで一緒にいなければならないのは、子供にとってかわいそう。 ○ 船形こども園の保護者の中でも、船形小学校の小規模化を懸念している声があり、現に船形小ではなく那古小へ入学させようといった話も出ている状態であり、これらの推計値よりも更に小規模化が早まる懸念がある。 船形地区の子供達だけの学校運営は、既に現実的ではない。 ○ 子供同士だけでなく、子供と教員の人間関係に配慮した学級編制が可能となることが魅力 ○ 学校規模が大きくなれば、PTA 役員など保護者の負担軽減にも繋がる。 ○ 学校規模に関するメリット・デメリットを踏まえ、複合的に考えるとクラス替えが可能な規模が、子供たちにとって一番良いと思った。 ○ 昔を思い出すと、単純にクラス替えが楽しかったしワクワクした。それを子供たちに経験させてあげたい。 ○ 6 年間同じメンバーでは、固定化された人間関係となってしまう。 ○ 富津市の統合事例における子供の感想でもあったように、様々なグループ編制が可能となるこ

と、大人になっても社会で必要とされる集団行動を学ばせる（身につけさせる機会を与える）ことが出来る。

- 人口規模の多い自治体の学校で出来ていることを、学校規模が小さく子供の人数が少ないという理由で経験させてあげられないのは、避けるべき。
- 規模が大きければ、子供が自ら選べる環境を与えてあげられる。
- 自分は、中学校で初めてクラス替えを経験したが、一言で言えば感動した。
- 国が示す標準規模（2～3クラス）にこだわらず、子供の可能性を広げるためには、より大きな規模での再編でも良い。
- 学年、3クラスぐらいがちょうど良い規模だと思う。卒業しても同級生全員の顔と名前を忘れないぐらいが良い。
- これから（子供がもっと減る）を考えると、小さな学校再編ではなく、ある程度の規模感を持って再編した方が良い。

【中学校のあり方に関する事項】

- 部活の選択肢が少なすぎ規模も小さい。よって学校再編すべき。【多数意見】
- 理由は小学校と同じ。より多くの友人と様々な経験を積ませるためにも学校再編すべき。
【多数意見】
- 市内に中学校1校となると、子供の逃げ道が無くなるのが懸念されるが、それらをカバーできる環境を整えられれば、保護者も安心するので市内に中学校1校で良いと思う。
（登校時間帯・学校内での場所を確保するなど）

各委員の意見（複式学級の学校規模でも良いので地域に学校を残して欲しい）

- 希望する意見なし。



船形小学校及び学区内未就学児保護者への説明・意見交換会

令和5年3月17日（金）午後7:00～8:00 船形小学校体育館／参加者10人
※ 意見聴取期間（3/17～4/10）

- 「学校のあり方を考える会」の考えに反対する意見なし。



船形地区 区長会への説明・意見交換

令和5年6月9日（金）午後7:00～8:00 宮ノ下区民館

- 区長会として、保護者の方々が出された意見を尊重する。
☞ 地区回覧版により保護者意見について区民へ現状を配布

【 第 2 テーマ 】「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換

（検討期間／令和 5 年 11 月～令和 6 年 6 月）

学校のあり方を考える会
結 論
① 小学校について … 同素案に対して賛成（保護者委員全員） ② 中学校について … 同素案に対して賛成（一部反対意見あり）
各委員の意見（理由等）
（賛成意見：小・中学校） ○ 子供の数が減少するなか、一定の人数規模で学校運営をすることが必要（意見多数） ○ 素案のポイントにある教育環境を目指すべき。 ○ 複式学級の教育環境は、子供にとってデメリットが多い。 ○ 当初の考えでは、クラス替え可能な規模での再編を願っていたが、中学校生活のことを考えるとこの素案に納得する。 ○ 市内全域にて進めている学校再編のため、各地区が不公平感を抱かないような計画にして欲しい。 （反対意見：中学校） ○ 教育の観点から考えると、中学校も統合した方が充実すると思うので賛成。しかし、学校が無いところに人は住まないと思うので市内 1 つの中学校では更なる過疎化を招き、良い未来が見えてこない。教育の観点だけではなく、もう少し全体（市全体の都市計画の観点）にて考えた方が良くと思うので、中学校はもう少し先送りすべき。 ○ 中学校は 1 クラスで十分だと考えている。学校のあり方自体が過渡期に来ており国全体の人口が減っている中、これから教育やクラス編成のあり方は変わってくると思う。館山市のように差し迫った地方で新たなモデルケースを築いていくことを期待したい。 （地域代表意見） ○ クラス替え・先生集団（人数）が増えること、それぞれが子供達の教育環境にとってメリットだと思う。 ○ この会が始まった時、事務局の方から子供達の趨勢（出生数）の提示があった。その事実を見て、起死回生の方法が無い限りこの方向性しかないと思っていた。起死回生の意見が出れば良いとは思いますが、この素案通りでいくしかないのかと思う。



その他保護者意見（現小学校保護者・未就学児保護者）

✓ 令和6年2月13日（火）午後7:00～20:30 船形小学校体育館 意見交換会
（参加者5人）

✓ 令和6年2月13日～2月29日 意見聴取期間

● 素案全体に対する意見（個人単位） ☞ なし

（その他意見／個人単位）

○ 那古小への通学方法について、船形地域の特異性から安全性の高い道（歩道整備・交通量など）で通学する場合、幹線道路ではなく中の道を通っていくことになり、そうすると大人の足でも30分以上かかる。学校から半径〇〇など単純な方法ではなく、それら地域性を踏まえスクールバス支援を検討して欲しい。



船形地区住民との意見交換会

令和6年6月22日（土）午後2:00～3:15 船形小学校体育館／参加者7人

※ 意見聴取期間（6/22～7/10）

- 船形地区は児童養護施設・グループホーム・里親など社会的養護が必要な子供が多くいるため、統合校である那古小学校とも情報共有・連携を図って欲しい。
- 共働きが増える社会において学童保育のニーズが増えているため、定員増加などの取組を行って欲しい。
- 再編には賛成だが、子供のストレス軽減のためアフターケアを充実させて欲しい。また、再編を行った成果の検証をして欲しい。
- 統合に伴い、不登校児の増加などが起こりえるならば、注意深くみて欲しい。

那古地区

(協議記録)

日 付	内 容
令和4年7月6日	保護者・地区住民説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
【 第1テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について	
令和4年10月31日	第1回「学校のあり方を考える会」 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年12月12日	第2回「学校のあり方を考える会」 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年1月30日	第3回「学校のあり方を考える会」 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年3月20日	保護者説明・意見交換会（令和5年4月10日まで意見聴取）
令和5年5月22日	第4回「学校のあり方を考える会」 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年5月26日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年6月22日	那古地区（区長会）にて保護者意見の説明・意見交換
令和5年7月10日	那古地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）
【 第2テーマ 】 「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換	
令和5年11月13日	第5回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見交換）
令和5年12月11日	第6回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見集約）
令和6年2月14日	保護者意見交換会（2月29日まで意見聴取） ※ 不参加の保護者へマチコミメールにて意見聴取実施
令和6年3月21日	保護者通知（素案に対する意見聴取結果を保護者宛て周知）
令和6年6月21日	地区住民意見交換会

「那古地区学校のあり方を考える会」

■ 委員 11名（小学校保護者3名・未就学児保護者5名・地区代表3名）

【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について

(検討期間／令和 4 年 10 月～令和 5 年 7 月)

(協議内容)

□ 保護者として考える望ましい学校規模について

- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
- ✓ 1 学年単学級での教育環境を望む。
[市が示す最低限の学校規模（1 学年 15 人，小学校全体 90 人）以上]
- ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

(協議結果／「学校のあり方を考える会」保護者委員意見)

結 論
小学校・中学校共に、クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む ※ 中学校の学校再編は、より早い時期での再編を希望する。
理 由
● より多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。 (人間関係の固定化回避) (新たな人間関係を構築する機会を、小さなうちから経験させたい。)
各委員の意見（クラス替え可能な学校規模を望む意見）
【小学校のあり方に関する事項】 ○ 多くの友人と色々な経験をさせてあげたい。【多数意見】 ○ クラス替えなどを通じて、子供自身が新たな人間関係を構築する機会を小さなうちから経験させたい。【多数意見】 ○ 国が示す学年 2～3 クラスがベターだと思う。あまりに規模が大きすぎると、子供の友人関係が把握できなくなること、学区範囲が広すぎると、活動場所がわからなくなる。【多数意見】 ○ 幼稚園～小学校時代は、自身の人間形成過程において重要な時期だと思う。その時期に、より多くの人間と様々な経験をさせてあげたい。親として、幼稚園から小学校までの 8 年間、友人関係が全く変わらない環境を避けたい。 ○ 周囲の保護者同士（ママ友）とも、この件について意見交換したが、約 9 割の保護者は、クラス替え可能な規模を望んでいた。 ○ 小学校 6 年間、単一学級で過ごした自分の子供を見ていて、クラス替えが無いと分かっているため、人間関係が大変そうだと感じた。 (一度友人との輪に入り損ねると大変) ○ 自分の子供（2 人）は、一人はクラス替えが出来ており、もう一人は 6 年間単一学級だったが、クラス替えが出来ていた学年の子供の方が、学校生活が単純に楽しそうだった。

- 教育（授業）を考えても、クラスの人数が多くても少なくても、教える内容（教育課程）は一緒であり、小規模校での「きめ細やかな指導」というメリットより、「多くの友人と様々な人間関係を経験出来る環境」のほうが、子供にとって良いと思う。
- 学校規模が大きくても、教員数が増えるため「きめ細やかな指導」をとる学校運営体制づくりは可能である。（委員の元教諭より）
- 現在子供を幼稚園に通わせているが、子供の数が少なく非常に仲が良く、仲が良すぎて（良い事ですが）衝突した経験が一度もない。小学校～中学校～社会に出て色々なことが起きると思うが、小さなうちからトラブルを含め、より多くのことを経験して、自分でそれらを解決できる「力」・「方法」を子供自身に身につけさせたい。それが、子供のためになると思う。
- 友人同士での重大な事案があったとき、クラス替えという逃げ場を用意してあげたい。
- 私自身が、小学校単一学級で6年間過ごし卒業した。その経験において、一度出来上がった人間関係（クラス全体）が変わることは無く、今思えばクラス替えがあれば…色々違った変化があったのかなと思う。また、現に男女比も約2倍の偏りが発生していた。
- 学校規模が大きくなれば、1つの学級に関わる先生が多くなり（習熟度別授業・教科担任制など）、子供が様々な大人と接する環境を提供できる。また、担任以外も学級の様子を確認できるため、担任の先生ではない視点で子供の様子を日々確認可能となる。
- 新学年のワクワク（担任発表・クラス発表）が、子供にとって心機一転の良い機会となる。
- 学校の小規模化によって出来ない事案が発生するのは、そもそも良い事ではない。（体育での球技、グループ別学習など）
- 卒業までに同級生の顔・名前が一致できる規模（学年3クラスぐらい）が良い。
- 6年間あるので2クラスではなく、最低3クラスぐらいあった方が、色々な友人も出来るので良いと思う。
- 子供の可能性を広げるためには、クラス数が多ければ多い方が良い。

【中学校のあり方に関する事項】

- 理由は小学校と同じ。より多くの友人と様々な経験を積ませること、学習面（先生方の配置）、部活動、いずれの面からも早い段階での学校再編を望む。【多数意見】

各委員の意見（小学校は現状のままで良い意見）

- 単学級でも、子供は楽しそうに学校生活を送っておりデメリットを感じない。那古の地域として那古学区だけで学校運営をして欲しい。



那古小学校及び学区内未就学児保護者への説明・意見交換会

令和5年3月20日（月）午後7:00～8:00 那古小学校体育館／参加者11人

※ 意見聴取期間（3/20～4/10）

- 「学校のあり方を考える会」の考えに反対する意見なし。



那古地区 区長会への説明・意見交換	
令和5年6月22日（木）午後6:30～7:30 那古地区公民館	
○ 現時点の保護者意向を地区住民に周知する。	
☞ 地区回覧版により保護者意見について区民へ現状を配布	

【 第 2 テーマ 】「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換

（検討期間／令和 5 年 11 月～令和 6 年 6 月）

学校のあり方を考える会
結 論
同素案に対して賛成（保護者委員全員）
各委員の意見（理由等）
○ 那古・船形に関しては、クラス替えできる規模が継続できるかはわからないが、中学校のことを考えればこの形が良い。（意見多数） ○ 小規模特認校についても、小規模での教育を求める保護者もいると思うので、それらの方々への選択肢ができることも良い。（意見多数） ○ 統合すべきところが統合されており、この案以外にはないと思う。 ○ 全面的に賛成 ○ 今より規模が多くなり、多くの友人と触れ合い様々な経験ができる。 ○ 小規模特認校についてスクールバスでの通学支援があることも良い。市内に 4 つほど小学校が残れば、様々な児童の対応も取れると思う。 ○ 保護者にも色々な意見はあると思うが、私は子供に再編したらどう思うかを、聞いてみたが「お友達が増えるからいいね」と言っていた。子供は、変なしがらみに捉われず、そういう形になれば自然と慣れていくのかなと思う。 ○ 私も、同じように自分の子供に再編したらどう思うか聞いてみたが、「急に人数増えたらどうしよう」と言う子、「友達が増える、ラッキー」という子、性格によって違うと思うので、（再編に向けた準備について）柔軟にやる部分と、ハードにやる部分があってもいいのかなと思う。 ○ 豊房小跡地に不登校支援の機能を設ける部分も良い。不登校児は年々増加しており、学校に来られない子も中には勉強できる子もいると思う。そういう子たちが、少しでも学校と同じ教育が受けられれば、将来のためには良い。 ○ 子供を授かり学校の再編に直面すると、クラス替えできる規模での学校が良いと思う。遊びに関しても、人数がいないと出来ないこともあると思う、交友関係についても、成長するにつれ色々な性格が出てきて、付き合う友達を自分で選択していくことも大切だと思う。色々な集団ができ、その中で学んで欲しいので、人数が増えることに賛成。 ○ この案どおりだと、下の子が中学校に入学する際は、既に館山中となっている。上の子の時点でジャージや制服など館山中の物にしてもらえると、おさがりとして使えるので、そういった点も柔軟に対応してほしい。 ○ 中学校における通学支援（スクールバス 4 キロ規定）は、距離だけにこだわらず柔軟な通学支援をして欲しい。

(地域代表意見)

- 素案に賛成。なるべく多くの友人と遊んだりすることが大事だと思います。
- 小規模特認校についても、(今の時代には) 必要だと思います。
- 館山市全体で見ても良いと思う。新聞報道等でも再編の記事が取りあげられていたが、ある程度先が見通せる案になっていると思う。
- 学校の再編にあたりコミュニティ行事も考え直さないといけないと思う。
- 急激な人口減少社会において学校の集約化は必須であり、集約化の先にも、子供達が伸び伸びと才能を伸ばせる環境は、絶対に維持してほしい。また、今回の素案にあるような子供たちのセーフティーネット機能もきっちり確保すべき。
- 再編が進む中で子供と地域との連携が希薄になってくるが、地域と上手く関わり合いを持つ仕組みを考えないといけないと思う。



その他保護者意見 (現小学校保護者・未就学児保護者)

- ✓ 令和6年2月14日(水) 19:00~20:30 那古小学校体育館 意見交換会
(参加者6人)
- ✓ 令和6年2月14日~2月29日 意見聴取期間
- 素案全体に対する意見(個人単位) ☞ なし

(その他意見/個人単位)

- 子供達には、勉強だけでなく体づくりもして欲しい。プロ野球選手やプロサッカー選手などプロで生活していく人もいる。確かに一握りかもしれないが全ての子供達には、可能性があるので、学校再編を通じて、そういったところも伸ばして欲しい。



那古地区住民との意見交換会

令和6年6月21日(金) 午後7:00~8:30 那古小学校体育館/参加者11人
※ 意見聴取期間(6/21~7/10)

- 学校の再編は、やむを得ない状況と思うが、それと同時に地域のコミュニティも無くなっていくのではないかと心配している。公民館の再編計画も進んでいると聞く。もしかしたら、いずれかは那古小も那古公民館も無くなるのかと思うと、災害時の避難所やコミュニティが無くなるのが心配
- コミュニティに関して、代わりになる場所があればコミュニティが無くなることはないと考えている。無くならないように考えることも町内会の役目だと思う。町内会に携わる人間として、那古に住んで良かった、戻ってきてよかったと思えるような地区にし

ていきたいと思う。

- 現在、駐車場は学校前の土地を借りて使用しているが、下校時には駐車場に収まりきらず路上駐車も見られ危険だと感じる。再編後は、県道 296 号を含め通学路の安全を確保して欲しい。
- 館山市は、学校再編に関して丁寧に進めているが、個人的には、財政面からの視点を踏まえ、もう少し強引に進めても良いと思う。
- 私は、このように丁寧に進めてくれて有難いと思う。
- 学校施設や公民館は、市民の共有財産である。サークル活動などの活動場所が無くなるかもしれないと考えると、跡地の活用について心配な点がある。防災面（備蓄倉庫・避難所）や地域の課題解決のために有効に活用して欲しい。

北条地区

(協議記録)

日 付	内 容
令和4年6月23日	保護者・地区住民説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
【 第1テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について	
令和4年11月8日	第1回「学校のあり方を考える会」 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和4年12月20日	第2回「学校のあり方を考える会」 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和5年2月7日	第3回「学校のあり方を考える会」 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和5年3月10日	保護者意見聴取（令和5年3月31日まで意見聴取期間）
令和5年5月30日	第4回「学校のあり方を考える会」 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和5年6月2日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和5年6月26日	北条地区（連合町内会）にて保護者意見の説明・意見交換
令和5年6月28日	北条地区（町内会長・区長会長へ通知／保護者委員の決定意見）
【 第2テーマ 】 「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換	
令和5年11月21日	第5回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見交換）
令和5年12月26日	第6回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見集約）
令和6年2月1日	保護者意見交換会（PTA役員）
令和6年2月20日	保護者意見交換会（3月10日まで意見聴取） ※ 不参加の保護者へマチコミメールにて意見聴取実施
令和6年3月21日	保護者通知（素案に対する意見聴取結果を保護者宛て周知）
令和6年6月3日	地区住民意見交換会

「北条地区学校のあり方を考える会」

■ 委員 6名（小学校保護者3名・未就学児保護者2名・地区代表1名）

【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について

(検討期間／令和 4 年 10 月～令和 5 年 6 月)

(協議内容)

- ✓ 現状の学区を分割して、学年当り単一学級となる小規模学校での教育環境を望む(最低限の 1 学年 15 人、小学校全体で 90 人規模)
- ✓ 現状と同様に、将来に渡りクラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

(協議結果／「学校のあり方を考える会」保護者委員意見)

結 論
将来に渡りクラス替えができる学校規模を望む
理 由
● 小学校 6 年間固定化された友人関係ではなく、クラス替えを含め多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。
各委員の意見（将来に渡りクラス替え可能な規模を望む意見）
○ 年々北条小の子供達が減少している状況の中で、あえて今以上に学区を分割し小規模化を目指すメリットが見えない。【多数意見】
○ クラス替え可能な規模でのメリット（子供の交友関係の広がりや新たな人間関係を築かせる力を養うことなど）と、小規模校のメリット（きめ細かな指導、リーダーを務める機会が確保できる）を比べても、クラス替え可能な規模のメリットの方が、子供にとってより良い学校環境だと思った。
○ 一定の学校規模により、年代・性別などバランスの取れた教員配置が可能となり、多様な指導方法（TT、グループ別、教科担任制）も充実することが出来るため。
○ 指導塾などでも個別指導などを売りにしており、小規模校での個別指導のメリットは理解できるが、今の学区を分割して更なる小規模化の学校を目指すというのは現実的ではない。
○ 小規模のメリットとされる細かな指導はメリットだと思うし、わからないことがあった時は教えてもらいやすいかと思うが、それよりも同級生の友達が多い方が大切なことだと思う。
○ クラス替えによる、新たな人間関係を構築する力の育成というメリットを一番重要視したい。小規模・少人数であると、人間関係が固定化されてしまい、場合によっては一度ついた子供の間の序列がずっと変わらないこともあり得る。
(参考：地区代表意見)
○ 小学校時代に多くの同級生と交わり視野を広げることは、今後の人生経験においても重要なこ

と。今後も、クラス替え可能な規模を保つといった保護者の方々の意見に賛成します。

各委員の意見（現状よりも小規模を望む意見）

- 支持する意見なし



北条小学校及び学区内未就学児保護者からの意見聴取

学区内保護者世帯への郵送による意見聴取／期間（3/10～3/31）

- 「学校のあり方を考える会」の考えに反対する意見なし。



北条地区 町内会役員への説明・意見交換

令和5年6月26日（月）午後2:00～3:00 市役所4号館会議室

- 保護者との意見交換結果を把握（再編案の公表後、住民説明会等の実施を協議）
☞ 全区長宛に現況報告を文書で通知

【 第 2 テーマ 】「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換

（検討期間／令和 5 年 11 月～令和 6 年 6 月）

学校のあり方を考える会
結 論
同素案に対して賛成（保護者委員全員）
各委員の意見（理由等）
○ 子供の人数を見ても、このような形が望ましい。（多数意見） ○ 反対する合理的な理由もない。 ○ 遠方からの通学者が増えるため、有事の際を含め、学校周辺の交通安全対策に留意して欲しい。（意見多数） ○ 早めの再編を望んでいる方々に対する（学校を変更する）許可等を、柔軟に対応して欲しい。 ○ 学童クラブの充実（定員増）と合わせて、子供たちが孤立化（分断）しない取組を目指して欲しい。 ○ P T A のあり方など、統合校同士で仕組みが違う部分が多々あると思う。それらについて混乱などが起き、親の都合（考え）で子供が分断されないようにして欲しい。再編に向け様々な準備が必要であり、それらの期間についても十分な配慮が必要。 ○ スクールバス通学（遠距離地区）では、下校時に遊びながら帰るということが無くなり、その辺の懸念も考えられる。 （地域代表意見） ○ 北条幼稚園（こども園）と小学校の連携を図って頂きたい。 ○ 地区のこども会も人数が減少しており、運営に苦慮している。再編に伴い学区が広がることで様々な可能性も考えられる。



その他保護者意見（現小学校保護者・未就学児保護者）
✓ 令和 6 年 2 月 20 日（火）午後 7:00～8:30 北条小体育館 意見交換会 （参加者 12 名） ✓ 令和 6 年 2 月 20 日～3 月 10 日 意見聴取期間

● 素案全体に対する意見（個人単位） なし

（その他意見／個人単位）

- 学校教育では、人間関係の構築を学ぶこと大事であり一定規模での環境が必要。子供にとっての１年と大人の１年では違うので、よりスピード感を持って再編を進めるべき。
- これらの学校再編を通じて館山市でもより良い教育環境があることを対外的に出せれば、市にとっても良いセールスポイントにもなる。
- 小規模特認校について、確固たる意志を持って学校を作りブランド戦略を行っていければ、市の大きな財産になると思う。
- 新たな学校は、現在それぞれの学校で実施している良い所を活かし、更に良い学校を一緒に作っていきたいです。
- 豊房小跡地にできる不登校支援センターですが、形だけにならないで欲しい。より支援の充実を図れるよう努力して欲しい。



北条地区住民との意見交換会

令和６年６月３日（月）午後 7:00～8:30 北条小学校体育館／参加者 9 人

※ 意見聴取期間（6/3～7/10）

- 保護者からの意見を見て、やはり再編はしていくべきだと感じた。初めて小規模特認校の話を聞いて良い案だと思った。このまま進んで欲しいと思った。
- どのような意見が出るのかを聞きたく参加した。参加者が少ないのは、この素案に賛成だからではないかと思う。
- 児童数の多い学校になると、教員の負担、目が行き届かなくなるのではないかと心配な面がある。馴染めないことで不登校の児童が増えるのではないかと懸念もしている。
- 少人数・小規模の教育を受けたいという保護者の意見により、それに対しスクールバスを出すことが（予算化すること）公平と言えるのか。また、希望者が殺到した場合、クラス数が増えて先生方の負担になるのではないか。教育環境等を、そこまで市に要求するのは行き過ぎではないか。極端なことを言えば、反対している地区は学校を私立にし、運営してもらえばいいと思う。
- 少人数の方が仲良く学校生活を送れているといった意見も散見したが、逆に粗暴な子供が入学する場合もある。必ず平和で仲良く教育が受けられるのも間違いだと思う。
- 小規模に限らず地域に学校を残したいという意見もあり、小規模である必要があるのかは疑問に残る部分

館山地区

(協議記録)

日 付	内 容
令和 4 年 6 月 24 日	保護者・地区住民説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について	
令和 4 年 11 月 10 日	第 1 回「学校のあり方を考える会」 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和 4 年 12 月 22 日	第 2 回「学校のあり方を考える会」 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和 5 年 2 月 9 日	第 3 回「学校のあり方を考える会」 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和 5 年 3 月 10 日	保護者意見聴取（令和 5 年 3 月 31 日まで意見聴取期間）
令和 5 年 6 月 1 日	第 4 回「学校のあり方を考える会」 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和 5 年 6 月 6 日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和 5 年 7 月 6 日	館山地区（区長会）にて保護者意見の説明・意見交換
【 第 2 テーマ 】 「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換	
令和 5 年 11 月 9 日	第 5 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見交換）
令和 5 年 12 月 7 日	第 6 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見集約）
令和 6 年 2 月 9 日	保護者意見交換会（PTA 役員）
令和 6 年 2 月 21 日	保護者意見交換会（3 月 10 日まで意見聴取） ※ 不参加の保護者へマチコミメールにて意見聴取実施
令和 6 年 3 月 21 日	保護者通知（素案に対する意見聴取結果を保護者宛て周知）
令和 6 年 6 月 17 日	地区住民意見交換会
令和 6 年 7 月 9 日	館山地区（区長会）にて地区意見交換会の結果説明・意見交換

「館山地区学校のあり方を考える会」

■ 委員 6 名（小学校保護者 3 名・未就学児保護者 2 名・地区代表 1 名）

【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について

(検討期間／令和 4 年 10 月～令和 5 年 7 月)

(協議内容)

- ✓ 現状の学区を分割して、学年当り単一学級となる小規模学校での教育環境を望む(最低限の 1 学年 15 人，小学校全体で 90 人規模)
- ✓ 現状と同様に、将来に渡りクラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

(協議結果／「学校のあり方を考える会」保護者委員意見)

結 論
将来に渡りクラス替えができる学校規模を望む
理 由
● 標準規模校・小規模校のメリット・デメリットを比較し考えても、クラス替え可能な規模（標準規模校）の方が良い。 ※ 多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。
各委員の意見（将来に渡りクラス替え可能な規模を望む意見）
○ 集団で行う教科（体育・音楽など）を考えても、同学年の人数は多い方が良い。 ○ 現在の学年 2 クラス規模よりも 3 クラス程度あった方が良い。理由は、子供の交友関係を広げることが可能性を伸ばすことに繋がると思う。 ○ 人数は多ければ多い方が良いと感じる。理由は、交友関係を含め子供自身が選ぶ選択肢が広がった方が、子供の成長のために、良いと思うから。 ○ 学校は子供達が（勉強だけでなく）、社会性を学ぶ場であると思う。そのために、子供同士が様々な関わり合いが持てる学校環境を提供してあげたい。 ○ 館山幼稚園の役員ともこの議題について話し合いを行ったが、市の財政面（市民負担）を考えても、小規模な学校を何校も運営するよりも、学校再編を行い一定規模の学校を運営する方が、教育環境の質が高まるとの意見があった。 また、いずれ館山中学校で同級生が一緒になることを考えても、小学校の段階から交流を持ち、関わりを深めた方が、子供のためにも良いとの意見があった。
各委員の意見（現状よりも小規模を望む意見）
○ 支持する意見なし



館山小学校及び学区内未就学児保護者からの意見聴取
学区内保護者世帯への郵送による意見聴取／期間（3/10～3/31）
○ 「学校のあり方を考える会」の考えに反対する意見なし。



館山地区 区長会への説明・意見交換
令和5年7月6日（木）午後3:00～4:00 館山地区公民館
○ 保護者との意見交換結果を把握（再編案の公表後、住民説明会等の実施を協議）

【 第 2 テーマ 】「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換

（検討期間／令和 5 年 11 月～令和 6 年 6 月）

学校のあり方を考える会
結 論
同素案に対して賛成（保護者委員全員）
各委員の意見（理由等）
○ 一定規模の子供の人数が確保される案であることに加え、小規模の学校教育を選択することも可能となっており賛成する。（意見多数） ○ 子供達のことを考えると、少ない人数で制限がかかった状態より、多くの子供たちと触れ合い色々な感情を味わい、楽しかったり悔しがったりする、そういった経験をさせてあげたい。 ○ 小学校高学年となると、色々難しい年頃になってくるので、統合までの準備期間に交流行事をして欲しい。（馴染みやすい環境づくり） ○ 高学年になるにつれ、性格が合う子・合わない子も出てくると思うので、この程度の規模が維持できることが、子供にとっても良いと思う。 ○ 一定の人数規模の下で、鬼ごっこ・リレーをする姿を見ると生き生きして、凄く楽しそうであり、そのような遊び・体育を経験させていきたい。 ○ 館山小学校の児童が多い野球チームに参加したら同級生が非常に少なかった。分母が少ないとそのような状況になってしまうと実感している。同学年の仲間がスポーツをやっている、やっていないで子どもの気持ちも変わってくると思う。 ○ 不登校や発達支援機能を充実させていく考えも良いことだと思う。 ○ 使用する校舎（現：館山小）を充実させて頂けるのも良い。 ○ 通学バスが混雑している状況なので、他地区から更に増えることが懸念である。安全に通学出来るような取組をして欲しい。



その他保護者意見（現小学校保護者・未就学児保護者）
✓ 令和 6 年 2 月 21 日（水）午後 7:00～8:30 館山小体育館 意見交換会 （参加者 3 名） ✓ 令和 6 年 2 月 21 日～3 月 10 日 意見聴取期間 ● 素案全体に対する意見（個人単位） ☞ なし

(その他意見／個人単位)

- 小規模特認校への通学支援（スクールバス）の乗車時間が最長 60 分は長いので、30～40 分ぐらいであれば、更に保護者の選択肢に入ってくるかと思います。
- 学校規模の人数が増えると、ナーバスな子は学校に行きづらくなるケースもあると思うので、その辺のフォローをして欲しい。



館山地区住民との意見交換会

令和 6 年 6 月 17 日（月）午後 7:00～8:30 館山小学校体育館／参加者 5 人

※ 意見聴取期間（6/17～7/10）

- 館山小のグラウンド改修は以前から要望していた。水捌け、石・釘が散見されるので改修をお願いしたい。
- プールについては、海をぜひ活用してほしい。私たちの時代は海で泳いでいたが、今の子は海遊びをしない。海の町でもあるため活用について検討して欲しい。
- 学校再編を行っても 1 学級から 2 学級に増えるぐらいならば、フリー学区を取り入れても良いのかなと思った。
- 再編が進むなかで、空き施設の活用について売却・貸出を検討して欲しい。それらの売却益を活用して市民が望む温水プール等の建設を進めて欲しい。
- 東京から自然豊かな地で子育てしたいという想いで館山へ引っ越してきたが、子供たちものびのび育ってくれた。小学校 2 クラスから館山中学校へ進み、不安もあったが友達も増え、楽しそうに過ごしている。友達が増えることは学校生活が潤っているように見える。子供たちのことを考えて作成しているこの素案のまま進めて欲しいと思う。
- 子供たちが安心・安全に登下校出来る環境を整えて欲しい。

西 岬 地 区

(協議記録)

日 付	内 容
令和 4 年 6 月 30 日	保護者・地区住民説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について	
令和 4 年 10 月 21 日	第 1 回「学校のあり方を考える会」 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和 4 年 12 月 2 日	第 2 回「学校のあり方を考える会」 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和 5 年 1 月 20 日	第 3 回「学校のあり方を考える会」 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和 5 年 3 月 3 日	保護者説明・意見交換会（PTA役員会への事前説明）
令和 5 年 3 月 24 日	保護者説明・意見交換会（令和 5 年 4 月 10 日まで意見聴取）
令和 5 年 5 月 12 日	第 4 回「学校のあり方を考える会」 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和 5 年 5 月 16 日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和 5 年 6 月 9 日	西岬地区（区長会）にて保護者意見の説明・意見交換
令和 5 年 6 月 15 日	西岬地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）
【 第 2 テーマ 】 「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換	
令和 5 年 11 月 17 日	第 5 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見交換）
令和 5 年 12 月 14 日	第 6 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見集約）
令和 6 年 1 月 31 日	保護者意見交換会（2 月 20 日まで意見聴取） ※ 不参加の保護者へマチコミメールにて意見聴取実施
令和 6 年 3 月 21 日	保護者通知（素案に対する意見聴取結果を保護者宛て周知）
令和 6 年 6 月 7 日	西岬地区（区長会）にて保護者意見の説明及び地区説明会周知
令和 6 年 6 月 16 日	地区住民意見交換会

「西岬地区学校のあり方を考える会」

■ 委員 8 名（小学校保護者 3 名・未就学児保護者 2 名・地区代表 3 名）

【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について

(検討期間／令和 4 年 10 月～令和 5 年 6 月)

(協議内容)

□ 保護者として考える望ましい学校規模について

✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。

✓ 1 学年単学級での教育環境を望む。

[市が示す最低限の学校規模（1 学年 15 人，小学校全体 90 人）以上]

✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

(協議結果／「学校のあり方を考える会」保護者委員意見)

結 論
クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む (付帯意見) ※ 子供達の交友関係を広げるためにも、可能な限り早い時期での学校再編を望む。 ※ 再編後の学校規模は、1 学年 5 クラス以上となるような規模ではなく、国が示す標準規模程度が最適だと思う。
理 由
● 多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。 ● 更なる少子化を見据え、決断するならクラス替え出来る規模での再編を行わないと、将来世代が同じ議論をすることとなる。
各委員の意見（クラス替え可能な学校規模を望む意見）
○ 子供に一定規模での集団生活を経験させることで、多様な意見・経験に触れさせ、より多くの人間関係を築き上げて欲しい。【多数意見】 ○ 小規模な再編では、近い将来にて子供達にとって同じ課題が発生してしまう。更なる少子化は避けられないため、このような機会にクラス替えが出来る学校規模に再編すべき。【多数意見】 ○ 私が小学校の時は、1 学年 30 人程度の規模であり、そのぐらいの規模感でも良いと思うが、仮にその規模感での学校再編を行ったとしても、更なる少子化により、再度子供達が少人数での学校生活を送ることとなる。よってクラス替えが可能となる学校再編を望みます。 ○ クラス替え可能な規模での子供へのメリットが魅力的と感じた。また、現場の先生が説明してくれたように、先生方の指導力向上（教科担任制・教員間での切磋琢磨）も図られ双方にとっても良いと思う。 ○ 1 学年単学級であれば、いずれ市が示す最低ラインの 1 学年 15 人程度となる学年も発生し、そうした時の男女比率の偏りが保護者として心配である。 ○ 1 学年の人数が多すぎる学校再編（5 学級以上）は、望んでいない。子供への目が行き届かなくなる懸念があること、親が子供の友人（家庭環境を含め）を把握できなくなることが心配

- 今の小学校規模では、行事や運動会などに競いがいがないと感じる。
- 自分が小学校の時、クラス替えにより新しい友人が出来ることを楽しみにしていた。
- 小学校時代に友人の親の顔を覚えていて、大人になっても親を含めた交流もあり、そのような関係性が築けるような学校規模（学年2～3クラス）が良いと思う。
- 館山中に進学した長女を見て感じたことが一番大きな理由であり、先生方の目が行き届かなくなるのはあるかもしれないが、まだ1年も経ってないのに友人がたくさん出来た。同じクラスでない子供とも新たな友人関係を築いている姿をみると、学校規模は大きければ大きいほど良いと思う。
- P T A 活動の負担軽減にも繋がる。

各委員の意見（複式学級の学校規模でも良いので地域に学校を残して欲しい意見）

- 意見なし。



西岬小学校及び学区内未就学児保護者への説明・意見交換会

令和5年3月24日（金）午後7:00～8:00 西岬小学校体育館／参加者8人
※ 意見聴取期間（3/24～4/10）

- 「学校のあり方を考える会」の考えに反対する意見なし。



西岬地区 区長会への説明・意見交換

令和5年6月9日（金）午後11:00～12:00 休暇村館山会議室

- 区長会として、保護者の方々が出された意見を尊重する。
☞ 地区回覧版により保護者意見について区民へ現状を配布

【 第 2 テーマ 】「館山市立小中学校再編計画」(素案) に対する意見交換

(検討期間／令和 5 年 11 月～令和 6 年 6 月)

学校のあり方を考える会
結 論
同素案に対して賛成（保護者委員全員）
各委員の意見（理由等）
○ 特に反対する理由が無い。（意見多数） ○ 小規模の学校に通わせたい保護者もいると思うので、小規模特認校を設置するのも良い。（意見多数） ○ 西岬の人たちは館山小と一緒にいたいという声が多かったので、皆の希望通りになっていると思う。 ○ スクールバスの乗車時間をなるべく短くする工夫をして欲しい。 ※ 特に小学校低学年の子供たちのことを考慮して ○ 西岬地区の遠方者（平砂浦方面）を考慮して、学校の開始時間を柔軟に考えて欲しい。 ※ 始発時間があまり早くならないように ○ 学童クラブの充実をお願いしたい（受入人数） （地域代表意見） ○ 周りの方々とも学校再編の話が（少し）出たが、反対という人はいなかった。 急激な少子化の中で他の選択肢がないという感じであった。 ○ 学校のあり方については、主役は保護者と子供たちだと考えている。 ○ 学校跡地の利活用について、地域住民を含めて考えて欲しい。



その他保護者意見（現小学校保護者・未就学児保護者）
✓ 令和 6 年 1 月 31 日（水）19:00～20:30 西岬小体育館 意見交換会（参加者 3 人） ✓ 令和 6 年 1 月 31 日～2 月 20 日 意見聴取期間
● 素案全体に対する意見（個人単位） ➡ なし

(その他意見／個人単位)

- 現在の低学年の子供達は、統合の頃に高学年となり思春期を迎える中での再編となるため、その辺の児童の心のケアなどに配慮して欲しい。
- 学級規模が大きくなると、授業中おしゃべりが多く、授業を受けたいのに受けられないということも聞く。学校の全体数が少なくなる分、担任以外のサポートの先生を入れるなど、授業環境が良くなるような環境作りをして欲しい。
- 西岬小は海洋学習があり、子供達も魚に詳しくなり楽しみにしている。再編後にもそういった行事（教育）を残して欲しい。
- 合併後のクラス編成は、小規模校の友人関係等を考慮しての編成にして欲しい。
(館山中の進学時にクラスに知り合いが居ることで、とても勇気づけられた)
- 館山小のグラウンドの水捌けの悪さが気になる。北条小のように水捌けが良くなるよう整備して欲しい。



西岬地区住民との意見交換会

令和6年6月16日(日) 午後2:00~3:30 西岬小学校体育館／参加者5人

※ 意見聴取期間(6/16~7/10)

- 再編して子供達が増えるのであれば、放課後子供教室も文科系・運動系に分けてもいいのかと考えている。
- 学校再編計画に関して、基本的には反対の立場です。文部科学省は、学校は地域コミュニティの中心であり、地域づくりと密接不可避であると言っている。
- 再編計画に関して、保護者の意見が少ないように感じる。
- 私は地域の検討会に参加しましたが、保護者の皆さんには主役は子供・保護者であること、気を遣わずに意見するようにと伝えました。保護者は、再編に関して否定的な意見は無く、ポジティブで早く実現することを強く望んでいた。
- 子供たちの率直な意見はどうなのか。子どもの権利条約があるが、保護者・子供両方の意見が大切ではないか。
- 子供数の予測値を見ると、更に減少する予測だが、増えることを考えたい。子育て世帯を増やすために教育環境は重要だと感じる。今回の再編案は、未来を見据えてよく考えられており、地域としても協力していきたいと思う。

房南地区

(協議記録)

日 付	内 容
令和 4 年 7 月 3 日	保護者・地区住民説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について	
令和 4 年 10 月 26 日	第 1 回「学校のあり方を考える会」 (組織規約の決定、意見集約化の手法検討)
令和 4 年 12 月 7 日	第 2 回「学校のあり方を考える会」 (学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など)
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和 5 年 2 月 3 日	第 3 回「学校のあり方を考える会」(保護者委員／意見交換)
令和 5 年 3 月 28 日	第 4 回「学校のあり方を考える会」(保護者委員／意見集約化)
令和 5 年 4 月 21 日	保護者説明・意見交換会（PTA 役員会への事前説明）
令和 5 年 5 月 26 日	保護者説明・意見交換会（令和 5 年 6 月 9 日まで意見聴取期間）
令和 5 年 6 月 27 日	第 5 回「学校のあり方を考える会」 (意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定)
令和 5 年 7 月 12 日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和 5 年 8 月 5 日	神戸地区（区長会）にて保護者意見の説明・意見交換
令和 5 年 8 月 15 日	神戸地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）
令和 5 年 8 月 17 日	富崎地区（区長会）にて保護者意見の説明・意見交換
令和 5 年 8 月 21 日	富崎地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）
【 第 2 テーマ 】 「館山市立小中学校再編計画」(素案)に対する意見交換	
令和 5 年 11 月 14 日	第 6 回「学校のあり方を考える会」(素案に対する意見交換)
令和 5 年 12 月 19 日	第 7 回「学校のあり方を考える会」(素案に対する意見集約)
令和 6 年 2 月 8 日	保護者意見交換会（2 月 29 日まで意見聴取） ※ 不参加の保護者へマチコミメールにて意見聴取実施
令和 6 年 3 月 21 日	保護者通知（素案に対する意見聴取結果を保護者宛て周知）
令和 6 年 5 月 16 日	富崎地区（区長会）にて保護者意見の説明及び地区説明会周知
令和 6 年 6 月 23 日	地区住民意見交換会

「房南地区学校のあり方を考える会」

■ 委員 10 名（小学校保護者 3 名・未就学児保護者 3 名・地区代表 4 名）

【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について

(検討期間／令和 4 年 10 月～令和 5 年 8 月)

(協議内容)

□ 保護者として考える望ましい学校規模について

- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
- ✓ 1 学年単学級での教育環境を望む。
[市が示す最低限の学校規模（1 学年 15 人，小学校全体 90 人）以上]
- ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

(協議結果／「学校のあり方を考える会」保護者委員意見)

結 論
① 小学校・中学校共に、クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む ※ 小学校は、国が示す標準的な学校規模（1 学年 2 ～ 3 学級）を超えるような再編は望まない。 ② 市全体の学校再編を進めるなか、小学校に関しては、保護者・子供の「選択肢」として市内に小規模校を残す必要性がある。 ※ 小規模校であっても、長期間の学校生活において、人間関係・社会性を育むため、市が示す最低限の学校規模（学年 15 人以上）を確保すべき。それらの確保が困難な場合（複式学級規模含む）、その地域の保護者・子供がその学校に通学させなくなる可能性がある。 ※ なお、小規模校として学校が存続した地域の保護者・子供にとって「標準学校規模」への通学支援（スクールバス運行等）は、公平性の観点から他地域同様に実施して欲しい。
理 由
① より多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。 （人間関係の固定化回避） （新たな人間関係を構築する機会を、小さなうちから経験させたい） （複式学級での教育環境を回避させたい） ② 多様性を尊重する現代社会や、学校環境を変える必要性が発生した場合（人間関係・不登校など）において、保護者・子供に「選択肢」を残す必要性がある。
各委員の意見 （①：クラス替え可能な規模での学校再編を望む意見）
【 小学校のあり方に関する事項 】 ○ 自分の子供を複式学級に通わせることを避けたい。【多数意見】 （デメリットが多い：授業環境・多様な経験・教員負担など） ○ クラス替えができない場合、人間・交友関係が固定化されてしまう。【多数意見】 ○ 他の学校（標準規模）と指導方法や多様な経験値などでの差が生じてしまう不安がある。 ○ 私自身、旧神戸小・房南中を卒業したが、クラス替えを経験出来なかった。高校へ入学して規模感に衝撃を受け、高校に馴染めなくて退学した同級生も複数いた。小さい年代から、多くの同級

生に触れあっていた方が良いと思う。

- 子供は、房南こども園～中学校の10年以上同級生が変わらない環境で過ごしてきたが、高校での様子を見ると、新しい人間関係を築くことに苦勞をしている状況が見て取れる。子供が高校生になる前は、房南学園の良さを感じていたが、このような会議に参加して様々な角度から子供にとって最善なのは？と考えると、小さなうちから一定の集団生活の中で友人関係を築く力を身に付けさせることが必要だと思った。
- 中学・高校といずれは、一定の集団規模で学校生活を送ることとなる。その時に（向き不向きがあると思うが）集団生活に馴染むことが出来るのか？小学校6年間をあまりに小さな規模で過ごした後のことを考えると、保護者として率直に不安な気持ちがある。
- 小学校では、人間関係・社会性を学ぶことが一番重要だと考える。人間関係を学ぶためには、最初は同学年（同級生）とのコミュニケーションから始まり、異年齢（前後の年代）へ繋げていくものであり、色々な人間、様々な考え方に触れさせるべきと思う。それらの過程・経験が、子供自身の考え方・視野が広がる一助となるのであって、そのためにはクラス替えが出来る規模の環境が良いと思った。
- グループ活動や運動遊びをするときも、人数が多い方が充実し幅も広がる。
- 人間関係がこじれた際、逃げ場があるという環境（クラス替え）を用意することが良いと思う。
- 人数が少ないために、子供達がやりたいことを経験させてあげられない（例：ドッチボールなどの集団競技）のは良くないと思う。また、お互いをよく知りすぎていて喧嘩が少ない。自分がちょっと我慢すれば・・・で終わってしまう。色々な人と接して、時にはぶつかり自分の思い通りにならない場合への対処（折り合いをつける）、それらを学ぶことが大切だと思う。
- 子供にコミュニケーション能力を高めて欲しい。小さいうちから色々な同級生と交友を持てる環境下で、トラブル・喧嘩などを含め様々な経験をさせてあげたい。6年間で少人数で仲良く過ごすことは、その時は良いかもしれないが、中学・高校では必ずそれらのトラブルや問題に当たることもあり、その時は既に思春期に入っているため、より深い悩みに繋がると思う。小学校低学年のうちから、色々な同級生などと交わり、解決方法を学ぶ力・自分の性格に合う友達を自分で探す力・友達の間に入る力、それらを身につけさせたい。
- 規模が小さいと子供の個性が目立ってしまう。良い目立ち方もあるれば悪い目立ち方もある。基本的には、個性なので良い・悪いはないと頭では理解しているが、もう少し学校規模が大きければ、「こういう人も考え方もあるのだ」と、子供自身が気づき・知ることができると思う。少数意見かもしれないが、そういう事を思っている保護者がいることを理解して欲しい。
- 特別な支援を要する子供達同士でのコミュニティ形成の必要性を考えるべきと思う。
 - ※ 保育士の経験からも、今では、特別支援学級に行く児童もかなりの確率で発生している。学校規模が少なく母数が限られると、同級生で特別支援学級に在籍する同じ境遇の子がいない場合も発生してしまう。子供の気持ちに沿った細やかな配慮という意味でも、一定の学校規模が必要だと思う。
 - ※ 同学年で1人だけ特別支援学級へ在籍する場合よりも、北条・館山小規模のように、新入生50人のうち5～6人で特別支援学級や教科によりクラス移動するような環境の方が、その子供にとっても良いと思う。（僕一人だけ？といった環境ではなく、あの子もこの子もいるような環境を子供に与えた方が良い。）
 - ※ 保護者にとっても、保護者間（同じ境遇）で相談し合える環境にも繋がる。
- 房南学園の体験入学時に現在の2年生（20人以上）が新入生の世話をしていたが、新入生は同

学年が少人数（８人）であり子供が気後れしていたように感じた。一方、20人以上いる学年の子供達は楽しそうだった。今回の協議に参加させて頂いて、最初は複式でも地域に学校を残した方が良いと思っていたが、子供の教育環境として他の保護者の考えを含め色々なことを考えると、学校を再編することに納得している。

- 大規模校ではなく２～３クラス程度（国の標準規模）が、規模的にも良いと思う。

【 中学校のあり方に関する事項 】

- 学年１桁の人数では、あまりにも規模が小さすぎ、速やかに学校再編すべき。【多数意見】
- 中学校は３年間しかない。社会に出る前の最後の（義務）教育であり集団生活・部活動のことを含め、一定規模が必要と考える。
- 中学校は、館山に１つでも良いと感じる。（新規建設中の館山中に）
- 今後の推計値を見ると、中学校を存続させることは子供にとって良い環境（学校運営・部活動）とは思えない。自分の子供がやりたい部活が無い場合、学区外に通うこととなる。
- 現在でも、ぎりぎりの人数で部活動を行っており、１人の生徒の体調不良でチーム全体が大会に出場できない状態である。怪我をした子供が無理をしている状況もあり、かかるプレッシャーも大きくなっている。

※ 房南地区では他の地区より協議日程が遅くなったことから、他地区の状況を踏まえ、市内に小規模校を残すことの必要性について、検討した結果、追加意見として纏めたものです。

各委員の意見（②：市内全体の学校再編を見据えた小規模校の必要性）

- 市全体の学校再編の中で、複式学級ではない単一学級規模の学校を市内に残すことも必要とも思う。（１学年１５人以上）【多数意見】
- 小規模校といっても、複式学級規模であれば保護者としてその学校には通わせない【多数意見】
- 多数集団に馴染めない、学校を変えなければならない突発的な事が発生したとき、別の受け皿があることは保護者としてありがたい。【多数意見】
- 特色を極め入学したいと思う児童も増やしていければ良い。
- 小規模校を残す場合の設置場所については、地域性・地域資源などを踏まえて検討して欲しい。
- 小規模校が残る地域の保護者にとって、標準規模校 or 小規模校で、保護者同士の板挟みになってしまうのが心配（標準規模校に通わせたいが、そうすると更に人数が減ってしまう）

各委員の意見（学校再編を望まない意見）

- 子供が少なくても、子供達は少ないながらも工夫して楽しんでいる。
- 保護者と学校の連携も密になるため信頼関係も生まれており、保護者間同士もどこの誰だか認識し合っているため安心感がある。
- 子供を見ても、２０人程度のクラスだが喧嘩もなく、親同士の付き合いを含めて仲もよい。
- 中学校を含め先輩後輩の付き合いなど、社会性を学んでいると感じる。
- 房南から転校していった子がいたが、大きな規模の学校が合わずに戻ってくる子もいた。小さな学校を残すことも考えるべきと思う。
- 地域産業の維持としての観点から考えると、学校は地域に残した方が良いと思う。
- 集団で揉まれるメリットもあるが、マンツーマン指導に近いほど、先生の直接的な指導時間が増

えるため学力は向上する。(持論ですが)

- 小学校は、自宅から歩いて通える距離が良い。地域の自然・景色に触れ合い、道草しながら登下校すること、それらの原体験が一番大切なことだと思う。小・中学校は小規模で、高校からクラス替え規模となっても1～2カ月すれば環境に慣れると思う。小さな年齢で育まれる感性は、後では身につかないことでありそこを一番重要視したい。
- 房南学園の特色(小中一貫校)をもっと打ち出し、他の地域から子供が通ってきて学校を維持できれば一番良い。
- 房南地区は本当に良いところだと思っている。少子化のなかで子供の教育環境に着目すると学校再編は致し方ないとは理解できるが、教育上の支障が低い一定の規模がある間は、可能な限り小学校を存続して欲しい。



房南小学校及び学区内未就学児保護者への説明・意見交換会
令和5年5月26日(金)午後7:00～9:45 房南学園体育館／参加者16人 ※ 意見聴取期間(5/26～6/9)
○ 仮に統廃合となった場合、房南学園の施設は新しく、市民の税金の使い道としてもこの施設を上手に活用して頂きたい。 ○ 社会的養護を必要とされている子供のことも考えて欲しい。 ※ 特別支援学級に在籍している子供以上の過去や経歴を持っていることもあり、小規模ではなくクラス替えが発生する環境(発達段階により異なる状況に置かる)に耐えうる事が出来るのか心配な面があるため。 ○ 房南地域の特性を考慮すると、地域の学校が無くなることに対する違和感が強い ※ 安房特別支援学校・中里の家・児童養護施設が地域内に点在しており、地域の住民(大人)を含め、子供が多様性を学ぶ環境としてはベターな環境下にある ○ 市内に小規模校を残した方が良い。多数の保護者意見を尊重し学校再編を実施すると、市内から1校も小規模校が無くなることも予想され、保護者・子供の選択肢が無くなってしまう。不登校・発達支援機能そこまでいかないまでも、子供の多様性に対する受け皿として小規模ながらも「学校」という機能を市内に残すことも必要だと考える。 ○ 小規模校が無いことは、移住者増加の可能性を低減させることとなる。



神戸地区 区長会への説明・意見交換
令和5年8月5日（土）午後7:00～7:30 （旧）神戸小学校職員室
○ 区長会として、保護者の方々が出された意見を尊重する。 ☞ 地区回覧版により保護者意見について区民へ現状を配布

富崎地区 区長会への説明・意見交換
令和5年8月17日（木）午後1:30～2:00 富崎地区公民館
○ 区長会として、保護者の方々が出された意見を尊重する。 ☞ 地区回覧版により保護者意見について区民へ現状を配布

【 第 2 テーマ 】「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換

（検討期間／令和 5 年 11 月～令和 6 年 8 月）

学校のあり方を考える会
結 論
同素案に対して賛成（保護者委員全員）
各委員の意見（理由等）
○ 今後の子供の数からも、これが最善だと思う。（意見多数） ○ この素案は、先のことまで細かく考えていると思う。 ○ 様々な角度から多くの方の意見を聞いたうえで、小規模校を残すということも良い。 ○ 偶然かもしれないが、地域に学校が残って欲しいという思いが実現したことも一因 ○ これから大変だと思うが、新しい方向に向かっていくという面に関しては、期待をしており、一緒に頑張っていけるのではないかと思います。 ○ スクールバスの乗車時間 60 分は長いと感じる。 ○ 他の学校も一気に再編（統廃合）するため、この 2～3 年は想像もできないくらい大変だと思う。 （地域代表意見） ○ 皆さんが納得でき、子供達のためになるようなものを作って頂きたい。 ○ 今後の児童数の推移を考慮したうえで、今はそこに向かう過渡期なので大変だとは思いますが、一つの形に落ち着けば子供達の順応性は高く、（私自身）学校の統廃合を何回か経験しているが、子供たちは直ぐ一つになるので驚いたこともある。 ○ 過日、房南の芸能祭があり子供達が多く出演してくれたが、学区が広くなれば、多くの子供達が集まることにもなる。それを踏まえ、地域もそういう意識で変わらなければいけないと思いました。 ○ 地域の人にとってもおらが学校と言うなら、地域と学校のつながりも（これまで以上に）考えていかなければいけない。

その他保護者意見（現小学校保護者・未就学児保護者）
✓ 令和 6 年 2 月 8 日（木）午後 7:00～8:30 房南学園体育館 意見交換会 （参加者 19 名） ✓ 令和 6 年 2 月 8 日～2 月 29 日 意見聴取期間

● 素案全体に対する意見（個人単位）

（中学校に関する事項）

○ 中学校の小規模校を残して欲しい。

※ 発達に課題がある子供や多数集団に馴染めない子供の受け皿として

※ 小中一貫型の学校を設置したのであれば、生徒数が減少しても残すべき

（小学校に関する事項）

○ 人数が増える事は良いと思うので、他学校も含めもっと一緒になっても良い気がする。

（その他）

○ 賛成。丁寧に考えられている案である。（多数意見あり）

○ 学校の選択肢（標準規模・小規模）が増え、とても良い案だと思う。

○ 発達支援に対する支援充実策（豊房小跡地／センター機能の充実）も良い。

○ もう少し再編成する学校のバランスを考えて欲しい。

（その他意見／個人単位）

（中学校に関する事項）

○ 中学校の統合が３年生の時期（高校受験等）となるため、希望する生徒・保護者は中学入学時より館山中を選択出来るようにして欲しい。（複数意見あり）

○ 統合時には、小規模校の生徒（クラス編成・制服の扱いなど）に対する配慮をして欲しい。（複数意見あり）

○ 中学校では、標準規模校（北条・館山）の子供達と一緒にになり、小学校時代の環境が異なるため、多数集団に慣れるまで時間を要することも予想されます。よって、子供たちが戸惑わないよう、小学校の在校中から学習や運動、遊びを中心とした交流などの取組を考えて欲しい。（複数意見あり）

○ 中学校の統合時に、仮に房南中に無い部活動に入部したときのユニホーム代などの補助をして欲しい。制服等についても学校が変わることで新たな負担が増えないようなことを考えて欲しい。

（小学校／小規模特認校に関する事項）

○ 房南学区への小規模特認校の設置は賛成。校舎機能・自然・災害影響を含めとても良い環境である。設置する際の受け入れ条件範囲を広くして頂きたい。

○ 学びの多様な受け皿があり、学ぶことが楽しい学校づくりに注力して頂きたい。

○ 皆さんの力で、市全体を盛り上げるような学校づくりを推進して欲しい。

○ 新たな小規模特認校には、市内各所から様々な悩みを抱えて入学してくる子供もいるかもしれません。それらを含め、学校の先生方が疲弊し、通常の教育活動に支障が出るようなことは避けて頂き、安定した学校運営が出来るような体制整備の構築を希望します。

○ 多数集団にも慣れさせるような行事・学習内容などがあれば、小規模の特性と合わせて複合的に教育内容が充実すると思う。

- 現在のスクールバス運行（房南地区）は、特認校になっても維持して欲しい。
- 現在の房南小学校への通学ルートも歩道が狭く危険性が高いうえ、代替えとなる畑の中の道もイノシシの危険性もある（洲宮地区）。よって、遠距離通学の支援エリアを広げて欲しい。

（その他）

- 市全体として、どのような教育理念をもって、小中9年間を見通したグランドデザインを描き、どのように房南小学校の子どもを育てていくのか。今後の検討内容となりますが各校任せではなく、市全体として「小学校で目指す子供像」や「中学校で目指す子供像」を共有した上で教育活動を展開して欲しいと願っています。子供ファーストの視点により、新しい魅力ある小学校・館山中を創り上げる、これからの夢のある展望を期待しています。
- 今後の決定事項については、学校行事の一つとして午後（早い時間）に説明会を開いて欲しい。
- 小規模学校ならではの特性について、具体化してお知らせして欲しい。
- 学校の維持運営費、少子化などの関係だと思いますが、自宅からわざわざ遠い学校に通わせるメリットが不明である。
- 人口を増やすため、市をあげて考えるようになれば良いと思う。
- 具体的な提示が欲しい。豊房小学校跡地を活用した、不登校や発達支援に対する充実強化の方法、小規模特認校における様々な経験など。
- 房南・神余地区では、地区全体で子供達を育てるという意識が高い。また、大人になってからも、皆が仲良く、協力し合っているのがわかる。他地区には無い独特な良い意味でのチームワークがあるため、それらを無くさないで欲しい。
- 学校再編に力を入れる前に、今の市内の学校教育の現状（教員と子供の各種トラブルなど）を、改善する努力をして欲しい。



神戸・富崎地区住民以外の方々の意見も多数あります

神戸・富崎地区住民との意見交換会

令和6年6月23日（日）午後2:00～4:00 房南学園体育館／参加者19人

※ 意見聴取期間（6/23～7/10）

- 学校再編、小規模特認校については賛成。再編前後に子供たちがどのように順応していくのか。学校では具体的にどのような取組をしていくのか、素案に記載されておらず不安である。再編する小学校、中学校同士で交流会のようなことが実施されるのか。房南小から房南中へ進学した子供はそういった経験が無いので、ぜひ実施して欲しい。
- 子供の内心まで考えた教育でなければ、不登校はもっと増えると思う。再編を進めると不登校児も更に増えると思う。
- 素案のポイントにある、財政負担の軽減による投資の選択と集中だが、使い道は保護者らの要望を取り入れて欲しい。ぜひ子供たちのために予算を投じてほしい。

- 房南小中一貫校の開校から6年で再編の計画が出たことは、見通しが甘かったと思う。今回も見通しが甘いのではないかと心配。不登校や支援が必要な子が増えているのは、時代背景や社会的なところも要因の一つだと思うが、そもそも今の子供たちに教育内容が合っていないからだと思う。学校再編を進めるのではなく、学習内容の充実に投資すべきだと思う。そういったことを考え直して欲しい。
- 房南小を小規模特認校として設置し、学区外からの人数を把握した後に、神余小を再編することを検討して欲しい。
- 小規模校では子供と教員の距離が近く、目が行き届くところが魅力的。今の房南小がそうであり、学校との信頼関係がある。小規模特認校にしたことで支援の必要な子が増えた場合、教員の目がそういった子に向けられ、今まで房南小で学んできた子供たちが、我慢する機会が増えるのではないかと懸念している。
- どこで教育を受けるかよりも、内容の方が大切であると感じる。学校再編を考えるのであれば、まずはそこを優先して考えて欲しい。
- 神余小に転校し、不登校気味だった子が学校に通うようになった。それは小規模の良さ教員との信頼関係があったからこそ。小規模（神余）の良さを売りにして、子育て支援・移住支援を充実させ、学校は存続させて欲しい。
- 小規模特認校は「地域から生まれてくる学校」であるべき。房南小保護者のアンケートは100%の回答をもらい進めていくべきだと思う。約6年前に小中一貫校を設立し今回は小規模特認校の設置。地元の方と協議を重ね、もっと丁寧に進めるべきかと思う。

房南地区における小規模特認校に関するアンケート調査結果

令和6年3月 教育総務課

(実施目的)

学校再編計画の素案における小規模特認校設置予定場所の房南地区にて、学校規模（人数）の予測を把握するため、現段階における保護者の意向調査を実施

(アンケート概要)

- 期間：令和6年2月8日～2月29日
- 対象：房南小学校の在籍児童保護者 及び 房南地区の未就学児保護者
- 手法：QRコード読取回答、メール、文書のいずれか
- 周知：地区説明会での直接依頼、マチコミメール、文書郵送

(アンケート項目)

- Q1：保護者氏名
- Q2：お子さんの学年
- Q3：小規模特認校への通学意向（いずれかを選択）
- ① 通わせたい ② 興味関心があるので、これから検討したい
- ③ 通わせたくない（標準規模校に通わせたい） ④ わからない
- Q4：Q3の選択理由（自由記述）
- Q5：学校再編計画の素案に対する意見

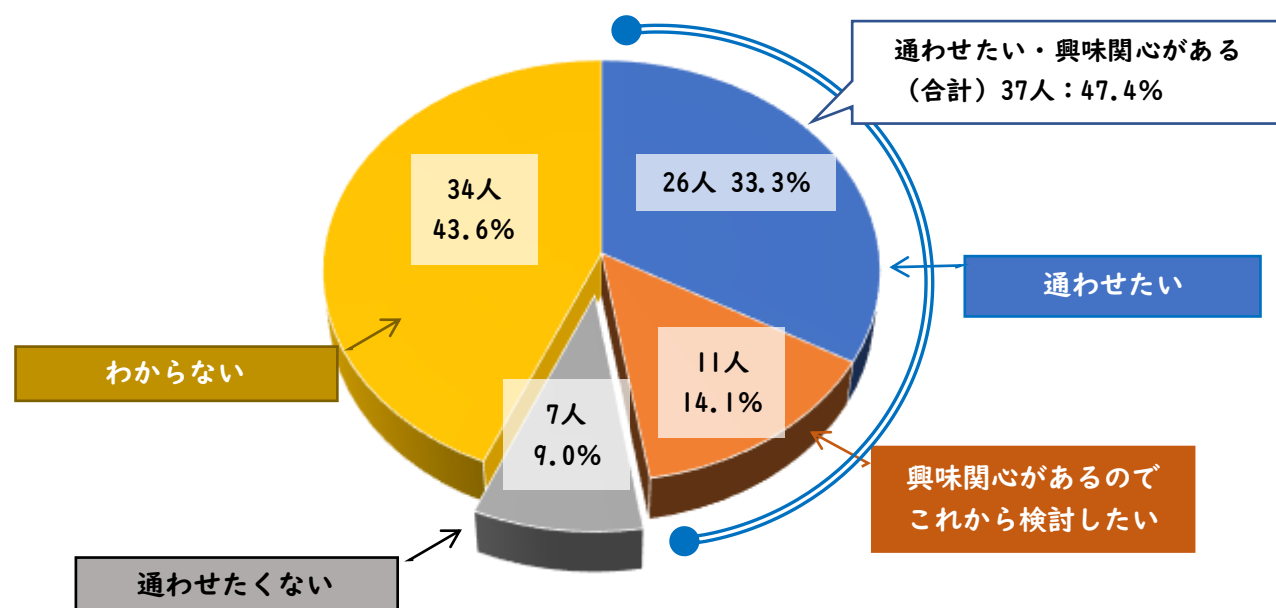
(対象者数・回答数)

	合 計	房南小学校							未就学児						
		小計	6年	5年	4年	3年	2年	1年	小計	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児
人 数	178	112	21	20	21	16	26	8	66	12	11	9	9	13	12
回答者	78	54	6	7	13	9	14	5	24	8	3	4	4	2	3
回答率	43.8%	48.2%	28.6%	35.0%	61.9%	56.3%	53.8%	62.5%	36.4%	66.7%	27.3%	44.4%	44.4%	15.4%	25.0%

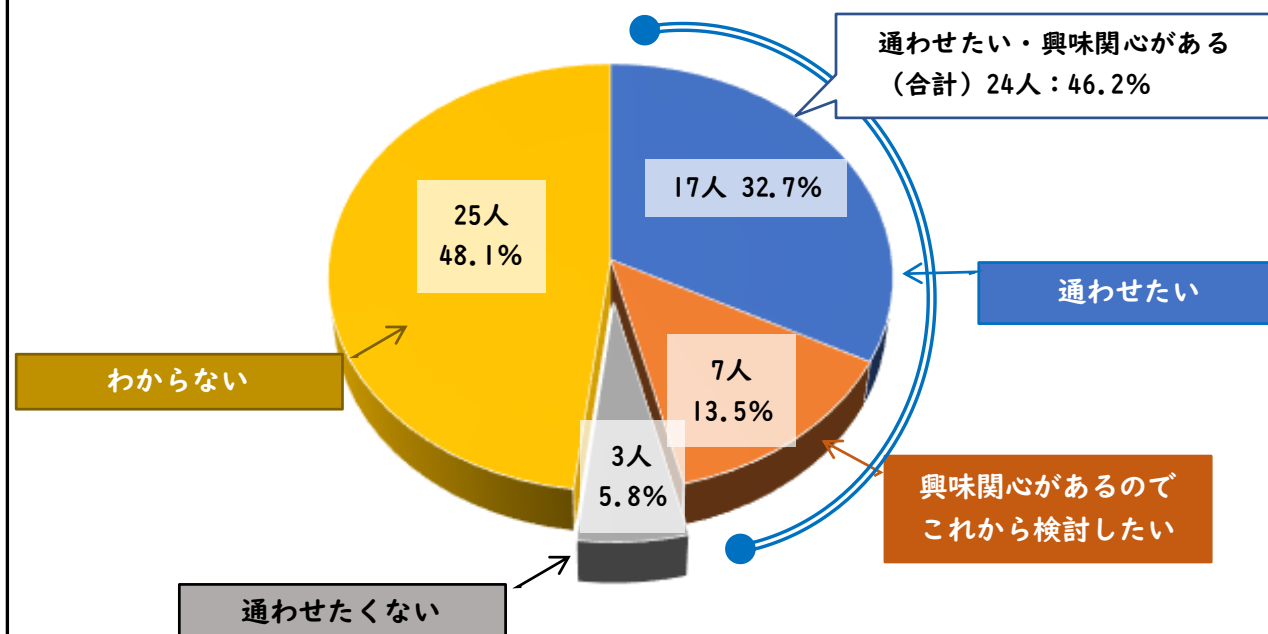
令和8年度（小規模特認校 対象世代） 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

(Q3：通学意向に関する回答)

小規模特認校への通学意向（全世代）



小規模特認校への通学意向（対象世代のみ）



(Q4：通学意向に関する回答を選択した理由)

「通学させたい」とした理由

- 小規模のメリットに対する賛同（多数意見）
 - ☞ きめ細かな学習・生活指導、温かい雰囲気、自己肯定感の育み、相談しやすい環境
小規模特認校への期待、人数規模（学年15～20人）に対する満足感 など
- 家から近距離であるため。（多数意見）

「興味関心があるので、これから検討したい」とした理由

- 小規模ならではの環境の良さ。
- 児童数の予測を見て判断したい。（多数意見）
 - ☞ 現在と同規模であれば通わせたいが、あまりに少なかった場合は標準規模校へ通わせたい

「通わせたくない（標準規模校へ通わせたい）」とした理由

- 一定規模の学校生活により、友人関係を学んで欲しい。
- 子供が標準規模校を希望しているため。

「わからない」とした理由

- 子供の意見を尊重したいので、現時点ではわからない（多数意見）
 - ☞ 友人の動向・関係性により子供がどう考えるのか？
- 小規模特認校の概要・教育内容など、もう少し説明を聞いた後に判断したい（多数意見）
- 小規模校・標準規模校、どちらにもメリット・デメリットがあり、現時点では判断できない（多数意見）
- 標準規模校・小規模特認校、それぞれの学校見学などを実施して欲しい。

【 小規模特認校への通学予測値（総括） 】

【 試算１ 】

○ 対象世代の通学意向において、明確な意思表示をした保護者の割合にて試算した場合

☞ 通わせたい 17人（85%）

☞ 通わせたくない 3人（15%）

（房南地区のみ）

	現3年	現2年	現1年	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児
児童数	16	26	8	12	11	9	9	13	12
通学予測値 (児童数×85%)	14	22	7	10	9	8	8	11	10

【 試算２ 】

○ 対象世代の通学意向において、「興味関心がある」・「わからない」とした保護者（32人）のうち、仮に『7割』が通学させるとなった場合

☞ 通わせたい 17人 + (22人=32人×0.7) ☞ 39人（75%）

☞ 通わせたくない 3人 + (10人=32人×0.3) ☞ 13人（25%）

（房南地区のみ）

	現3年	現2年	現1年	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児
児童数	16	26	8	12	11	9	9	13	12
通学予測値 (児童数×75%)	12	20	6	9	8	7	7	10	9

【 試算３ 】

○ 対象世代の通学意向において、「興味関心がある」・「わからない」とした保護者（32人）のうち、仮に『5割』が通学させるとなった場合

☞ 通わせたい 17人 + (16人=32人×0.5) ☞ 33人（63%）

☞ 通わせたくない 3人 + (16人=32人×0.5) ☞ 19人（37%）

（房南地区のみ）

	現3年	現2年	現1年	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	0歳児
児童数	16	26	8	12	11	9	9	13	12
通学予測値 (児童数×63%)	10	16	5	8	7	6	6	8	8

（Q5：学校再編計画の素案に対する全体意見）

☞ 各地区の保護者意見資料に記載

豊房地区

(協議記録)

日 付	内 容
令和 4 年 6 月 28 日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について	
令和 4 年 10 月 19 日	第 1 回「学校のあり方を考える会」 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和 4 年 11 月 30 日	第 2 回「学校のあり方を考える会」 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和 5 年 1 月 18 日	第 3 回「学校のあり方を考える会」 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和 5 年 2 月 21 日	保護者説明・意見交換会（PTA 役員会への事前説明）
令和 5 年 3 月 8 日	保護者説明・意見交換会（令和 5 年 3 月 31 日まで意見聴取期間）
令和 5 年 5 月 10 日	第 4 回「学校のあり方を考える会」 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和 5 年 5 月 16 日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和 5 年 6 月 18 日	豊房地区（区長会）にて保護者意見の説明・意見交換
令和 5 年 7 月 10 日	豊房地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）
【 第 2 テーマ 】 「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換	
令和 5 年 11 月 22 日	第 5 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見交換）
令和 5 年 12 月 20 日	第 6 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見集約）
令和 6 年 1 月 30 日	保護者意見交換会（2 月 15 日まで意見聴取） ※ 不参加の保護者へマチコミメールにて意見聴取実施
令和 6 年 3 月 21 日	保護者通知（素案に対する意見聴取結果を保護者宛て周知）
令和 6 年 6 月 15 日	地区住民意見交換会

「豊房地区学校のあり方を考える会」

■ 委員 10 名（小学校保護者 3 名・未就学児保護者 4 名・地区代表 3 名）

【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について

(検討期間／令和 4 年 10 月～令和 5 年 6 月)

(協議内容)

□ 保護者として考える望ましい学校規模について

- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
- ✓ 1 学年単学級での教育環境を望む。

[市が示す最低限の学校規模（1 学年 15 人，小学校全体 90 人）以上]

- ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

(協議結果／「学校のあり方を考える会」保護者委員意見)

結 論
クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む
理 由
● 多くの友人と様々な経験をさせてあげたい。 ● 自分達（保護者）も豊房小を卒業してきて、小さな学校規模の良さも理解できるが、昔と比べられないほど子供が少なくなっておりデメリットの方が多いと感じる。 ● 更なる少子化を見据え、決断するならクラス替え出来る規模での再編を行わないと、将来世代が同じ議論をすることとなる。
各委員の意見（クラス替え可能な学校規模を望む意見）
○ 小さい学校同士での小規模な再編では、近い将来にとって子供達にとって同じ課題が発生し、保護者も同じ議論をしなければならない。更なる少子化は避けられないため、このような機会を捉えてクラス替えが出来る学校規模に再編すべき。【多数意見】 ○ 地域の大人も減少しており、消防団も統合している状況。大人が減れば子供も減るのは当たり前であり、地域から学校が無くなることは寂しいが、このような会議を次の世代で再度行うことは、保護者にとっても負担が大きい。今回の機会を捉えて将来の子供達のためにも学校再編の決断をすべき。 ○ 現在、複式学級で授業を受けている自分の子供も、人数の多い学校に行きたいとの意見であり、保護者としても中学校を見据え多くの友達と長い付き合いをさせてあげたい。 ○ 勉強・スポーツいずれをとっても、多くの友達と関わって欲しい。 ○ 体育でドッチボールすら出来なくなってしまう、少人数でのかくれんぼ・・・楽しいと思えない。難しく考えるよりも、単純に同級生でのコミュニケーションが取れる人数の方が良いと思う。 ○ 今の豊房小をみても、人数が少なく保護者世代が普通に出来ていたことも出来なくなっている。子供の可能性を広げるためにも学校再編を行うべき。 ○ 友達付き合いが上手に出来る子供に育って欲しいため。 ○ 私（保護者）自身が、小学校に通っていた頃（20 年前）も、既に子供が少なくなっていた。中学校へ進学して人数が一気に増えて本当に楽しかった。

○ 複式でも地域に学校があれば、必然的にその学校に子供を通わせる保護者が大部分だと思う。子供達も豊房小があれば、そこに通うことについて疑問を抱かない。でも、小学生に入学する小さな子供には決められないことであり、子供をどう導くのか？それが保護者の役割だと思う。今回のような丁寧な議論を踏まえ「子供たちにどのような環境で学校生活を送らせたいのか？」と言われたら、保護者として子供に多くの友人と触れ合う機会を与えてあげたい。 ○ 自分のこれまでの経験だと、旧第二中学校に進学した当時、学年6クラスあったが、一度も話したことのなかった同級生がいたことや、そもそも全員の名前と顔も覚えていない。中学校ではなく小学校であれば、将来も顔を覚えてられる生涯の仲間としてあげたいので、学年で3クラスぐらいまでの規模が良いと思う。
各委員の意見（複式学級の学校規模でも良いので地域に学校を残して欲しい意見）
○ 個々の特性に応じた、きめ細やかな教育を受けさせることが出来ると感じるため。



豊房小学校及び学区内未就学児保護者への説明・意見交換会
令和5年3月8日（水）午後7:00～8:00 豊房小学校体育館／参加者3人 ※ 意見聴取期間（3/8～3/31）
○ 「学校のあり方を考える会」の考えに反対する意見なし。



豊房地区 区長会への説明・意見交換
令和5年6月18日（日）午前9:00～10:30 豊房地区公民館
○ 区長会として、保護者の方々が出された意見を尊重する。 ☞ 地区回覧版により保護者意見について区民へ現状を配布

【 第 2 テーマ 】「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換

（検討期間／令和 5 年 11 月～令和 6 年 6 月）

学校のあり方を考える会
結 論
同素案に対して賛成（保護者委員全員）
各委員の意見（理由等）
○ 豊房小の子供達のことを考えると館山小に統合になるのが一番良いと思います。 （旧第二中学校などの歴史的な経緯を含め） ○ 館山小も綺麗に改修されるプランなので、子供達の教育環境にとっても良いと思う。 ○ 自分が子供の時も、中学校で人数が増えて楽しかった。人数が増えることに賛成。 ○ 学校の再利用のことも含め賛成です。 ○ スクールバスの乗車時間の最長 60 分は短縮して欲しい。 ○ 素案が固まり、スクールバスの詳細を早めに決めて欲しい。 ○ 場所が遠くなるのは少しネックだが、そこはしょうがないかと思う。 ○ 学童も、これまで以上に充実してほしい。 ○ 豊房小跡地に不登校の支援機能を設置するとのことだが、放課後など豊房の子が自由に使えるようにして欲しい。 ○ 廃校後も地域行事などで体育館が使えるたらいいなと思う。 （地域代表意見） ○ 賛成。子供達も人数が増えれば、色々な意見を聞くことができる。 ○ 今後のことになるが、地域コミュニティ行事などの半分は小学校との関連性があること、また公民館の関係も含め跡地利用について検討して欲しい。



その他保護者意見（現小学校保護者・未就学児保護者）
✓ 令和 6 年 1 月 30 日（火）19:00～20:30 豊房小体育館 意見交換会（参加者 6 名） ✓ 令和 6 年 1 月 30 日～2 月 20 日 意見聴取期間
● 素案全体に対する意見（個人単位）  なし

(その他意見／個人単位)

- スクールバスの乗車時間をなるべく短縮して欲しい。(畑地区を含め) 地域全体が広い
ため、便数を含めて考慮して欲しい。



豊房地区住民との意見交換会

令和6年6月15日(土) 午後2:00~3:35 豊房小学校体育館／参加者10人

※ 意見聴取期間(6/15~7/10)

- 出来れば子供達にはランドセルを背負って、季節や暑さ、寒さを感じながら歩いて登校して欲しいが、豊房から館山小では距離もあるためバスも仕方がないと思う。豊房地区の子供は住む地区がバラバラであるため、子供の負担にならないよう、効率の良い乗車場所を検討して欲しい。また、乗車時間の短縮も配慮して欲しい。
- 豊房幼稚園は、小学校に隣接しているため、園児が小学校の児童の様子が見ることができ、進学する際のハードルが高くないようになってきていると思う。豊房小学校が再編された場合は、園児の進学時のハードルを含めて心配もあるため幼稚園のあり方についても配慮して欲しい。
- 再編後の施設管理について、豊房小は不登校児などの教育活動場所として利用する案となっているが、他の学校は再編後に使用しない施設も出てくる。地元民からすると、施設の壁が剥がれたりグラウンドに草が生い茂っている施設は目にしたくないため、学校が無くなった場合の適正な維持管理についても検討して欲しい。
- 現在の学童施設の活用についても検討して欲しい。
- グラウンドの管理について、地区住民と共同で行っていくことも覚悟はしているが、市としてもその場合の配慮をお願いしたい。
- 豊房の子は挨拶がしっかりでき、良い学校だなと思っていたため、再編の話を聞いて喪失感のようなものがあつた。再編することで新しい故郷をどのように作っていくのか心配になった。また、小学校の教科担任制については反対。教師集団が良ければ、教科担任制は必要無いと思う。
- 標準規模校について、35人学級でも少数でも良い学びはできる。近隣市町では学校再編に早くから取り掛かったが、私はそれを良くは思わない。南房総市では問題になっている。館山市みたいに丁寧に何回も意見交換の場を設けることが大切。房南小中一貫校ができてからその成果、検証の報告がされていないことに不満。特認校のアイデアは素晴らしい。神余小の小規模の良さもある、複式学級では子供たちの自主性が育まれ、教員は支援する立場。新たな特認校でもそんな子供たちが育ってくれればと思う。中学校の再編について、いずれは1校にするという案には反対。不登校が増えると思う。
- 学校の歴史・文化を展示・保管する施設については大いに賛成、ぜひ実現させて欲しい。

館野地区

(協議記録)

日 付	内 容
令和 4 年 6 月 26 日	保護者・地区住民説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について	
令和 4 年 10 月 17 日	第 1 回「学校のあり方を考える会」 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和 4 年 11 月 28 日	第 2 回「学校のあり方を考える会」 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和 5 年 1 月 16 日	第 3 回「学校のあり方を考える会」 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和 5 年 2 月 8 日	保護者説明・意見交換会（PTA 役員会への事前説明）
令和 5 年 3 月 6 日	保護者説明・意見交換会（令和 5 年 3 月 31 日まで意見聴取期間）
令和 5 年 5 月 8 日	第 4 回「学校のあり方を考える会」 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和 5 年 5 月 12 日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和 5 年 6 月 17 日	館野地区（区長会）にて保護者意見の説明・意見交換
令和 5 年 7 月 10 日	館野地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）
【 第 2 テーマ 】 「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換	
令和 5 年 11 月 6 日	第 5 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見交換）
令和 5 年 12 月 4 日	第 6 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見集約）
令和 6 年 1 月 25 日	保護者意見交換会（2 月 15 日まで意見聴取） ※ 不参加の保護者へマチコミメールにて意見聴取実施
令和 6 年 3 月 21 日	保護者通知（素案に対する意見聴取結果を保護者宛て周知）
令和 6 年 6 月 2 日	地区住民意見交換会

「館野地区学校のあり方を考える会」

■ 委員 10 名（小学校保護者 3 名・未就学児保護者 4 名・地区代表 3 名）

【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について

(検討期間／令和 4 年 10 月～令和 5 年 6 月)

(協議内容)

□ 保護者として考える望ましい学校規模について

- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
- ✓ 1 学年単学級での教育環境を望む。
[市が示す最低限の学校規模（1 学年 15 人，小学校全体 90 人）以上]
- ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

(協議結果／「学校のあり方を考える会」保護者委員意見)

結 論
今後の児童数の減少を考慮すると、今以上の学校規模となるような学校再編を行うべきである。 (望ましい学校規模) ※ 最低限 1 学級 15 人以上を将来的にも維持できる規模とすべき。 ※ 子供達がより良い学校生活を送るため、クラス替えが出来る学校環境を提供して欲しいが、その一方で教職員・児童・保護者がお互いの顔を認識し、それぞれ必要な関係性が築ける学校規模が望ましいため、学校規模の上限値は、国が示す標準的な学校規模（1 学年②～③クラス）として欲しい。
理 由
● 1 学年 15 人を下回る学校規模となると、友人同士で様々な経験をさせることの難しさ、男女比の偏り、学校内活動（実技教科での集団学習・グループ別活動等）における課題点などについて、保護者として懸念がある。 ● 1 学年 4 クラス以上のような学校規模（大規模校）となると、個々の子供の特性に応じた、きめ細やかな教育への不安があること、子供同士も 6 年間でお互いの友人を認識できない可能性も発生する。また、保護者と教職員、保護者間同士も距離感が発生し、必要な関係性が築けない懸念がある。 ● 今後、少子化が進めば再度同じ議論をしなければならない。このようにきちんと議論する機会を契機と捉え、教職員の労働環境を含め子供達にとってより良い教育環境を提供するため、学校再編について前向きに取り組むべきである。
各委員の意見（クラス替え可能な学校規模を望む意見）
○ 中学校では、大人数の中で学校生活を送ることとなるため、小学校のうちから一定規模での集団生活を経験させたい。【多数意見】 ○ 子供同士の人間関係やトラブル等に配慮したクラス編制が可能となる。【多数意見】 ○ 教科担任制のメリットを享受できる。【多数意見】

- クラス替えを子供に経験させたい。(新しい友達との交友関係を広げて欲しい)【多数意見】
- 子供が社会に出た時には、必然的に多くの人達と接していかなければならない。そのような経験を小さいうちから体験させてあげたい。
- クラス替え可能な規模 or 単一学級、それぞれのメリット・デメリットがあり、保護者としては、どちらになっても許容可能な範囲と言えるが、学校運営全体を見た時には、クラス替えが可能な学校規模の方が良いと感じる。理由として、クラス替え可能な学校規模であれば、先生方の母数も増え、先生間同士での意見交換が可能となること、教科担任制の導入により子供達が様々な先生の授業を受けることが出来ること、授業の質を高め、先生方の働き方改革にも繋がる取組を行うことも出来る。それら日々多忙な現場の先生方の働き方を変え、幸せを感じて働いてもらえることが、そこで教わる子供の幸せにつながると思うため、先生方が働きやすい環境の学校に子供を通わせたい。
- 先生方の負担を軽減させ、より良い教育環境を子供達に提供させたい。
- 保護者（PTA）の負担軽減が図れる。
- 現状においても、一部の学年にて15人を下回る学級規模となっており、子供の様子からも友人関係の少なさを感じている。
- 地域から学校が無くなるのは悲しいという“想い”は、当然理解できますが、世の中の少子化の流れのなかで、全国で学校の統廃合が行われているのも事実であり、想いとは別に現実的な課題（子供達の教育環境、学校維持運営のコスト等）を踏まえて判断すべきと思う。

各委員の意見（現状の学校規模（クラス20人規模）を望む意見）

- 今の学校規模（学年あたり約15～30人）を含めた学校運営に、満足度が高い。その理由として、個々の子供の特性に応じた、きめ細やかな教育を行ってもらえている感じがあるため。
- 少人数の小さな世界でも、子供達が楽しそうに学校生活を送っている様子が見られ、現在の学校環境に対しデメリットが感じられない。
- 現在中学校に通学している子供の意見として、館野小学校の仲間・絆があることが心強いとのことであった。
- 人前で話すことが苦手な子供は、少人数で発表機会が多い方が良いと思う。
- 先生と保護者の距離感が近く、気軽に相談しやすい環境である。



館野小学校及び学区内未就学児保護者への説明・意見交換会

令和5年3月6日（月）午後7:00～8:15 館野小学校体育館／参加者15人
※ 意見聴取期間（3/6～3/31）

- 「学校のあり方を考える会」の考えに反対する意見なし。



館野地区 区長会への説明・意見交換	
令和5年6月17日（土）午後6:00～7:30 館野公民館	
○ 現時点の保護者意向を地区住民に周知する。	
☞ 地区回覧版により保護者意見について区民へ現状を配布	

【 第 2 テーマ 】「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換

（検討期間／令和 5 年 11 月～令和 6 年 6 月）

学校のあり方を考える会
結 論
同素案に対して賛成（保護者委員全員）
各委員の意見（理由等）
○ 子供の数が減っているなか、子供達のことを考えると再編せざるを得ないと思う。（意見多数） ○ 友達も増えいずれ中学校で一緒になるので、特に反対する理由がない。（意見多数） ○ 小規模特認校や不登校支援の施設ができることも安心できる。（意見多数） ○ 子供を持つ方にとって、選択肢が増えることは良いことだと思う。（意見多数） ○ 特に良いと感じたのは、小規模校を望む保護者のことも考え「小規模特認校」という新たな種類の学校を設置する案であること。あえて少数でしかできない授業をする、強制ではなく自由がきく授業をして欲しい。また、自分の意見を言いやすい環境に特化した学校にして欲しい。すごく未来の見える学校だと思い、個人的には希望を抱いているので、他のモデルとなるような学校を目指して欲しい。 ○ 不登校や発達障害の子が増えている中で、小規模特認校をはじめ、それらの支援機能を充実する方策にて、それらの子供のイメージを変えて欲しい。また、それらをきっかけに社会で活躍出来る人材を輩出するような学校になって欲しい。 ○ 再編により財政負担が軽減され、その代わり（残す学校施設の）ハード面・ソフト面などが充実することが良いと思う。 ○ 不登校支援や発達支援など、療育的な機能を既存の学校施設（箱物）を有効活用して実施することは、新しく挑戦的だと思う。療育機能に関しては、安房地域でも少なく、相談頻度なども月数回など限られている。それらを公的機関が担うことに価値がある。 ○ 館山市として、教育の分野でこれだけの選択肢を提供できること「標準的な学校」・「小規模特認校」・「不登校&発達支援機能」これらが（市の）良いアピールポイントになると思う。 ○ 中学校になれば一定の人数規模での生活となるため、早いうちに統合した方が良い。 ○ 中学校の統合についても賛成だが、保護者の送迎による交通集中への懸念があるので、そこには投資をして、北条小・館山中学校の周辺の土地を駐車場として使えないか検討する必要がある。 ○ 気になる点として、雨天時の保護者駐車場（北条小付近）について早めの協議が必要



その他保護者意見（現小学校保護者・未就学児保護者）

- ✓ 令和6年1月25日（木）19:00～21:30 館野小体育館 意見交換会（参加者12名）
- ✓ 令和6年1月25日～2月15日 意見聴取期間

● 素案全体に対する意見（個人単位）

- 小規模特認校は市内の街中（北条・館山）にあった方がよい。館山中学校への進学を見据えて標準的な規模の小学校の近くに置いて小学校時代から交流をさせた方が、子供たちにとって良いと思う。また、将来的な継続性を考えると街中の方が、子供が集まると思うため。
- 九重・館野・豊房を合わせた規模の学校を作り、小規模特認校としても良いかと思う。

（その他意見／個人単位）

- 再編は賛成だが、全ての学校について、それぞれの特色を出して児童を募るという形にした方がよいのではないか。（小規模特認校以外も全ての学校を選択できる方式）
- 将来的な再編を見据えた中で学校を変更（指定校変更）したい場合、保護者の希望に対して柔軟に対応して欲しい。
- 豊房小学校の跡地を活用した発達支援機能の充実に関して、市の医療系部署（健康福祉部）との繋がりも重要だと思うので、それら関係者との調整・協議を進めて行って欲しい。
- 学校再編計画が決定すると、実際の再編が行われる前に、館野学区から北条小学校に通学させる保護者が増えることが予測される。再編が行われる前までは、館野小の低学年が減らないよう考えて欲しい。
- 運動場や体育館は、今後の地域の子供たちのためになるような使い方をして欲しい。
- 学校跡地利用に関して、地元と十分な協議をして決定して欲しい。
- 残す学校の大規模改修は、児童・教職員へ相当な負担がかかると思うので、騒音を含め負担が軽減されるようなことを検討して欲しい。
- 北条小・館野小・九重小のそれぞれに、子供達に染み付いたルールは存在するが、再編後の施設が現北条小を利用することを想定していますが、北条小のルールがそのまま続くことは反対。あくまで吸収合併ではなく再編と捉え、子供達が納得する新たなルールをみんなで考えていくべき。
- 館山市で子育てをして感じるのが公園の少なさであり、小学生だけで遊ぶ遊び（サッカー・キャッチボール・鬼ごっこなど）が出来て、好きなときに使える「広場」が少ないと感じるため、学校再編にあたり空いた学校は、子供達が自由に使える広場として開放を続けて欲しい。現在、房南小の子たちが放課後に旧神戸小の校庭に集まって遊んでいるように、自由で安全な（車の侵入の心配がないという意味で監視の目は不要）場所で有り続けて欲しい。
- 雨天時の送迎用の駐車場を確保するより、子供が自ら安全に通学できる方法を整えて欲しい。（雨天時だけスクールバス乗車を認めるなど）
- 共働きの当たり前の世の中であり、学童の定員を学年で区切ることが無いよう対策を願いたい。（北条小施設が定員超過となった場合、館野小の空き教室を学童として利用するなど）



館野地区住民との意見交換会

令和6年6月2日（日）午後2:00～3:30 館野小学校体育館／参加者5人

※ 意見聴取期間（6/2～7/10）

- 子供はある程度の集団で学んで欲しいと思った。親は通学のこと心配。バス停はどこなのか、安全に通えるのか、そういった想いを尊重して欲しい。保護者の中には将来の館山が心配という声もある。君津・木更津に引っ越しを考えている親も多くいる。不満よりかは不安で小学校から引っ越しを考えることは否定できないかなと思う。子供、親にとって安心できるような学校づくりができればと思う。また、他自治体と教育格差が出来ないようにして欲しい。
- スクールバスについて、（現行の基準は）2km圏外と定められているが、ルートによっては難しいところもあるため、柔軟な考えをしてもらいたい。萱野団地の辺りは農道も多く、中学生は危険な自転車の乗り方をしている。それら危険箇所も踏まえて考えバスの停留所、待機場所も早めに検討して欲しい。
- 先日、館野小学校の運動会を見学したが、人数が少なく寂しい想いをした。（統合するまでの間は）地元の学校に通学して欲しいというのが地元民の想い。
- 再編後は、館野小の良さが無くなってしまうのではないかという意見は多く聞く。再編前に北条小に通ってしまう児童もいるかもしれないが、（統合するまでの間は）保護者・PTA役員としてもっと館野小の良さをアピールできればと思う。
- 小規模特認校の案は素晴らしいと思った。ぜひ成功させて欲しい。保護者や地域の意見は出ているが、児童の意見も大切。意見を言えるかはわからないが、子供たちの気持ちを引き出し打診する、覚悟をさせる、準備をさせることも大事だと思う。

九重地区

(協議記録)

日 付	内 容
令和 4 年 6 月 25 日	保護者・地区住民説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について	
令和 4 年 10 月 14 日	第 1 回「学校のあり方を考える会」 （組織規約の決定、意見集約化の手法検討）
令和 4 年 11 月 25 日	第 2 回「学校のあり方を考える会」 （学校規模に関するメリット・デメリット／論点整理など）
各保護者委員が“保護者として考える望ましい学校規模について”検討する期間	
令和 5 年 1 月 13 日	第 3 回「学校のあり方を考える会」 （保護者委員／意見交換～意見集約化）
令和 5 年 2 月 15 日	保護者説明・意見交換会（PTA 役員会への事前説明）
令和 5 年 3 月 3 日	保護者説明・意見交換会（令和 5 年 3 月 31 日まで意見聴取期間）
令和 5 年 4 月 28 日	第 4 回「学校のあり方を考える会」 （意見聴取結果を含め、保護者委員の意見決定）
令和 5 年 5 月 8 日	保護者通知（保護者委員の決定意見を小学校・未就学児保護者に周知）
令和 5 年 6 月 4 日	九重地区（区長会）にて保護者意見の説明・意見交換
令和 5 年 6 月 10 日	九重地区（地区住民への回覧／保護者委員の決定意見）
【 第 2 テーマ 】 「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換	
令和 5 年 11 月 10 日	第 5 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見交換）
令和 5 年 12 月 8 日	第 6 回「学校のあり方を考える会」（素案に対する意見集約）
令和 5 年 1 月 10 日	保護者意見交換会（PTA 役員会への事前説明）
令和 6 年 1 月 24 日	保護者意見交換会（2 月 15 日まで意見聴取） ※ 不参加の保護者へマチコミメールにて意見聴取実施
令和 6 年 3 月 21 日	保護者通知（素案に対する意見聴取結果を保護者宛て周知）
令和 6 年 6 月 1 日	地区住民意見交換会
令和 6 年 6 月 2 日	九重地区（区長会）にて保護者意見の説明及び地区説明会結果報告

「九重地区学校のあり方を考える会」

■ 委員 9 名（小学校保護者 3 名・未就学児保護者 3 名・地区代表 3 名）

【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について

(検討期間／令和 4 年 10 月～令和 5 年 6 月)

(協議内容)

□ 保護者として考える望ましい学校規模について

- ✓ 複式学級の学校規模でも良いので、地域に学校を残して欲しい。
- ✓ 1 学年単学級での教育環境を望む。
[市が示す最低限の学校規模（1 学年 15 人，小学校全体 90 人）以上]
- ✓ クラス替えが可能となる学校規模での教育環境を望む。

(協議結果／「学校のあり方を考える会」保護者委員意見)

結 論
クラス替えが可能となる学校規模での学校再編を望む ※ ただし、子供の友人関係の把握や P T A 活動などを通じて学校との一定の関わり合いを持つため、大規模校（1 学年 4 学級以上）ではなく、国が示す標準的な学校規模（1 学年 2 ～ 3 学級）での再編を望む。
理 由
● 地域に学校を残してもらいたい気持ちがあるが、それ以上に、少人数での学校生活（複式学級での教育、多くの友人同士で様々な経験をさせること・学年での男女比の偏り）に対するデメリットが多く、子供のことを考えると学校再編を行った方が良いと考える。 ● 1 学年 15 人以上の学校規模に再編しても、少子化が進めば再度同じ議論をしなければならない。このように機会を設け議論をしているため、今回を良い機会と捉え、より最善（ベター）な方策を結論とし、子供達の学校環境を再び大きく変えるような事態を避けるべき。 ※ 近い将来で 2 回の学校再編は避けるべき。
各委員の意見（学校再編によりクラス替えを望む意見）
○ いずれ中学校で一緒となるのであれば、小学校のうちから交友関係を広げておくべき。 【多数意見】 ○ 子供には子供社会の人間関係を学んで欲しい。世の中には色々な人がいること、子供同士でグループを作ることなどを知って欲しい。 【多数意見】 ○ 小規模校のメリットも理解できるが、子供達の可能性を更に引き出すためには、クラス替えが出来る学校規模の方が良い。【多数意見】 ○ 複式学級ではメリットよりもデメリットの方が多く感じ、教育環境が良いとは思えない。 【多数意見】 ○ 複式学級では、教職員の負担（増）を含め、日々の学習効率が悪くなると思う。【多数意見】 ○ 九重小を卒業し、現在館山中に進学している自分の子供と話をしたが、「小学校時代では少人数

が当たり前でありその中で少ないながらも楽しく学校生活を送れたが、中学に進学して多くの友人ができ、受ける刺激も多く、色々な考えを持つ同級生と触れ合えている。今になって思うと、これら多様な友人関係や刺激を小学校の時から経験したかった」との意見であった。この会に入る前は、複式学級になったとしても九重小を残したいと思っていたが、小規模校における課題点を踏まえ子供の意見を聞くと、保護者としてクラス替えが出来る教育環境をこれからの子供達に提供してあげたいと意見が変わった。

- 南房総市の保護者（学校再編対象学校）の方とも意見交換したが、子供の交友関係を広げるためにも、一定の学校規模があって良かったとの意見があった。
- クラスの中での順位関係（運動・学力）が決まっており、刺激や競争心を育むためにも一定の規模が必要だと思う。
- あまりに少人数が子供にとって本当に良いことなのか？私自身も子供を九重小に通わせることに迷いがあったことも事実であり、そのように考える保護者の方々もいると思う。

各委員の意見（複式学級でも良いので地域に学校を残して欲しい意見）

- こども園と小学校が同一敷地内にあり、それぞれの交流もあるなど今が良い環境だと思う。
- 少人数学校の方が子供の積極性が育つと思う。
- 中学校では大きな集団で生活するため、逆に小学校時代は少人数規模の学校生活を送らせてあげたい。
- 体力面から小学校は徒歩で通学させたい。



九重小学校及び学区内未就学児保護者への説明・意見交換会

令和5年3月3日（金）午後7:00～8:00 九重小学校体育館／参加者14人
※ 意見聴取期間（3/3～3/31）

- 「学校のあり方を考える会」の考えに反対する意見なし。



九重地区 区長会への説明・意見交換

令和5年6月4日（日）午前10:00～11:00 九重地区公民館

- 区長会として、保護者の方々が出された意見を尊重する。
☞ 地区回覧版により保護者意見について区民へ現状を配布

【 第 2 テーマ 】「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換

（検討期間／令和 5 年 11 月～令和 6 年 6 月）

学校のあり方を考える会
結 論
同素案に対して賛成（保護者委員全員）
各委員の意見（理由等）
○ 現状・将来的な子供の数を見ても、学校再編を実施すべき。 ○ 小規模特認校の選択肢がある。他市（安房以外）では、特認校を選択する人数も増えているとの話もあり、そういう学校が市内に用意されているのも良い。 ○ 少子化を踏まえた子供たちの視点、市全体の財政的な視点からかもしれないと思う。 ○ 小規模特認校・不登校支援、いずれにせよ、今より良い教育環境となることが感じられる計画で保護者にとっても安心感があり、他の保護者にも受け入れられる案だと思う。 ○ 不登校に関して、学校の仕組みを受け入れられない子供（積極的不登校児）なども、社会問題化しているなかで、それらに対する機能なども盛り込まれた計画である。 ○ 来年の 1 年生も非常に少ない人数であり不安が大きく早く再編して欲しい。 ○ 九重こども園の今後についても、速やかに検討して欲しい。 ○ 学童を北条まで迎えに行くことが心配（夕方の道路混雑）であり、九重地区で学童を実施することも考えて欲しい。 ○ 北条だと、引渡し訓練などちょっと遠いと感じるが、子供のことを考えると、それかもしれないと思っている。 ○ スクールバスの運行も明記されており、保護者の気持ちに寄り添ったものでもある。 ○ スクールバスに関して、中学校と同じバス停で良いのか？ 九重地区にはバス停から 1 km 以上、離れた場所もあるのではないかな？ その辺の距離感を含めてバス路線を検討し早めにルート（案）を示して欲しい。 ○ 統合前に再編校同士における交流行事を充実して欲しい。それにより子供たちの不安を解消して欲しい。 ○ 標準規模校のデメリット（目が行き届かない部分）を、少しでも解消できるような対策を工夫して欲しい。北条小の保護者と話していても、その辺は小規模校の方が良いとの意見もあるので、保護者の方々の不安感を和らげるためにもこれから考えて欲しい部分 ○ 学校の跡地をどうしていくのか？ 夏の盆踊り、秋の文化芸能祭など地域行事の中心でもあり、子供達も参加して楽しかったと言っている。こうした行事の必要性を考慮した中で、跡地利用について考えて欲しい。 ○ 跡地についても早めに方向性を示して欲しい。九重地区には公園も無く、子供が集まれる広い場所（おもいっきり遊べる場所）は学校しかない。この場所は無くさないで欲しい。

い。

- 学校跡地について、子供たちが思いっきり遊べる場所を、一緒に作って欲しい。例えば、普通の公園であれば、様々な禁止事項がみられるが、その辺の禁止事項が全くない場所（プレパーク）など、様々な危険があることを子供たちには学んで欲しい。



その他保護者意見（現小学校保護者・未就学児保護者）

- ✓ 令和6年1月24日 説明会・意見交換会
- ✓ 令和6年1月24日～2月15日 意見聴取期間

- 素案全体に対する意見（個人単位） ☞ なし

（その他意見／個人単位）

- スクールバス運行に関して、特に低学年の子供の安全面から運転手の他に大人の添乗員がいた方がよい。また、合理的な理由があれば乗車場所と下車場所（親の職場付近）を別々するなどの柔軟な対応があってもよい。



九重地区住民との意見交換会

令和6年6月1日（土）午後2:00～3:20 九重小学校体育館／参加者4人
※ 意見聴取期間（6/1～7/10）

- 再編後に教員はどういった子供たちを育てていこうとしているのか、その辺もこの案に含まれたら良かったと思う。世間ではパワハラ、セクハラが騒がれ逮捕者も出ている。館山市がそうだと知っている訳では無いが、今後そういった事象も考えられる。市の教育委員会として、教員側もどう育てていくのか、そういった観点も素案に含まれていれば良かったと思う。
- 小規模特認校という選択肢が良いと思った。
- 九重こども園について、通勤途中に預ける親も多いかと思う。こども園の今後については、子供のためだけでなく、親の働き方等を含めて考えて欲しい。
- 参加者が少なく何か寂しいなと思う。（防災行政無線での案内など）周知方法をもう少し検討して欲しい。

神 余 地 区

(協議記録)

日 付	内 容
令和 4 年 7 月 1 日	保護者・地区説明会（基本指針説明、地区協議方法に関する意見交換）
【 第 1 テーマ 】 保護者として考える望ましい学校規模について	
令和 4 年 7 月～令和 5 年 9 月	
○ 神余地区として「神余学校再編委員会」を立ち上げ協議 （第一ステップ）保護者意見の集約化 （第二ステップ）地域住民意見の集約化	
以下、教育委員会との協議状況	
令和 5 年 2 月 14 日	第 1 回 神余学校再編委員会①（意見交換／他地区の進捗状況等）
令和 5 年 6 月 1 日	第 2 回 神余学校再編委員会②（意見交換／人口推計等）
令和 5 年 6 月 8 日	第 3 回 保護者会①（意見交換／小規模化のメリット・デメリット等）
令和 5 年 9 月 19 日	第 4 回 神余学校再編委員会③ <u>（神余地区報告書提出）</u>
令和 5 年 9 月 25 日	第 5 回 保護者会②（意見交換／学校教育全般）
令和 5 年 11 月 2 日	第 6 回 保護者会③（意見交換／学校教育全般）
【 第 2 テーマ 】 「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換	
令和 5 年 11 月 15 日	第 7 回 神余学校再編委員会④（素案説明）
令和 6 年 1 月 11 日	第 8 回 神余学校再編委員会⑤（素案に対する回答）
令和 6 年 2 月 15 日	第 9 回 保護者会④（意見交換） ○ 更なる学校小規模化における教育環境について ○ 神余小学校での教育を新たな小規模特認校へ繋ぐ方策
令和 6 年 2 月 20 日	第 10 回 県内小規模特認校視察①（佐倉市／和田小学校）
令和 6 年 3 月 1 日	第 11 回 県内小規模特認校視察②（佐倉市／弥富小学校）
令和 6 年 3 月 26 日	第 12 回 神余学校再編委員会⑥（意見交換／小規模特認校視察結果） <u>○ 神余小保護者会から、小規模特認校視察を経て「新たな要望」の提出</u> ○ 館山市学校再編調査検討委員会から、神余地区との協議継続（令和 6 年 7 月まで）の承認があった旨を報告
令和 6 年 4 月 24 日	神余小 P T A 会長・保護者へ「（新）小規模特認校プラン」を提示
令和 6 年 5 月 30 日	第 13 回 保護者会⑤（意見交換／（新）小規模特認校プラン）
令和 6 年 6 月 26 日	第 14 回 保護者会⑥（意見交換／（新）小規模特認校プラン）
令和 6 年 7 月 25 日	第 15 回 保護者会⑦（保護者・教育委員会、それぞれの主張最終確認）
令和 6 年 7 月 29 日	第 16 回 地区住民 意見交換会 <u>○ 神余区長会一同・神余学校再編委員会一同から教育長宛て要望書提出</u>

「神余学校再編委員会」 役員 17 名（保護者 11 名・地区代表 6 名）

(参考資料) 神余小学校 児童数推移 (H10～)

※ 各年 5月1日時点

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	備 考
H10	4	5	9	6	8	5	37	
H11	7	4	5	9	6	8	39	学校再編協議①
H12	4	7	4	5	9	6	35	
H13	5	6	10	4	5	10	40	
H14	5	5	5	9	4	5	33	新校舎開校
H15	3	6	5	6	8	4	32	
H16	3	3	6	5	6	8	31	
H17	3	3	3	7	5	6	27	
H18	5	3	3	3	7	5	26	
H19	2	5	3	3	3	7	23	
H20	4	3	5	3	3	4	22	
H21	3	3	3	5	3	3	20	
H22	3	3	3	4	5	4	22	学校再編協議②
H23	5	4	3	3	4	6	25	
H24	3	5	4	3	3	4	22	
H25	5	3	5	4	3	3	23	
H26	4	4	2	6	4	3	23	
H27	3	2	4	2	6	4	21	
H28	5	4	2	5	2	6	24	
H29	2	5	4	2	5	2	20	
H30	5	2	5	3	2	5	22	
R 元	3	5	2	5	3	2	20	
R 2	1	3	5	2	4	3	18	
R 3	2	1	2	5	2	4	16	
R 4	3	2	1	2	5	3	16	
R 5	3	4	3	2	2	6	20	← 年度末時点
R 6	3	3	5	4	2	2	19	← 5/1時点(最新)
R 7	2	3	3	5	4	2	19	//
R 8	2	2	3	3	5	4	19	//
R 9	4	2	2	3	3	5	19	//
R10	2	4	2	2	3	3	16	//
R11	2	2	4	2	2	3	15	//
R12	1	2	2	4	2	2	13	//

	→ 複式学級		→ 増置教員による複式解消
	→ 入学児童数の予測値 (R06.04.01時点 住民基本台帳人口)		

(参考/統合前の富崎小学校の状況)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	備 考
H21	1	1	1	2	5	6	16	
H22	2	2	2	1	2	6	15	
H23	0	2	1	2	1	3	9	

【館山市学校再編に関する神余地区報告書】

はしがき

この報告書は、館山市学校再編調査検討における「各地区学校のあり方を考える会」の趣旨に則り発足した「神余学校再編委員会」の活動として報告するものです。

保護者の考え・意見を第一として取りまとめ、それに対する地区民の考え・意見を集約した報告書です。当委員会は一貫した中立的立場にてワーキングを進め、集約及び結果を導いたものです。保護者及び地区民の考え・意見のまとめに関する内容は、各々の集計結果の分析、保護者会及び区民集会等での生の声をもとに、当委員会としてそれぞれの考え・意見をまとめ表現したものです。

目 次

1. 神余学校再編委員会について
発足～活動の流れ
2. 保護者アンケートの実施
集計結果～整理と分析及び保護者の決意
3. 区民アンケートの実施
集計結果～区民の考え・意見
4. 学校再編に関する神余地区の考え・意見
保護者と地区民の考え・意見～まとめ

2023(令和5)年9月14日
神余学校再編委員会

1. 神余学校再編委員会について

委員会名簿

	名 前	所 属・役 職	
1	非公開	委員長(保護者)	三役
2	非公開	副委員長(歴代PTA会長)	
3	非公開	副委員長(PTA顧問)	
4	非公開	庶務(保護者)	
5	非公開	会計(保護者)	
6	非公開	PTA会長	役員
7	非公開	保護者	
8	非公開	保護者	
9	非公開	保護者	
10	非公開	保護者	
11	非公開	保護者	
12	非公開	入学予定保護者	
13	非公開	中学部保護者	
14	非公開	PTA顧問	
15	非公開	歴代PTA会長	
16	非公開	学校評議員	
17	非公開	神余区総合区長	委員
18	非公開	保護者	
19	非公開	保護者	
20	非公開	保護者	
21	非公開	保護者	
22	非公開	保護者	
23	非公開	保護者	
24	非公開	中学部保護者	
25	非公開	PTA顧問	
26	非公開	歴代PTA会長	
27	非公開	歴代PTA会長	
28	非公開	歴代PTA会長	
29	非公開	歴代PTA会長	
30	非公開	歴代PTA役員	
31	非公開	歴代PTA役員	
32	非公開	歴代PTA役員	
33	非公開	学校評議員	
34	非公開	元学校評議員	
35	非公開	区長(大倉地区)	
36	非公開	区長(久所地区)	
37	非公開	区長(加藤地区)	
38	非公開	区長(平田地区)	
39	非公開	区長(山下地区)	

教育委員会へ提出した
委員17名

1. 神余学校再編委員会について

発足～活動の流れ

年	日	実施内容・協議内容	参加者	場所	時間	人数
R4年	6月24日	教育委員会より保護者へ説明会	神余小学校保護者	神余小学校図書室	19:20～	20
R4年	7月1日	教育委員会より区民へ説明会	神余区民	神余小学校ランチルーム	19:30～	41
R4年	7月5日	神余学校再編委員会発足に向けた準備・諸活動	神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:30～	6
R4年	7月21日		神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:30～	6
R4年	8月18日		神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:30～	6
R4年	8月28日		神余小学校保護者	神余小学校ランチルーム	9:00～	15
R4年	9月1日		神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:30～	6
R4年	9月12日		神余小学校PTA執行部・歴代PTA会長	神余青年館	19:30～	13
R4年	10月4日		神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:30～	6
R4年	10月14日	神余学校再編委員会発足役員選出	神余学校再編委員会	神余青年館	19:30～	18
R4年	10月20日	区長会へ 神余学校再編委員会発足の報告	神余区長会 神余小学校PTA執行部	神余青年館	19:00～	13
R4年	10月27日～28日	区民へ 神余学校再編委員会発足の報告	再編委員会・保護者	各地区集会所	18:30～	8
R4年	11月26日	神余学校再編委員会進行計画作成	神余学校再編委員会三役	神余青年館	19:30～	5
R4年	12月15日	神余学校再編だより第1号作成	神余学校再編委員会三役	神余青年館	19:30～	6
R5年	1月12日		神余学校再編委員会三役	神余青年館	19:30～	28
R5年	1月20日		神余区長会・神余学校再編委員会三役	神余青年館	19:00～	12
R5年	1月21日		神余学校再編委員会役員会議	神余青年館	19:30～	12
R5年	1月27日～28日	全世帯へ 神余学校再編だより第1号発行	再編委員会・保護者	各地区集会所	18:30～	8

R5年	2月3日	保護者アンケート内容検討	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6
R5年	2月14日	教育委員会と意見交換	神余学校再編委員会 三役・教育委員会	神余青年館	19:30～	9
R5年	2月19日	保護者アンケート内容決定	神余学校再編委員会 役員	神余青年館	19:30～	13
R5年	2月24日	保護者アンケート実施	神余学校再編委員会 三役・神余小保護者	神余青年館	19:30～	15
R5年	3月7日	保護者アンケート集計	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6
R5年	3月14日	保護者アンケート結果の整理と分析	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6
R5年	3月23日		神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6
R5年	4月5日		神余学校再編委員会 役員	神余青年館	19:30～	14
R5年	4月20日		神余区長会・神余学校 再編委員会三役	神余青年館	19:00～	11
R5年	4月26日		神余小学校保護者	神余小学校 図書室	19:30～	14
R5年	5月15日	保護者アンケート結果の整理と分析 及び区民アンケートの内容検討	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6
R5年	6月1日	保護者アンケート結果の整理と分析 最終決定	神余学校再編委員会 教育委員会	神余青年館	19:30～	26
R5年	6月8日	教育委員会(教育長出席)との意見交換	神余小学校保護者 教育委員会	神余小学校 図書室	19:00～	18
R5年	6月21日	区民アンケート作成 神余学校再編だより第2号作成	神余小学校保護者	神余小学校 図書室	19:00～	15
R5年	6月25日		神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6
R5年	7月4日		神余学校再編委員会	神余青年館	19:30～	27
R5年	7月10日		神余小学校保護者	神余小学校 図書室	19:30～	14
R5年	7月23日		神余区長会・神余学校 再編委員会三役	日吉神社 社務所	19:30～	14
R5年	7月24日		神余学校再編委員会 三役・神余小保護者	神余青年館	19:30～	10
R5年	7月27日 ～28日		再編委員会・保護者	各地区集会所	18:30～	8
R5年	8月2日	区民アンケート集計 神余学校再編だより第3号作成	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6

R 5 年	8月11日	区民アンケート集計 神余学校再編だより第3号作成	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	6
R 5 年	8月12日	全世帯へ 神余学校再編だより第3号発行	神余学校再編委員会 三役・神余小保護者	各地区回覧	ー	8
R 5 年	8月20日	区長会へ 区民アンケート結果報告	神余区長会・神余学校 再編委員会三役	神余青年館	19:00～	12
R 5 年	8月23日	区民集会～区民アンケート 結果報告と意見交換会	神余区民	神余小学校 ランチルーム	19:30～	46
R 5 年	8月27日 ～28日	区民へ 区民アンケート結果報告	神余学校再編委員会 三役・神余小保護者	各地区集会所	18:30～	8
R 5 年	9月1日	館山市学校再編に関する 神余地区報告書作成	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	5
R 5 年	9月4日		神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	5
R 5 年	9月12日		神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:30～	5
R 5 年	9月14日		神余学校再編委員会 神余区長会	神余青年館	19:30～	21
R 5 年	9月19日	教育委員会へ館山市学校再編に関する 神余地区報告書を提出予定	神余学校再編委員会 三役	神余青年館	19:00～	ー
R 5 年	9月27日 ～28日	区民へ館山市学校再編に関する 神余地区報告書の提示予定	神余学校再編委員会 三役・神余小保護者	各地区集会所	18:30～	ー

＜館山市学校再編に関わる保護者アンケート＞

＜回答結果記載版＞

アンケート回収締切日 3月3日
アンケート集計実施日 3月7日

2023年2月24日 神余学校再編委員会
神余小学校 PTA 会長

この度の学校再編の課題については、これまで PTA 活動の中で、幾度か語り合い情報共有を重ねてきたところだと思います。当学校再編委員会では、まず現在また入学予定の保護者の方々の、神余小学校の教育への思い・考え、加えて学校を通じた地域への思い・考えを第一にすえ、これらをもとに地域の方々からのご意見、お考えを伺いたいと考えております。

そこで、改めて下記のアンケートを実施させて頂き、保護者の皆様一人ひとりの思い・考えを確認させて頂きながら、意見を集約したいと存じます。

150年の歴史ある神余小学校は、子どもたちだけのものではなく、これまで地域住民の文化の拠点として、地域の交流の場として、物心両面にて欠かすことのできない存在になっています。保護者としての思い・考えを核としながら、地域に生きる若い世代の一人として、今後の地域の活性化等を視野にお考え頂けることを願います。よろしくお願いいたします。

1. 神余小学校で行われている教育(複式学級を含む)について、現在行われている過小規模校の特性を生かした教育についてどのように思いますか。

※下記項目の内どれか一つに○をつけてお答えください。

＜回答数＞

- 8 ① 大変良い ※「複式学級」とは … 2つ以上の学年が1クラス
9 ② おおむね良い になった学級のこと。
0 ③ あまり良くない ※「過小規模校」とは … 複式学級が1クラス以上ある
0 ④ 良くない 学校のこと。

2. 過小規模校の神余小学校だからこそ十分に行われている、と思うものに○をつけて下さい。

※下記項目に○をつけてお答えください(複数回答可)

＜回答数＞

- 15 ① 神余小では、児童一人ひとりの努力を認め、良さを伸ばそうとしてくれる環境がある。
13 ② 神余小では、先生が児童の話をよく聞き、一人ひとりを大切にしてくれる環境がある。
13 ③ 神余小では、先生が児童に分かりやすいように授業の工夫をしてくれる環境がある。
13 ④ 神余小では、先生が行事内容の工夫や改善をしてくれる環境がある。
14 ⑤ 神余小では、地域の特色を生かした教育活動が行われ、児童が地域に愛着を持つように育ててくれる環境がある。
11 ⑥ 神余小では、児童が良好な人間関係の中で、学校生活を楽しめる環境がある。
1 ⑦ その他

(少人数のクラスでは、大人数のクラスで先生が受けるプレッシャーやストレスが少ないため、神余小学校の先生は、児童を創造的で思いやりを持つ子に育てることができると思います。小規模校では、児童は同級生だけでなく他の学年やいろいろな年齢の大人と関わる機会があります。それに対して大きめの学校では、児童は日常で、自分のクラスや仲間内だけの限られた人とのつながりしかできない傾向があるように思います。)

3. 神余小学校の今後のあり方として、どのような方向を希望しますか。

※下記項目の内、どれか一つに○をつけてお答えください。

<回答数> ※ 2つに○を付けた方が3名います

- 9 ① 児童数を一人でも増やすために、Uターン者や移住者増加の取り組みをして、可能な限り現状の良さを維持するのがよい。
- 10 ② 神余小学校の特性や地域とのつながりなど、他地域にはない過小規模校の魅力を活かした、新たな学校づくりを目指す。市・教育委員会等には、他地域で行われている特認校制度・山村留学・デュアルスクールなど様々な制度についての調査や研究を依頼し、これからの子どもたちに必要な学校づくりをしていく。
- 1 ③ その他
(私は、将来の子どもたちのために、この小さいながらも優れた学校を残す努力をすべきだと思います。現状維持だけでは足りなく、新しい施策を考えた方が良いでしょうと思います。そもそも、市の行政施策として単に合理化のために学校を統廃合するのは良くないと思います。)

4. 神余小学校と神余地域について伺います。

※下記項目の内、最も強く思うもの一つに○をつけてお答えください。

<回答数>

- 10 ① 神余地域に学校(建物でなく教育機関として)が無くなると、更に過疎化が進むと心配。
- 1 ② 神余地域に学校(建物でなく教育機関として)が無くなると、地域活動が廃れると心配。
- 5 ③ 神余地域に学校(建物でなく教育機関として)が無くなると、地域の結びつきが弱くなると心配。
- 0 ④ 神余地域に学校(建物でなく教育機関として)が無くなっても、地域は特に変わらないと思う。
- 1 ⑤ その他 (よくわからない) ※ 「③→②→①となっていくと思う」という記載もあり

5. 神余小学校と神余地域の今後のあり方について伺います。

※下記項目の内どれか一つに○をつけてお答えください。

<回答数>

- 13 ① 神余小学校を、更に地域住民の協力・参加をお願いして、機能特化した学校にしたい。
- 2 ② 神余小学校が存続する間は、地域との関係は現状のままで良い。
- 1 ③ 神余小学校の存在は、地域から薄れてきてもしかたがないと思う。
- 1 ④ その他 (小学校の存在は必要だが、地域との関係は深くなくて良い)

◎ あなたの性別に○をつけてください (男性 ・ 女性) ※ 計17人全員提出済み

※ お忙しいところ恐縮ですが、3月3日までに記入し神余小学校へ提出をお願いします。

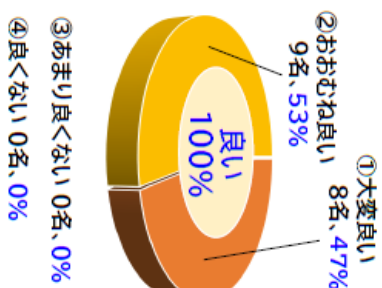
ご協力をありがとうございました。

2. 保護者アンケートの実施

『館山市学校再編に関わる保護者アンケート』結果の整理・分析

質問 1

神余小学校の
教育(複式学級を
含む)について
どう思うか



「良い」が100%!

質問 2

神余小学校で
十分に行われて
いること

『順位別』	
1位 良さを伸ばす	15名 88%
2位 地域の特色を活かす	14名 82%
3位 一人一人を大切に	13名 76%
3位 分かり易い工夫	13名 76%
3位 行事の工夫や改善	13名 76%
6位 良い人間関係がある	11名 65%
7位 その他	1名 6%

(創造的で思いやりを持つ子に育てることができる。異年齢の人と関わる機会が多い)

全項目
満足度 65%以上!

今の神余小学校教育に対する満足度

質問 3

神余小学校の
今後のあり方を
どうしたいか

① 現状の良さを維持するの「かいいい」 ・Uターン者や 移住者増加の取り組み	9名 45%
② 「神余小での新たな取り組み」 ・市や教育委員会と一緒に これからの子どもたちに 必要な学校づくりを	10名 50%
③ その他	1名 5%

(現状維持だけでは足りない、新しい施策を考えた方がよい)

現状の良さを
維持する努力
+
神余小での新たな取り組み

希望する神余小学校

質問 4

神余小学校が
なくなると地域
がどうなるか

『順位別』	
1位 過疎が心配	10名 59%
2位 地域の結びつきが弱くなると心配	5名 29%
3位 地域活動が 廃れると心配	1名 6%
4位 その他 (よくわからない)	1名 6%
5位 地域は変わらない	

地域を心配する内容
94%!

地域への思い

質問 5

神余小学校と
神余地域の今後の
あり方について

① 地域の協力を得て機能 特化した学校に	13名 76%
② 地域とは現状のまま 良い	2名 12%
③ 地域との関係が薄れても しかたがない	1名 6%
④ その他 (小学校の存在は必要だが、地 域との関係は深くなくてよい)	1名 6%

学校と地域との関係は
現状維持のままか
それ以上を求める人が
88%!

地域と学校とのつながり

『学校再編に関する保護者の考え・意見を次のように提示いたします。』 保護者一同

- ～ 未来を担う子どもたちに良好な教育環境を提供するために～
1. 神余小学校 (通小規模校・複式学級) の教育は、一人ひとりを大切に、一人ひとりの良さを伸ばすとともに優れた環境にあると確信しています。この良さをより活かした学校づくりを切に希望し、保護者自らも取り組みます。
 2. Uターン者や移住者増加の取り組みを行い、通小規模校の特性を活かすための児童数増加を目指します。
 3. 子ども一人ひとりが学ぶ中、地域に愛着や誇りを持てるよう、地域の方々により理解を求め、さらに連携を深める取り組みをします。

2. 保護者アンケートの実施

地域の皆様へ

＜保護者の決意＞

私たち保護者は、子どもたちのために、一致団結して、地域の皆様のご協力を頂きながら、『歴史ある小さな神余小学校』の良さを守り、さらに活かして行こうと考えています。

私たち保護者のこれからの神余小学校への考えについて、是非とも皆様のお考えお気持ちを聞かせください。

令和5年6月21日

神余小学校保護者一同

＜区民アンケート 集計結果＞

神余学校再編委員会・神余区区長会

この度の学校再編について、小学校保護者(入学予定含む)の考え・意見がまとまりました。参照～別紙『保護者の決意』『館山市学校再編に関わる保護者アンケート結果の整理・分析』

その上で、区民の皆様一人ひとりのお考え・ご意見を伺いたいと存じます。よろしくお願いいたします。

保護者の考え・意見として提示された3つについて伺います。

アンケート配布数 325 記載回答人数 273 人 回答率 84.0%

【保護者の考え・意見 その1】

1. 神余小学校（過小規模校・複式学級）の教育は、一人ひとりを大切に、一人ひとりの良さを伸ばすとても優れた環境にあると確信しています。この良さをより活かした学校づくりを切に希望し、保護者自らも取り組みます。

保護者のこの考え・意見について（いずれかを○で囲ってください）

大いに賛同する【191人】／概ね賛同する【81人】／賛同しない【1人】
無回答（無回収 49人・回収無回答 3人）＜52人＞

【保護者の考え・意見 その2】

2. Uターン者や移住者増加の取り組みを行い、過小規模校の特性を活かすための児童数増加を目指します。

保護者のこの考え・意見について（いずれかを○で囲ってください）

大いに賛同する【188人】／概ね賛同する【81人】／賛同しない【2人】
無回答（無回収 49人・回収無回答 5人）＜54人＞

【保護者の考え・意見 その3】

3. 子ども一人ひとりが学ぶ中、地域に愛着や誇りを持てるよう、地域の方々により理解を求め、さらに連携を深める取り組みをします。

保護者のこの考え・意見について（いずれかを○で囲ってください）

大いに賛同する【187人】／概ね賛同する【85人】／賛同しない【1人】
無回答（無回収 49人・回収無回答 3人）＜52人＞

性別・ご自分の所属地区に○をつけてください。男(128人)・女(130人)・無記載(15人)

上【48】大倉【19】山下【45】畑ヶ中【40】平均年齢 62.5歳(記載 233人)
加藤【48】平田【45】久所【29】上の台【51】記載回答人数 273人/325人

4. 学校再編に関する神余地区の考え・意見～まとめ

(1) 保護者のまとめ

①保護者の考え・意見と更なる姿勢

学校再編の課題に関する保護者会を9回開催し、偏った視点に陥ることのないように議論を重ねました。現神余小学校の教育環境の良し悪しを、わが子の姿・成長を改めて検証しながら、また小学校卒業生の声に耳を傾け、加えて様々な教育のあり方論を確認しながら、より客観的で妥当性のある判断・考察に努めました。わが子のより良い教育環境とは？あるべきより良い教育環境とは？を保護者相互にて問い掛け合いました。これらをもとに改めて個々へのアンケートを実施し、当報告書2のアンケート結果～整理と分析及び保護者の決意としてまとめました。

臨む考えは安易な理想郷ではなく、現に在る小さな学校教育での良さをより伸ばし活かす、新たな学校づくりへの提案・提示と考えます。現実に過小規模校での適正少人数の維持確保に向け、地域の方々のご理解ご協力を頂きながら取り組んでいる「子育て世代～空き家情報」、同じく「魅力ある小規模校教育」の広報活動への反応・反響も大きく、成果として令和5年度現在までに3世帯児童数5名の増加が見られています。微動ではありますが新たな神余小学校づくりへの希望と考えます。同時にこれらの動きは、保護者アンケートの質問事項3にて最多の賛同を得た②「～市・教育委員会等に特認校制度・山村留学～様々な制度についての調査や研究を依頼し、これからの子どもたちに必要な学校づくりをしていく」に繋がるものと考えます。

このように新たな取り組みにも積極的に挑み、市内地域にはない過小規模校の魅力を活かした新たな学校づくりに向け、保護者一同団結し自ら活動することを改めて決意しました。これまでの地域のご理解ご支援に甘えることなく、地域に生きる新たな歴史ある小学校づくりを目指すものです。

(2) 地区民のまとめ

①保護者の考え・意見を第一とする区民の姿勢

館山市学校再編及び小学校教育のあり方等への区民の意向は、一貫して現神余小学校保護者及び入学予定者の保護者の考え・意見を第一とする姿勢であります。

歴史ある神余小学校への区民の思い、考えは、年代に応じた母校愛、郷土愛として一人ひとり綴られます。変わりゆく時代と共に、人の価値観も

多様となり、教育のあり方についても幾度となく問い直されてきています。これらを踏まえ、学校再編の課題である子どもたちの教育環境等のあり方については、当然ながら現保護者等のわが子への思い・教育への考え方を第一とし、区民はその考え・意見に耳を傾け意思表示をする動きとなりました。その一環にて、保護者の考え・意見に対する「区民アンケート」及び「区民集会」を実施し、当報告書3・4の結果となりました。

②区民アンケート結果～整理と分析及び区民集会

神余地区在住・18歳以上の成人(小学校保護者含む)を対象に実施しました。

アンケート配布数 325 記載回答人数 273人 回答率 84.0%

【保護者の考え・意見 その1】

1. 神余小学校(過小規模校・複式学級)の教育は、一人ひとりを大切にし、一人ひとりの良さを伸ばすとても優れた環境にあると確信しています。この良さをより活かした学校づくりを切に希望し、保護者自らも取り組みます。
大いに賛同する【191人】／概ね賛同する【81人】／賛同しない【1人】
無回答(無回収49・回収無回答3)<52人>

【保護者の考え・意見 その2】

2. Uターン者や移住者増加の取り組みを行い、過小規模校の特性を活かすための児童数増加を目指します。
大いに賛同する【188人】／概ね賛同する【81人】／賛同しない【2人】
無回答(無回収49・回収無回答5)<54人>

【保護者の考え・意見 その3】

3. 子ども一人ひとりが学ぶ中、地域に愛着や誇りを持てるよう、地域の方々により理解を求め、さらに連携を深める取り組みをします。
大いに賛同する【187人】／概ね賛同する【85人】／賛同しない【1人】
無回答(無回収49・回収無回答3)<52人>

現保護者の考え・意見その1～3への回答内容は、大いに賛同する、概ね賛同する、賛同しない、また無回答共に、ほぼ同数の回答数でありました。分析としては、各地区集会時での反応から考察すると、保護者等からの説明にて、その趣旨・考えに概ね理解を示しながらも、詳細内容や見通しに、自信・責任が持ちきれないと判断した方が3割程いたと考えます。半信半疑な受け止めと、謙虚な姿勢による判断が「概ね賛同する」に反映

されたと考えます。また、無回答(未回収含む)が配布数の2割弱を数えた点は、当初の予測を上回り残念な結果でありました。校舎新築時の機運、地域熱から20年ほど経過し、過疎化・高齢化による世帯状況の変化により、当事者意識の弱まりが加速した結果であり、現実の課題として真摯に受け止めています。その中、「大いに賛同する」が記載回答の7割を占めたことは、保護者にとっては、大いに勇気づけられたと言えます。

【8月23日 区民集会の状況と分析】

出席者46名(学校再編委員会関係者含む)

1. 区民アンケート結果報告及び質疑応答

学校再編委員会より報告・説明 / 結果報告に関する質疑なし

<他の意見>

※地域の学校での子どもの姿・話題と地域住民(特に高齢者)の活性化

※神余に転居、わが子の成長、地域の学校教育への熱心さに感銘を受ける

2. 今後の神余学校再編委員会の動きについて

学校再編委員会より、基本的な姿勢と神余地区報告書作成の概要説明

3. 意見交換(質疑含む)

※神余小学校の現況と過小規模校、極小規模校等の内容・表現等の確認

※今後の入学児童の推移の確認

※神余小PTAが取り組んでいる「空家活用プロジェクト」の確認

※神余再編委員会の立場、ワーキングのあり方の確認

※過小規模校のメリット・デメリットの整理と課題の克服について

※館山市全体の学校再編の見通しと、現時点での計画の有無について確認

※別途に、神余小学校への区民の思い・考えを募る機会の必要性について

【分析】

出席者の区民アンケート結果(数字)への関心度は自ずと高く、学校再編委員会からの報告・説明を聞く中で、予想と理想と結果状況を、各々にて整理していたと考えます。様々な視点・立ち位置からの意見を交わす中で、現保護者と地区民の立場の違い、逆に必要不可欠な連携等のあり方が、改めて確認されたと考えます。同時に、議論の真ん中にある「地域の学校ありき」が鮮明となり、神余小学校のあり方は保護者・地区民一対で語られるべきものであると確認されたと考えます。

③保護者の考え・意見に賛同し支援する区民の姿勢と決意

②の区民アンケート結果～整理と分析における、配布数2割弱の無回答を現状と今後への厳しい意見、意思表示として受け止めつつ、また区民集会での状況を踏まえて、以下を区民の考え・意見の総体的なまとめといたします。

<区民アンケートに応える思い・・・>

学校再編に関して現保護者が様々な議論を重ねた上での「保護者アンケート」の結果～整理と分析及び保護者の決意を、地域・地区民への問いかけ投げ掛けとして理解し、「区民アンケート」にて応えました。地区民として進む少子化・高齢化を肌で感じる日々での現保護者の決意等の受け止めは、改めて当事者意識を呼び起こす少々重いものでした。学校教育のあり方、神余小学校のこれからを改めて、また新たな思いとして考える際には、神余小学校をこれまで支えてきた区民としての自負と新たに抱えるべき責任感がより交錯し、一人ひとりの胸に多くの迷いと葛藤が生じたと考えます。

<回答が示すものは・・・>

区民一人ひとりのこの区民アンケートの判断には、神余小学校の歴史の重み、校舎新築等の節目、これからの小学校とあるべき地域の姿等の思いが連なり、単一に応えきれない奥深く複雑な思いが秘められています。一途な地元愛からの「地域の学校」「おらが学校」意識では済まされない、世帯構造の変化、少子高齢化等様々な現状・課題を認識しながらの、改めての・新たな判断・意思表示と言えます。

<総体的なまとめ>

神余小学校現保護者のアンケート結果と決意にある内容を各地区集会、また区民集会にて確認し、区民アンケート配布対象者の8割を超える方々が、「小規模校での魅力ある教育、更なる活用のあり方、必要性・有効性・将来性を踏まえた前向きな姿勢・考え等」に理解を示し、受け入れ、希望を含め賛同したと捉えています。同時にその方向性には地域の力となる区民一人ひとりの参画が不可欠であることも理解し自覚していると考えます。

神余小学校のこれまでの歩みと課題を踏まえつつ、可能な限りの取り組みに挑み、神余小学校の改めての存続と更なる発展を期し願うものです。

以上

(要旨)

保護者会	● 歴史ある小さな神余小学校の良さを守り、さらに活かしていく 1. 神余小学校(過小規模校・複式学級)の教育は、一人ひとりを大切にし、一人ひとりの良さを伸ばすとても優れた環境にあると確信しています。この良さをより活かした学校づくりを切に希望し、保護者自らも取り組みます。 2. Uターン者や移住者増加の取り組みを行い、過小規模校の特性を活かすための児童数増加を目指します。 3. 子供一人ひとりが学ぶ中、地域に愛着や誇りを持てるよう、地域の方々により理解を求め、さらに連携を深める取り組みをします。
神余学校 再編委員会	● 神余小学校のこれまでの歩みと課題を踏まえつつ、可能な限りの取り組みに挑み、神余小学校の改めての存続と更なる発展を願う。 ○ 保護者の考え・意見を第一とし、賛同し支援する。

【 第 2 テーマ 】「館山市立小中学校再編計画」（素案）に対する意見交換

（検討期間／令和 5 年 11 月～令和 6 年 7 月）

令和 5 年 11 月 学校再編調査検討委員会（素案公表）

- 神余小学校の存続は出来ない
- 複式学級ではない学年単一学級規模の小規模校を市内に残す必要があるとの保護者意見（少数ではあるが）を踏まえ、市内全域の保護者・児童の選択肢を確保するため「小規模特認校」を1校設置する。
- 設置場所は（現）房南小学校施設を活用し、通学区域は「神戸地区・富崎地区・神余地区の児童」及び「その他の地区から通学を希望する児童」とし、スクールバスによる通学支援を行う。
 - ☞ （現）房南小学校施設とした理由は、令和 20 年度においても一定の学校規模（学年 15 人程度）を確保できる可能性が高いこと、学校施設・設備の状況、市全体の人口動態、自然環境、災害リスク、移住施策との関連性などを総合的に考え判断
 - ☞ 教育環境の更なる改善のため、（現）房南こども園機能を房南中学校施設（統合後）に移転し、幼保・小の連携強化を図るとともに、学童クラブ運営の公設化に関する検討を行う方針を示した。
- その他の学校については、多数の保護者が望む「標準規模校（クラス替え可能な規模）」を中期的に維持可能な学校再編を実施する。
- 学校再編後の豊房小学校跡地を利用し、専門性を高めた、不登校児支援・発達支援機能の充実強化を図る。



令和 6 年 1 月 神余学校再編委員会（素案に対する回答）

結 論

同素案に対して反対（委員会の総意として）

各委員の意見（理由等）

（素案全体に関するもの）

- 令和 5 年 9 月市教育委員会に提出した「神余地区報告書」の内容が一つも入っていない。この報告書は、保護者含め神余地区民全員に対してアンケートを行い意見集約したもので、これが神余の意見の全てになるため、今回の素案について賛同できません。
- 神余の報告書が活かされた素案の作り直しが、子供の教育環境をより良くするものに繋がると考えています。
- 神余の再編委員会の中でも、市が進める学校再編の全てに反対している訳ではない。あくまで、市教育委員会から提示されている子供達のより良い教育のためどうしたらいいかというのを前提に動き出し、その結果、子供が減ったから単純に統合するということにはならなかった。
- 神余としては、過小規模になっているが、保護者・地域を含めそれが良いという結論になった。そういう教育を子供達に受けさせたいという決意の数字が出ている。

- 子供の教育を第一に考えることも大切だが、地域との繋がりも大切だと考える。子供達は、その地で生まれ育ち地域から色々なことを学び、地域との繋がりの中で生きている。神余では、小規模特認校的なもの（地域連携）を150年も行ってきた。
- 今年度に入り4世帯6人が移住してきています。あえてここを選んできているので、この学校がなくなると切実に困ってしまうので、そういったことも考慮して欲しい。



令和6年2月～3月 神余小学校保護者会（意見交換）

（意見交換テーマ①）

今以上の小規模化が予測（例：学年1人・全校10人程度）されるが、その学校教育環境について保護者としてどう感じるか？

- 学年1人になることが、それほど論点だとは考えていない。私の子供の同級生は2人いたが、そこに重きはなく、学校全体で家族のような、親戚のような形で過ごせる。皆で一緒にご飯を食べ、昼休みも全員で遊ぶ。よって、学年の人数が少ないことについて、デメリットだとは思っていない。
- 複式学級では、常に上下の学年とセットで1年毎にメンバーが変わるため凄く新鮮。現在の4年生の子が最近まで学年1人だったが、その保護者も同じ意見を言っており、学年1人ということに関しては、全く気にならない質問だと思う。
- 卒業生10人くらいからアンケートを取っているが、デメリットよりもメリットが多いという意見が出ている。
- あらゆる世代で楽しいことや大変なことを一緒に経験できる。大人でもフォーカスしきれない。2人だから大変とか、6人だから良いということではない。どの場面も、色々な世代が様々な関わり方をする。そういう（人数）視点で測れないのが神余小の魅力
- 異学年の子と関わりあうことで子供達自身が理解しあえる環境にあると思う。学校は、同年齢（同学年）で教育するように作られているが、大人になると年齢はあまり関係なく、職場などでは年齢の違う人が集まり、その中で、人とのことを年齢で判断するわけではない。関わりあう力を複式学級では学ぶことができる。
- この人数だからこそ、地域が接しやすいのだと思う。例えば、栗拾い・タケノコ狩り・こんにゃく作り等の体験に、地域の人も呼びやすい。それも魅力の一つだと思う。

（意見交換テーマ②）

神余小学校での教育を、新たな小規模特認校（房南施設）へ繋ぐ方策について

- 神余に愛着がある。そこに根付いている文化や習慣、地域の人たちの学校への認識や思いが積み重なっている。
- 小規模特認校に近いことを神余では150年ほどやってきた。それは誰も意識はしていないが、子供達のために良かれと思って地域も含めて行ってきた。思いを繋げていったら小規模特認校的なものになっていた。そういうことを考えると、市内の別の場所という話とは違う。

- 過去にPTA会長をしましたが、その時よりも前から学校が地域の中心になっていた。それを違う場所と言っても直ぐには出来ないと思います。今でもPTA会長がどんどん進化させて、周りにコミュニティを作っています。ただ小さければ良いということではなく、こういう所（神余）だから良いのだと思います。よって、房南に繋ぐというのは難しいと思います。
- 国技館で力士の方たちが相撲を取るように、この学校・この校舎・この地域に神余小がないと、ここじゃないと駄目だと思います。
- 150年前から小規模特認校のような活動をずっと続けていた。それをわざわざ向こうに行って同じようにやるということの基盤・実績がない。神余の思いを持ったまま、房南に行っても、温度差が出てしまうと思う。
- 房南は房南で学校があっても良いし、それとは違うことを必要とする人もいるので、神余にも学校があっても良い。
(※多くの人が学年15人以上の人数が良いと思うが、そうではない人達もいる)
- 房南にも神余小みたいな小規模特認校を作るのはいいとは思いますが。そのためにはどうしたら良いかという、今、神余小を無くすのではなく、お手本にして小規模特認校を作っていくことが唯一繋いでいく方法です。

(意見交換テーマ③)他地区への説明について

- 他の学校は学校再編（統合）したいという考えだが、私達は残したい、もっと良い学校にしたいという思いがある。
- 今回のスタートには、保護者がどういう学校を求めるかという話があったと思います。他地区では、クラス替え可能な規模での再編という結論であり、神余だけはこのままで良いという結論になった。このままで良いと言っているのに、再編の中に入っていることが問題であり、再編したいところで再編すれば良いのではないか。
- 以前（十数年前）は、市内大部分が再編に反対という結果だったと思う。今回は、神余は残したい、それ以外の9地区は再編したい。前回と今回で何が違うのかということをもう少し意識して欲しい。
- 神余小を小規模特認校にすれば、全市民の選択肢となり不公平感は無くなる。
- 私達（大人）が出来ることは、いかに子供たちに選択肢を与えることが出来るかということだと思う。神余はこのまま残して来たい人が来られる学校にして欲しい。
- これから小規模特認校を新たに作っていくというなか、神余の歴史や経験、保護者や地域の方の情熱を使わないというのは資源の無駄だと感じる。予算を無駄にしないことや施設を無駄にしないことは、大事な視点だと思います。だからこそ、今ある神余の資源を使わないということは勿体ないと思う。神余の環境は、文化財的なものだと思っています。文化財を壊して新しいビルで実験するというのは、それこそ無駄になると思う。房南小に小規模校を置くことも何故そうなるのかと思った。神余小で小規模特認校やってみて、上手くいった場合、人気でて人数が増えて1学年15人以上となれば、今度は房南にも設置して広げていくことができる。次の取組にも繋げていける。教育の視点から、更に移住者も増えてくるという好循環が生まれるかもしれない。小規模特認校の成功例を1校目、2校目と出していけば、移住者も増えて税収も上がり、教育費の予算も増える。そういう風に考えていけたら良い。

令和6年3月 神余小学校保護者会（新たな要望について）

（新たな保護者要望）

～県内他団体における小規模特認校の視察研修を通して、保護者の新たな考え～

- 神余小学校の展望として、小規模特認校の指定を要望する
- 市学校再編への、保護者及び神余地区の結論は、提出した「報告書」の通り、現神余小学校の存続であり、加えて市・教育委員会と共に子供達のために「過少規模校の良さをより活かした新たな学校づくり」である。県内他自治体の小規模特認校指定の2校を視察し、改めて神余小学校の展望を考え、新たに保護者の要望として提示するものである。
- 過少規模校の特色を活かした「小規模特認校の指定」を要望する。

＜要望根拠と取り組み方＞

（1）実績として備わっている「小規模特認校の要素」をもとに、特認校指定での新たな学校づくり。

- ① 歴史的に見る一人ひとりへのきめ細かな教育と活動 ～ 150年の歴史の中、40年以上前より蓄積された過小規模人数での活動は、その根拠・手法・効果ともに教育的財産である。
- ② 歴史的に見る地域との結びつきと支える体制 （提出した「報告書」の通り）
- ③ 新たな学校づくりへ、確認された地域の賛同と連携（提出した「報告書」の通り）

（2）神余小学校の既存校舎を活かした、新たな学校づくり

- ① 建替え22年にて、充分可能な有効活用 ～ 経年劣化が極めて少ない。仕切り壁が可動式のオープンスペース型構造及び環境にて、少人数教育の活動に適している。
- ② 既存教室の許容10名を活かした体制づくり ～ 1学年10名規模の少人数教育を目指す。
- ③ 複式学級の可能な限りの解消を目指す ～ （例）1学年の児童数が7名の場合は3名までの転校生を受け入れる。翌年この学年が上がる際も3名まで受入れ可能



（保護者会からの要望に対する館山市教育委員会の考え）

- 神余小学校のみを母体とする小規模特認校に指定することは出来ません。
- 「神余だからできる」、「神余固有のヒト・モノ・コト」をも包摂した、新たな小規模特認校づくりを提案する。

（理由）

- 今回の市全体を対象とした学校再編の目的は、急激な少子化の時代にあっても「子供達にとって、より良い学校教育環境を提供する」ことを目指し実施しているものです。
- しかし「より良い学校教育環境」とは、それらを提供する教職員の立場と、享受する側の児童・保護者、それぞれの主観的な見方・感じ方によるものであり、客観的な判断基準を見いだすことが出来なかった事実も残りました。
- 教職員の立場から「より良い学校教育環境」について意見聴取をすると、一定の児童数の確保が必要であるとの意見が圧倒的多数であり、それらは県内自治体にて複式学級を編成する学校は極めて少ない実態からも見て取れます。
- また、保護者の立場から「より良い学校教育環境」について意見聴取をすると、多数の保護者は、一定の児童数がある学校規模を望んでいるものの、少数ではあるが小規模の学校規模を望む意見もあったところです。
- このようにそれぞれの立場や少数意見を尊重するなか、今回の「館山市小中学校再編計画（素案）」の中に、市内で1校の小規模特認校を設置する案を示したところです。
- 素案に示した小規模特認校は、房南学園施設を活用したもので、その大きな理由は、複式学級の編成を回避し、効果的な教育活動が最低限確保できる児童数（1学年15人）を中期的な見通しの中で目指すことができるためであり、それを満たす環境（校舎等の耐用年数、ユニバーサルな環境）を備えている。
- 神余地区からの要望根拠にある1学年10名規模を目指すとした部分については、県内先進自治体の現状においても、学区外からの流入児童数が学区内児童数を上回することはほぼ無く、神余地区の未就学児人数（学年1名～4名）を考慮すると非常に課題が残るものと考えます。
- 仮に学年10名、全校60人の児童が集まり複式学級の解消が図られた場合、手狭な運動場や校舎機能、老朽化した講堂における学校教育環境は、子供達にとって「より良い教育環境」とは言い難いものです。また、それらの改築・大規模改修には、多額の市民負担が発生し厳しい行財政運営の中において、市民理解を得ることが難しい状況です。
- 現在の館山市の人口規模や既に小規模特認校を設置している県内他自治体との比較による考察では、仮に市内に小規模特認校を2校設置した場合、それぞれの小規模特認校において複式学級を編成する可能性が高まり、教科学習面からのデメリットが多く子供達にとって「より良い教育環境」とは言い難いものです。

（まとめ）

- 市教育委員会では、神余地区の保護者や地域の皆さま方と数多くの意見交換を重ねてきました。これら意見交換を通じて、今回の要望根拠にある「歴史的に見る地域との結びつきと支える体制」及び「新たな学校づくりへ確認された地域の賛同と連携」については、深く共感するものであり、本校舎として考える（現）房南学園に加え、（現）神余小学校並びに周辺環境を学習活動の場（キャンパス）として活用した「小規模特認校」の設置について、神余地区の皆さまへ提案します。

令和6年6月 神余小学校保護者会（新たな提案に対する回答）

- 私達の要望とはかけ離れており、新たな提案は、受け入れることは出来ない。
- 神余小が無くなることには変わりなく、母体として残らないのであれば（キャンパスでは）意味が無い。
- 神余小を活用する案を考えてくれたことは感謝している。しかし神余小の特色や小規模校の良さは今の神余小があってこそ。神余でなければならないのかという理由が、私達にはある。
- 房南と神余を、平等に使うように見える案だが、読み込むとそうではなく驚いた。
- 私達の意見を聞いて、教育委員会として、もう一度考えて欲しいということが総意である。

（「議事録」参照／P92～103）



令和6年7月 神余地区住民との意見交換会

（神余区長会一同・神余学校再編委員会一同から教育長宛て要望書提出）

- 令和6年7月29日（月）午後7:30～10:30 神余小校舎／参加者50人

○ 神余小学校の存続に関する要望書

館山市の学校再編については、「将来に向けた学校のあり方に対する基本指針」にもとづき、市内10地区にて「学校のあり方を考える会」が組織され、各地区にて意見集約がなされ報告書が提出されました。これをもとに「館山市立小中学校再編計画（素案）」が作成され発表されました。現在まで市内9地区において再編計画（素案）に対する意見交換が行われ、各地区においては、それぞれの意向が再編計画（素案）に反映されているとの判断にて、特に異論は無いものと認識しております。

当神余小学校に関しましては、「神余地区報告書」の通り、新たな発展を期しての存続希望としております。この間小学校保護者は、県内の小規模校を視察し、改めて「保護者として考える望ましい学校規模」についての考えを確認しています。直近の区民集会においては、その経過報告がなされると共に、神余小学校の存続を切望する揺るがない決意が語られ、参集した区民一同の賛同を得ております。

小学校保護者は教育長並びに教育委員会の皆様との意見交換にて、神余小学校の存続を一貫してお願いしておりますが、ここに改めて神余地区として、神余小学校の存続を要望します。併せて存続として学校再編計画（素案）の再考を要望いたします。

Ⅰ 学校再編の基本指針に沿い、適正な組織（神余学校再編委員会）にて、保護者・地区民の意見を集約した「神余地区報告書」を重要視していただきたい。

Ⅰ 改めて神余小学校の歴史的歩みと実績を見直し、神余小学校を館山市の小規模校教育の新たな実践として活かしていただきたい。

（意見交換については、「議事録」参照／P104～114）

神余地区（保護者）・教育委員会（教員）それぞれの主張（令和6年7月時点）

～ 子供達にとってより良い学校教育環境について ～

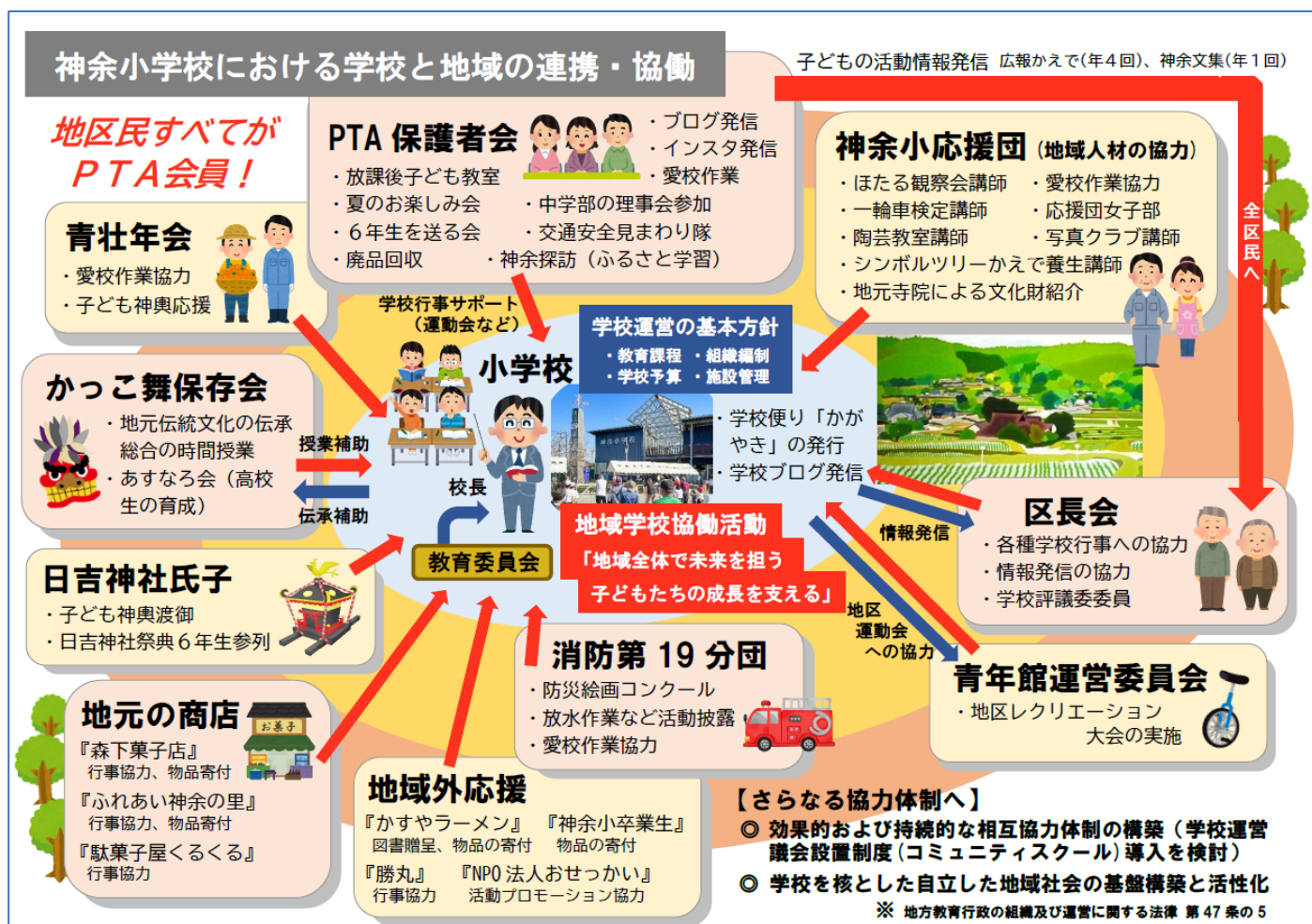
結論	◎ 神余小保護者、教育委員会のそれぞれが、子供のために思い考えているが、保護者・教員の視点・知識・経験が違うため、意見の一致に至っていない。
神余地区	● 児童一人ひとりを大切にし、一人ひとりの良さを伸ばすとても優れた環境である。 （令和5年9月／神余地区報告書より） （神余学校再編委員会） ○ 過小規模（複式学級）になっているが、保護者・地域を含めそれが良いという結論であり、そういう教育を子供達に受けさせたいという数字が出ている。 ○ 子供の教育を第一に考える中で、地域との繋がりも大切だと考える。子供達は、その地で生まれ育ち地域から色々なことを学び、地域との繋がりの中で生きている。神余では、小規模特認校的なもの（地域連携）を150年も行っている （保護者会） ○ 学校全体で家族・親戚のような形で過ごせる場所。皆で一緒にご飯を食べ、昼休みも全員で遊ぶ。学年の人数が少ないことを、あまりデメリットだとは思っていない。 ○ 複式学級では、常に上下の学年とセットで1年毎にメンバーが変わるため凄く新鮮。学年1人ということに関しては、全く気にならない。 ○ あらゆる世代で楽しいことや大変なことを一緒に経験できる。どの場面も、色々な世代が様々な関わり方をする。そういう（人数）視点で測れないのが神余小の魅力 ○ 少人数で目が届いているけど口を挟まない、危ないときは止められる、その環境の方が良く保護者も安心する。 ○ 学校への楽しみ、学びの楽しみを感じないみたいなものが日本の一斉教育の課題点であり、個人教育の強いこういう小さな学校が、子供たちの本当の受け皿になってくる。 ○ 自分の子供を過少規模校に通わせ、いろんな場面で子供の成長を見てきている、それは通わせてみないと分からない。通わせてみたからこそこういう学校は必要 ○ 児童全員がリーダーの経験をする。今の規模が1番良い。 ○ 過少規模校として学校が培ってきたノウハウみたいなものが、ここに積み重なっている。 ○ 神余に来て地域の方や学校が家族のように温かく信頼関係を築けた。そのおかげで子供に自信が付いた。神余小のような規模を望む人もたくさんいると思う。 ○ 家庭教育は子に影響を与えるが、神余では親も育ち、親が成長しリードする立場となる。 ○ 神余の文化の中で子供も親も育っている。子供たちの育成を考えたとき、地域と学校は切り離せない。

教育
委員会

- 更なる小規模化に伴い、学校教育現場においてメリットよりもデメリットの方が更に顕在化してしまふ。
 - 小規模化の進行により、学校教育現場において子供達に経験させられないことが多く、この神余小の規模が良いとは言えない。学校を再編して、これからの神余地区の子供達により良い学校教育環境を提供すべき。
 - 児童数や教職員が少なすぎるため、神余の地域資源を学校教育に活用しきれていない状況である。しかし、新たな小規模特認校プランでは、今までよりも多面的・多角的に学校教育を行うことが出来ると考える。
 - 学校教育の部分は、今より良きものを提供し、地域の皆さまが中心となる家庭教育や社会教育については、ある程度、今までのことを継続していけると考えているため。
- (学習面)
- 教員数の更なる減少に伴い、わたりによる授業回数が増加し、教員による直接指導が、通常の半分の指導時間数にて年間課程を修了する。
 - 実験・観察・見学などが多い理科・社会の授業においても、半分の時間(20分)にて知識を中心に展開することとなる。
 - 子供同士で考えさせる、話し合いでの学習が成立しない。(教科学習は個別指導となり、発達段階に応じた集団において、課題を考え議論をして解決する、そのような学習経験を積むことが出来ない)
 - 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏など、集団学習の実施に制約が生じ、集団学習の醍醐味を経験出来ない。(横展開の班活動やグループ分けは不可能)
- (生活面)
- 子供同士の間関係のトラブルが発生すると、逃げ場が無くなる。
 - 卒業までの同じ仲間による間関係の固定化、男女比の極端な偏り(異性が存在しない)が発生する。
 - 教員と児童との心理的な距離が近くなりすぎる。年齢層・性別など多様な教員と児童が関わることが難しくなる。
 - 子供には子供の世界があり(大人の目が届かない仲間関係や上下関係など)、子供の世界を大事にするためにも、もう少し大きい集団で学校生活を送らせたい。
 - 教員の感覚として、再編をして友達・仲間が増えたら、嬉しく喜んでくれると感じる子供が多数であり、嫌がる子は極めて少ないと思う。子供の世界を広げてあげるのが大人の役割(他の自治体や館山市(富崎小)の事例を見ても、複式学級から小規模校へ統合した子供達は、一様に肯定的な意見が多かった)
- (学校運営面)
- 教職員一人当たりの負担が重くなる(複数学年分の教材準備・行事・校務負担等)
 - 教員の休暇に伴い、学校全体の教育活動に影響が発生する。
 - 教員同士が切磋琢磨する環境を作りにくく、指導技術の相互伝達がなされにくい。
 - 経験年数・専門性・男女比等バランスの取れた教員配置やそれらを生かした指導の充実が困難となる。

（参考資料）神余小学校における学校と地域の連携・協働図

※ 神余学校再編委員会作成



令和6年6月26日 保護者会

(新) 小規模特認校プランに関する意見交換 議事録

(※) 下線部分は、保護者の視点・教員の視点、それぞれの立場から「子供達にとってより良い教育環境」について意見交換した部分

発言者	要 旨 (● 保護者 ○ 教育委員会)
保護者 代表 (女性)	● 神余小をキャンパスとして活用する案が出された。その案を払いのけるでは無く、保護者会を開催し考えを出し合った。以下感想です。 ・ 結局、神余小が無くなることだなと思った。 ・ 母体として残らないのであれば、意味が無い。 ・ 神余のことを考えているが、我々の要望とはかけ離れている。 ・ 房南と神余を平等に使うように見える案だが、読み込むとそうではなく驚いた。 ・ 神余小の特色は、神余小があつてこそのものであり、キャンパスでは意味が無い。 ● 神余小を活用する案を考えてくれたことは感謝している。しかし神余小の特色や小規模校の良さは今の神余小があつてこそ。どうしても神余小でなければならない理由が、私達にはある。それをずっと訴えてきた。 ● 私たちが案について考えたように、教育委員会も私たちの意見を聞いて、もう一度考えて欲しいということが総意である。
教育 委員会 (教員A)	○ 5年後 10 年後を見据えた中、このまま学校を残すことが子供達の教育環境として最善な方策なのか。今一度、学校機能としての視点から話をしたいと思います。 ○ もし、私が今の神余小に配属されたら、今の子供たちをどう育てるかを一生懸命考えます。教育内容をどう決めるかは、子供たちをどんな大人に育てたいのか、社会を作る人としてどう育てたいかが一番大きい目標になります。その中で、子供たちの実態を見たときに小学校卒業までにどこまで育てるかを考え、実践していくことかと思っています。 ○ 私は小学校のうちに、<u>自主的な力(課題を考え集団で議論して解決)</u>を付けさせたい。小規模の中で学力は個別に細かく教えると力が付く。神余小のような縦割りの活動をしている中でリーダーになることはできる。しかしながら同学年、同じような発達段階の集団の中でリーダーやフォロワーの経験はできません。フォロワーの経験も大切、周りで支える力も低学年から育てたいと思う。学校ではそれらを意図的に行っています。 ○ 神余小でそういう力を付けさせたいと思うと、教員としては困る。この規模では、正直難しいのかなと思います。一定の学校規模では、同じ学年でも学年を超えてもできるが、今の時期(市内全域で学校規模を考えられるタイミング)で学校規模を考えたとき、この神余小の規模が良いのかというと、そうは言えない。 ○ <u>最低でも学年 10 人以上、15 人ぐらいの規模であって欲しい。発達段階に応じた経験・学習をさせたい、それが率直な想いです。</u> ○ 少人数できめ細かい学習ができることはとても良いことだと思うが、その一方、子供には子供の世界があると思います。大人の目が届かない仲間関係や上下関係があつたりすると思います。<u>子供の世界を大事にするためにも、もう少し大きい規模であって欲しく、今の神余小は少なすぎると感じます。</u> ○ 現在、取り組みをされている移住について素晴らしいことだと思う。しかし、5年後 10 年後を

発言者	要 旨 (● 保護者 ○ 教育委員会)
	見据えたとき、今と同等な児童数を維持できるのか？ 更に減少したとき、そこで学ぶ子供たちのことがかなり心配となります。 ○ 市内音楽会には、神余小は全校で出ている。これが10人前後になった場合、合奏・合唱の音の重なりも成り立たないのではないかと。運動会は地元の方もたくさん駆けつけ、地域全体として盛り上がっている。しかしながら、子供たちにとって競争を楽しむ形式（紅白に分けて競い合う）の運動会に果たしてなっているのか？ 私の価値観の中での話になってしまうが、今まで経験した中ではそう感じました。 ○ 房南小と一緒にすることをイメージして欲しい、同級生が数人から10～20人規模になることを。もし一緒になったとき神余の子供達は、困るのかな？喜ぶのかな？悲しむのかな？嫌がるのかな？と考えたとき、私は教員の感覚として、嫌がる子は極めて少ないのではないかと、<u>友達が増えたら、仲間が増えたら、嬉しく喜んでくれると感じるだろう</u>と思います。当然それは、私の主観であるが、前に皆さまに渡した資料にあるように、<u>他の自治体（富津市）や館山市（富崎小）の事例を見ても、複式学級から小規模校へ統合した子供達は、一様に肯定的な意見が多かった</u>という事実もあるところです。 ○ 神余の皆さんが、今の神余小が良いということは理解しているが、そこから一歩踏み出してみたい。子供たちがどのような反応をするのか？ <u>子供の世界がどう広がるのか？</u>それをイメージして貰えたらと思います。
保護者 （女性）	● 音楽会の話が出たが、神余小は全校児童で出ている。人数が少ないことは感じるが1年生から6年生までが1つの曲を演奏することは、涙が出るくらい感動する。教育面のことは置き、その光景を否定することはできない。教員は大変だと思うが、他の学校の保護者からは、宝物だと言われるぐらいのもの。 ● 私は神余地区・神余小学校の規模を知らずに、実家の都合で引っ越してきた。神余小に入れるか悩んだが、音楽会を見たときに他の学校に入れていたら後悔したと思うぐらいの感動があった。
教育委員会 （教員A）	○ 私も親であるため気持ちはわかる。親として子供の頑張りについて目が向いてしまいます。 ○ 一方、教員の立場で言うと、音楽会で何を目指すべきなのかを考えなければならない。運動会でも同様だが、<u>教育内容として「何を」「どこまで」高めるかを目標としたとき、今の規模では難しいのか</u>と思います。努力したことを親の前で披露する、見てもらえることは大切ですが、親の視点と教員の視点の捉え方は、違うのかなと思います。
保護者 （女性）	● 教員視点なのか、親視点なのかそこが一番の違いかなと思う。私たちは親視点での話をしているため、その視点を聞いてもう一度考えてほしいと思う。 ● 私達は過小規模校で、何人もの子供を育ててきた。メリットを活かして何十年もうやってきた自信がある。
教育委員会 （教員A）	○ 神余の子を否定する気は一切ありません。立派な中高生・大人が沢山いることは理解しています。 ○ 但し、<u>人数が増えたなら、別のやり方で学校教育ができるな</u>、という視点での話ということをご理解いただきたい。 ○ 先程お話した将来的な人数の話について。皆さんで移住を呼び込む頑張りでこの先増えることがあるのか？ 正直、今以上に増やすことは難しいのかなと思います。

発言者	要 旨 (● 保護者 ○ 教育委員会)
	○ 今後さらに児童が減っていく中で、神余小の良さを維持できるのか、そこをどう考えていますか？
保護者 (女性)	● 子供だけの世界、教員の目が届き過ぎない環境という話について。目が届き過ぎないと悪さをする子も増える。子供は、目が届かないところを探して悪さをすると思う。 ● 神余小のように、<u>少人数で目が届いているけどロを挟まない、危ないときは止められる、その環境の方が良い。</u> ● リーダーを育てたい中でそのような悪さをする子がいた場合、良いリーダーが育つのか？ フォロワーの大切さも話していたが、フォロワーの中にも、難しい子も存在する。そこをどう考えているのか。
教育 委員会 (教員 A)	○ 市内の▲▲小学校は、リーダー・フォロワーを育てることが上手い。子供たちにある程度のことを任せる教育方針で実践している。▲▲小では1年生からクラスで1人1回はリーダーとなり、一定規模の集団の中でそれらの経験をさせ、皆々がリーダー・フォロワーを体験させています。 ○ <u>目が届かないところの話が出たが、良いことも悪いこともあるが、それらを含めて子供の育ち・仲間関係を築ける力に繋がるのかなと思います。</u> ○ <u>確かに標準規模と小規模特認校の規模では、教員の目が届く範囲も変わるため、そのようなきめ細やかな教育環境を希望する(不安を減らしてあげたい)保護者・児童のため、学校を選べる選択肢の一つとして、小規模特認校の案を提示しているところ。</u>
保護者 (女性)	● 人数の話が出たが、私は人数を増やせば良いとは思っていない。 ● <u>教員の目が届く範囲であれば、保護者も安心するため小規模を望む。神余小が房南小と統合した場合、そういった心配もある。</u> ● リーダーとフォロワーの話が出たが、リーダーが最悪ならフォロワーも大変だと思う。<u>神余小ではすぐに教員がいる保護者の目が届く、だからいじめもなく、安心して通わせられる。</u> ● 過去の実体験からも、学校規模が大きくなれば事件・事故のリスクが高くなる。<u>保護者・教員のそれぞれの立場で、よりきめ細やかな対応が出来る環境が良い。</u>
教育 委員会 (教員 A)	○ リーダーとフォロワーの話、事件・事故の話も出たが、そうならないための教育であり教員がいる。 ○ 人数が多くなると心配になる気持ちも理解できるが、だからこそ小規模特認校を設置する案である。
保護者 (男性)	● 私は神余小卒業し当時は全校60人ほどいた。子供も4人いるが皆神余小を卒業している。<u>子は複式学級で学んだが良かったと思っている。</u> ● 私が小学生の時の人数だと、絶対的なリーダーがなんとなく決まっていたが、<u>今は皆がリーダーの経験をする。今の規模の良さ。</u> ● 現在、子は1人しか神余小に在籍していないが、学校が無くなってしまうと他の子も神余には戻ってこないだろう。これだけ地域と一体となっている学校は、残すべき。

発言者	要 旨 (● 保護者 ○ 教育委員会)
保護者 (男性)	● 私は、日本の英語教育はずっと駄目だと思っている。外国に住んでいたのも、色々な国の人とコミュニケーションをしている中で、日本人が置いていかれるシーンを多々見ている。文法など限定的なテストをやる分には、長けているかもしれない。いざその場に出たときにコミュニケーションが取れない、英語も喋れない、聞き取れない状況である。 ● 皆で話をしていると、<u>なぜ神余小の良さがわからないのだろうか</u>という話になるが、<u>そこを理解してもらうことは難しい</u>。 ● 今の学校教育の問題は、<u>一斉教育だ</u>と思う。<u>一斉教育は必要だが、課題にもなっている</u>。それが<u>不登校児を生んでいるのだ</u>と思う。豊房小の跡地を活用してそれらの支援する案が出ているが、<u>そういう話ではない</u>と思う。<u>不登校になる直前の子供達、学校への楽しみを感じない、学びの楽しみを感じないみたいなものが一斉教育にはある</u>と思っている。 ● 一斉教育の良さも勿論あるが、教員・お年寄り・一定年齢の保護者には、<u>学校とはこうである、という想いが強くなりすぎたために、学校教育が行き詰まっている</u>と思う。 ● 人口の問題を言うと必ず人口は減っていく。最善を尽くすべく市役所全課を挙げて対策をしないでほしいと思う。その中で学校再編については賛成しているが、再編する学校が問題であって、<u>少人数としての教育環境がベストだと言えるのは神余小だ</u>と思う。 ● 私達は、<u>小規模校に子供を通わした保護者のプロ</u>です。自分の子供を通わせ、いろんな場面で子供の成長を見てきている、それは通わせてみないと分からない。<u>通わせてみたからこそこういう学校は必要なのだ</u>と思う。 ● 最初から小規模校だったため、<u>学校が培ってきたノウハウ</u>みたいなのが、ここに積み重なっていると思う。大きい学校を小規模特認校にしたような、佐倉市の小規模特認校は不十分・不満足に感じた。神余小は、対策をずっと打ってきている、小規模校として出来上がったものがあると感じているので、多分人口が減少をしても神余小のニーズ(児童数)は変わらないと思う。 ● 神余小のような学校に行きたいという声、今の学校では満足できず、神余小のような学校に行きたいという声を、南房総市の子供も含めてだが私は 30 人ぐらい聞いている。当然、行きたいと思っていても行動に移せる人は限られるとも思うが、団体から個人単位へのシフト、多様化している現代において、<u>一斉教育だけでなく、個人教育の強いこういう小さな学校が、子供たちの大切な受け皿のひとつになる</u>。
保護者 (女性)	● 毎回人数が少ないという話になるが、今まで神余小のような小規模校を卒業した子と標準規模校を卒業した子の教育目標の達成率は、データとしてあるのか。 ● 将来的にも、今の神余小の人数はキープできると思う。150 年間細く長く続いてきた歴史があり、これからもここに学校があれば心配はしていない。
教育委員会 (教員 A) (教育長)	○ 子供達を比較することは難しい。実験はできない、大人になった時に小学生のころ学んだことがどう活かしているのかを判断することは難しいです。なぜなら、学校ごとで比べる場合、同じ子供を両校で過ごさなければならない。それは不可能なことであり、故に教育効果は非常に測定が難しいと言われているところ。 ○ 保護者が最終的に満足できるかという判断はできるが、それを他と比較することも難しいです。 ○ 結果の比較はできないが、教員として経験した中で、<u>子供たちを育て高められる規模</u>という

発言者	要 旨 (● 保護者 ○ 教育委員会)
	のは、今の神余小の規模ではないと感じます。
保護者 (男性)	● 神余小卒業生の中では、中学へ行って部長や委員長になる子もいる。そういった事が保護者としても自信になる。
教育 委員会 (教育長)	○ そういった子が育つのは、神余小の教育が良いと言ってもらえれば非常に嬉しいが、家庭教育が恵まれているからとも思います。学校だけでなく家庭・地域の教育が素晴らしいからこそ、それを館山市全体に普及させて欲しいと思っています。それら、培ってきたものを小規模校で学びたいと思っている子供たちに普及させて欲しいです。
保護者 (女性)	● 再編を行うことは、館山市が良くなるチャンスだと思っている。そのチャンスは神余で培ってきた教育・家族のような地域を使うことだと思っている。 ● 将来の子供たちのことを思うと、素案どおりに再編が進むと逆に不安である。神余から他の学校に通うことになる、郷土愛や地域の方々の想いが無くなるのではないかと思う。 ● 教員の視点と、私達(親)の視点は混ざり合わないだろう。神余小は何十年も前から統合の話はあったが残ってきた実績がある。
教育 委員会 (行政職)	○ 今の若い世代の人口動態を見たとき、若い世代は学校が近くにあるから住居を構えるという客観的な事実はありません。利便性が良い場所や購入可能な価格帯の用地を探している傾向が強く、安房地域の中でも、学校の有無と人口動態の相関関係は見いだせない状態です。(学校が無くなった地区と学校が残っている地区の15歳以下の減少率)
保護者 (男性)	● 神余小で子供を教育できると思ったから、新たに子供を産み育てる決意も出来た。そういう気持ちも理解して欲しい。
保護者 (女性)	● 館山市の人口減少率は、私たちが見てもわかる。人口が減っていることに目を背けているわけではない。 ● 房南小の立派な校舎を見て、あそこではできない教育もあるが、私たちは、あえて神余小が良いと望んでいる。その理由もしっかりある。 ● 各地区の意見交換会で小規模特認校を望む声があると聞いたが、わざわざ「はい 小規模特認校ですよ」と作って与えなくても、その子や保護者が今の神余小に来れば幸せにできる自信がある。 ● 神余キャンパスを活用する案については、皆で理解しようと努め向き合った。神余のことを考えて作ってもらったが、どうしてもこの規模・この場所・この校舎でなければならない。 ● 3月に提出した神余小を小規模特認校へ指定する要望は、小規模特認校という名札をもらえればやり易くなるという理由であって、どこかに小規模特認校を作って欲しいということではない。
教育 委員会 (行政職) (教員B)	○ 私達は、子供たちにとって最善の道は何かと考えたとき、<u>この人数・今後の予測値は最善ではない</u>、というのが最初から話しているところで、地域の話は別として、子供たちにとって何が最善なのかというところで考えていきたい。 ○ 神余小の教育を否定するつもりはありませんし、この規模だから出来ることは確かにあります。ただし、物理的に出来ないこともあり、例えば同学年(横)の教育も必要だと考えている。話し合いで班を作るとき4人グループが一番良く、1人が司会、周りが意見を言うことで話し合

発言者	要 旨 (● 保護者 ○ 教育委員会)
	いの深みが出ます。それが学年で3～4グループあれば、グルー別で発表するなどにより深まりが生まれるものですが、それら横展開の活動が出来ないことは、皆さんはどう感じているのか気になります。
保護者 (女性) (男性) (女性)	● 個人的には、15 人以下だから話合いができないとは思っていない。大人数であればたくさんの意見が出て学べる効果はあると思うが、神余小は学年2人、男女1名ずつのクラスもある。<u>2人であっても意見が分かれる場面も当然ある。たくさんの意見は出ないが、譲り合いや近づき合うことの大変さを学ぶことができる。</u> ● 標準規模校を再編し、過小規模校を残すこと、これは館山市にとってチャンスだと思っている。全国的に例は少ないかと思うが、それが館山市の強みになると思う。 ● <u>クラス2人しかいない経験ができるのは神余小だけである。いずれ中学校では大人数になるため、4人の話合いができる。</u> ● 子供は、大人や学校が見ていない中で成長している。放課後の遊び、川遊び、田植えの経験を通して、喧嘩し話合いをしている。 ● <u>小規模校だからと言って話合いの学びができない、そういった不安は気にもしたことも無かった。子供の数で言うと、メリット・デメリットはどちらもあることだと思う。</u>
教育 委員会 (行政職)	○ 1対1での話合いは確かに神余小でしかできません。子供たちにとって、どちらがより良いのか、という問いかけです。 ○ また、再編して仲間・友達の数が増えれば、放課後・休日の遊びなど子供はもっと楽しいのではないかと考えてしまいます。
教育 委員会 (行政職)	○ 少人数が不幸せな事では無く、子供・親・地域で楽しいと思って学校活動や地域活動に協力してもらっているのだと感じました。ご意見の中に、市の強みやチャンスという話が出ました。学校再編が館山市全体のチャンスだということで、この神余の良さを神戸・富崎地区、新しい小規模特認校で発揮していただきたいと思います。 ○ 神余小だから保護者、地域の方のお手伝いがあり、それが隣の地区に行くことで不便はかけることになるが、皆さんの力で新しいことに挑戦してもらいたいと思っています。 ○ 話合いの学習について話が出たが、<u>クラス15人規模で学べるチャンス</u>を子供たちに用意してあげたい。
保護者 (女性)	● 大規模校から移住して、子供は神余小を卒業したが中学で不登校になってしまった。以前の学校でも不登校気味だったが、<u>神余に来て地域の方や学校が家族のように温かく信頼関係を築けた。そのおかげで子は自信が付いた</u>と思う。 ● 中学校に馴染めず、無理して行かなくても良いと伝えると不登校になってしまった。大きい学校のメリットも理解しているが、<u>神余小のような規模を望む人もたくさんいる</u>ため、残して欲しいと思う。
保護者 (女性)	● 不登校の子供の話が出たが、その子たちも神余のイベントに顔を出している。<u>神余小に来て皆と話をすることで自信が付く。それが地域の温かさ</u>なのだと思う。 ● 神余の良さを房南で発揮してほしいという話が出たが、私たちが房南でそれを発揮することでどうなるかはわからない。混ざり合うことは良いこと、神余の良さを出したい想いはある。ただ

発言者	要 旨 (● 保護者 ○ 教育委員会)
	神余の良さはこの地域・校舎でなければならない。<u>変わりなく何十年も実践してきた強さや自信がある。だからここを残してこれからもやっていきたい。</u>
保護者 (男性)	● 家庭教育は子に影響を与えるが、同時に<u>親も育っている</u>と思う。最初は神余に馴染めなくても何年も経つと、<u>親が成長しリードする立場になる</u>。PTAだから熱心という訳では無く、地域・消防・青壮年などで学び、それがPTAに凝縮されている。 ● 神余小や地域を評価していただいて有難い。ただ<u>神余の良さはここでなければ発揮できない</u>ということは共通理解している。
保護者 (女性)	● 教育委員会のいう、子供たちのための再編という気持ちは理解できる。私達が神余小に拘るのは、<u>神余小に自信があり実績があり、求めてくれている人達がいる</u>。そこをわかって欲しいと思い伝えている。 ● お互い子供たちのためを思って、意見を出し合っていることは確認できた。神余の子供たちに、より良い教育環境を提供してくれる気持ちは有難いが、この学校なら安心して通わせられる、やっと理想の学校が見つかったと<u>移住してきた人もいる</u>。入学してみたら素晴らしい学校だったと言ってくれる人もいる。それは私達、<u>館山市にとって財産だ</u>。移住者は、決して多くはないが、私達にとってはとても大きいこと。人口が増えた訳では無いが、子供が増えることは想像もしていなかった。神余小があることが、<u>館山市のためになると</u>伝えたかった。
教育 委員会 (教育長)	○ 公立学校の設置者は、教育委員会では無く地方公共団体(館山市)です。教育委員会と神余地区との協議が不調に終われば、今後、有識者会議の答申を受け館山市が判断することになります。 ○ 教育委員会として、皆さんの想いを繋げていきたいと思い、神余小をキャンパスとして活用する案を提示しましたが、市の判断が、皆さんが望む、神余小を存続させるということになるとは限りません。教育委員会としては、そうなった場合、皆さんの想いを繋げていくことはできないか、という想いでこの案を提示させて頂きました。
教育 委員会 (教員A)	○ 神余小の教育を継続したいという気持ちは、よく理解できました。また、提示した案と神余小をこのまま存続することを比べると、神余小を残すことが1番望むことも良く分かりました。 ○ 但し、もし神余小が残せなかった場合、神余で大切にしてきたことを少しでも残せる形がないかという思いでこの案を作成しました。 ○ これまでの意見交換の中で、教育委員会が捉えた神余教育の良さとは、<u>学校・保護者だけでなく地区全体で子供たちを育ててきた</u>ということです。教員の数が少ないので、学校教育の中にも保護者・地域の皆さんの協力があつたが、家庭教育・社会教育の部分で支えてくれている部分が正直多いのかなと思います。 ○ 例えば、一輪車検定、ホタルの観察、6年生を送る会も地域との繋がりがあり、<u>学校教育でやりきれないところを、地域や家庭がたくさん苦勞してフォローして下さっている</u>感じがしました。 ○ 房南小で発揮することは難しいという意見も出たが、提示した案は、日中の学習は房南小が中心になるかもしれないが、下校して神余小で過ごすことは出来ると考えています。全て今まで通りとは言えないが、<u>神余に学校(キャンパス)があれば、地域の皆さんで子供たちを支え、多くの部分は継続できる</u>のかなと思います。

発言者	要 旨 (● 保護者 ○ 教育委員会)
	○ 神余小にいる時間は少なくなってしまうが、子供たちは帰ってくる、校舎も使うことができるなかで、 <u>今までやってきたことが、どこまで同じように出来るのかを考えてみては?</u> と思います。
保護者 (女性)	● ここまで神余の良さを見つけてくれて本当に有難い。改めて、教育にとって環境は大切だと実感した。 ● こんなにも素晴らしい環境があれば、より一層神余が良いという考えになってしまう。
保護者 (女性)	● 確かに子供は神余に帰ってくるかもしれない。神余小を活用するという響きは良く聞こえる。しかし、神余小から常に子供の声が溢れていることと、時々声がするでは小学校の生き方が全然違うように感じる。 ● 子供の声が常にあるから、地域の人も集いたいと思う、声が聞こえるのが当たり前だったため無くなるのが考えられない。
教育 委員会 (教員 A)	○ 前回も説明したが、<u>学校教育の観点から神余の地域資源を活用できているか</u>という点、<u>そうではありません。しかし、房南小と再編することで、今までよりも多面的・多角的に学校教育を行うことが出来ると考えています。</u> ○ <u>学校教育の部分は、今までよりもボリュームアップし、家庭教育や社会教育については、ある程度、今までやってきたことを継続していけるのではないのかな</u>と思います。 ○ 神余小にずっと子供がいないと、地域で大切に行ってきたことが出来なくなってしまうのでしょうか？
保護者 (女性)	● 別の地域の学校に行ってしまうと、難しくなるのではないかと。地域の人達も神余小に子供がいるから協力していた部分はあると思う。 ● 地区のレクリエーションも、学校が機能していないのに実施する必要があるのか、という議論になると思う。 ● 房南小と一緒に、神余地区の行事に房南の子供が参加するかもわからない。神余小PTAと地域が協力し合っている中に、房南小PTAや保護者も一緒にやりましようとなった時、房南の人達は戸惑うと思うし、行事は難しくなると思う。
教育 委員会 (行政職)	○ <u>地区レクリエーションなどは、例えば神余地区の子供会などで行うことが出来る</u>と思います。 ○ 子供会の行事は、地区ごとに異なります。神余小学校の施設には社会教育の機能を入れ、地域コミュニティの場として利用できるよう教育委員会は考えています。そのため、地区の行事で使用していただいても構わないということです。
保護者 (女性) (男性)	● 地区のレクリエーションは、学校行事にもなっているため代休がある。房南小と一緒にした時、神余だけが行事を行うことで不公平にならないか心配である。 ● 教育委員会の方には理解が難しいと思うが、<u>学校と地域、各団体が密接に連携を取っている地域であり、それが薄れてしまうのではと懸念している。</u> ● 地区レクリエーションは、学校行事として行っているが、それは一輪車パレードを披露する場面があるから。学校で習っていることを披露する場面があれば、教員も参加しなくてはならず負担となる。よって、学校と協議を重ね、学校行事の一環となった経緯もあり、子供会とは扱いが違うと思う。

発言者	要 旨 （● 保護者 ○ 教育委員会）
教育委員会 （行政職）	○ それらを別のやり方で考える道もあるのではと思います。
保護者 （女性）	● 理解してもらうのは難しいと思うし、説明も難しい。それは地区の文化として根付いてしまっているから。その文化の中で子供も親も育ってきている。<u>子供たちの育成を考えたとき、地域とは切り離せない、だからどうしてもここでなければダメだ</u>という意見も出る。 ● 運動会の練習も、風向きによっては遠くの家まで声が届く。その声で引きこもりがちな高齢者が起き上がり様子を見に来る。それによって子供たちもより頑張る、どうしても地域と切り離せない文化の1つとなっている。物理的に距離が離れてしまえば、その文化を保つことは出来ないと思う。
教育委員会 （行政職）	○ 神余地区だけでなく、他の地域でも地域行事を学校行事の一部として行っているところはあります。 ○ これまで市内の他の地区で意見交換をしていると、ある地区の人達は、今までの伝統をどうしていくのかを考えています。学校再編は仕方ないが、コミュニティを継続するため、これから話し合わないといけない、ということを書いていました。次の展開を皆さんと地域の人が考えていくことで、継続することは出来るのでは？と思っていることです。
保護者 （女性）	● それは、小学校が残るか残らないかの次のステップの話であり、私たちも再編が決まっていることであれば、そこについて考えたいと思うが、今はその話をする場ではないと思います。
教育委員会 （教育長）	○ 皆さんが神余小の存続を求めていることは理解できますが、私が心配しているのは、その思いが叶わなかった場合、後は市で考えて下さいという議論で本当に良いのかということです。思いが叶わなかった場合、別の方向性を考えることはできないのか？ それをもう一度考えて頂きたいです。 ○ 神余小をキャンパスとして活用することは、皆さんの協力無しに実現は難しいと思います。 ○ 皆さんの思いや、6月に実施した各地区の意見交換会の報告を有識者会議で行います。その後、有識者会議から答申を頂くこととなり、その答申を踏まえ市として計画を策定することになります。
保護者 （女性）	● これだけの思いがあるのだから、そのまま有識者会議に伝えてもらえれば良いのではないか。 ● この案に賛同できなかった場合、神余小は残らないかもしれないということか。
教育委員会 （教育長）	○ 教育委員会から有識者会議へ報告をするとき、神余の皆さんは100%存続を望んでいるということだけを報告するか、それらの強い思いを伝えた上で、第2の選択肢として神余キャンパスを活用する案ではどうか、と報告するかどうかです。
保護者 （女性） （女性）	● 教育委員会が、神余に寄り添ってこの案ができたということは理解している。 ● 但し、その案について聞かれたとき、私達の要望とはかけ離れているという返答をした。 ● 神余がこの案に賛同しなかった場合、別の案は準備していないのか。

発言者	要 旨 (● 保護者 ○ 教育委員会)
教育委員会 (行政職)	○ 小規模特認校を、どういう学校にしていきたいのか？ <u>神余キャンパスを活用できれば、教育環境がさらに良くなり、より良い教育ができる</u>と思っています。 ○ 少人数教育のメリットの一つは、機動力を活かした探究学習だと思っています。色々な地区から小規模特認校について聞かれることが多いですが、初めに小規模特認校と出したときは少人数教育のメリットを最大限生かした教育活動と考えていましたが、その後、具体的な研究を重ね地域と一体となったプランを考えたところです。
保護者 (女性)	● 学年の人数は、何人くらいを想定しているのか。また、その人数は、いつまでを見通しているのか。 ● 房南学園が開校したときの見通しも甘かったため心配になる。
教育委員会 (行政職)	○ 房南地区と神余地区、他の地区からの転入も合わせて 15 人を目標にしたいと考えています。また、今回の再編計画は令和 20 年を見据えて考えているものです。北条小、館山小は、令和 20 年まで標準規模校、小規模特認校も複式学級にならない規模の人数は確保できると考えています。 ○ 房南学園を設置すると判断したその当時の人口推計の考え方と、現在の考え方では手法が異なります。その当時は、人口消滅自治体などという言葉もなく、出産適齢期の女性を母数とする人口推計の考えが浸透していなかった。今回の人口推計は、今ある最善のデータの中で分析し数値を出しています。
保護者 (女性)	● 神余小が無くなってしまったから後悔するのでは遅いことは皆理解している。教育委員会も同じように思って貰えていると思う。 ● 私達も子供たちのためを思って考えている。神余だけを考えている訳ではなく、館山にとっても絶対に価値がある、館山市の売りになると思っている。その想いを改めて受け止めてほしい。 ● 大きい学校のメリット、小さい学校のデメリットがあることは理解している。デメリットだけでなくメリットを活かして子供たちは育ってきた。その実績があるから、大小どちらが優れているということではない。
保護者 (女性)	● この案にある神余キャンパスを活用する時間割、時数は確定したものなのか。 ● 案を読み込むと、神余キャンパスを活用する時間は少なく、ほとんどを房南小で過ごすということでショックを受けた。実践してみて神余小を使う時間は増えるかもしれないし、減っていくかもしれない。その部分も不安です。
教育委員会 (行政職)	○ 例えば、皆さんが整備してくださっているハイキングコースですが、子供たちが安全に行けるよう管理されれば、活用の場面は増えてくるかもしれないです。極端な話になりますが、宿泊学習を神余で行うことも考えられます。神余・房南以外の小学校の受け入れなど、発展していく可能性もあり得ます。 ○ 但し、やってみないとわからないことです。今の時点で確約はできません。この案は、1年目にやってみたいと考えているプランです。 ○ 神余小・房南小の管理職には、この案を見てもらっており非常に期待を寄せています。<u>小規模特認校になることで複式を解消し、教員数も増え、これまで出来ない活動を展開できることは、より良くなる</u>という意見は頂いています。

発言者	要 旨 (● 保護者 ○ 教育委員会)
保護者 (女性)	● 神余を活用する時間が少ないことには驚いたが、増えれば良いということではありません。母体として残らなければ意味が無いこと。 ● 神余キャンパスを活用する時間が増えるからと言って、それが判断材料になることは今現在では無い。そこは誤解の無いようお願いしたい。
教育委員会 (教員A)	○ この案は、<u>神余の子供だけでなく、房南や市内他の地域から小規模特認校を希望して来る子供にとって、より良い教育環境になるように</u>と思って作ったプランです。 ○ 私が、この小規模特認校で大変だなと思うところは移動ですが、その部分についても教育効果を考えつつ必要だと考えて出した案です。 ○ ここが母体でなければということを言われてしまえばそれまでですが、時数についてなどの意見は、また伺えればと思います。
保護者 (男性) (女性)	● 学校設置の問題ですが、この案になった場合、神余小は閉校するということか。 ● 学校名は「たてやま里山・里海学校」になるということか。 ● 分校・分教室になることは可能なのか。(分校や分教室にして欲しいということでは無く、学校再編について調べる中で分からなかった部分なので確認の意味として)
教育委員会 (教育長) (行政職)	○ 神余小は閉校となります。また、学校名は仮称であり、この素案が認められれば各地域の方々と一緒に検討していくこととなります。 ○ 分校・分教室などの制度は、基本的な学習を分校施設で行い、全体的な事項(運動会・文化祭など)は本校施設で行うこととなります。それらは申し訳ないが、元々少ない人数を更に2カ所に分けることとなるため、私達としては想定していないところです。
保護者 (女性)	● 神余キャンパスを活用する案になった際、他地区から何で神余だけという意見が出てきた場合、どのように答えるのか。 ● 反対する市民を納得させられるのか。
教育委員会 (教育長)	○ 「これは、神余地区との妥協案として作ったわけではありません。<u>館山で唯一の小規模校として館山の持っている教育資源、環境、地域、歴史、文化をできるだけ詰め込んで、子供たちに良い教育環境を与えようとして作ったものです。館山市全ての子供たちが希望すれば通えます。ある一定の地域だけを配慮して特別扱いで作ったものではございません。</u>」ということを伝えたい。 ○ どれだけ反対意見があるかわかりませんが、地域を回っている中で小規模特認校に対する期待はすごく感じています。館山の自然環境、歴史文化に触合うような学校が出来ると良いという声を頂いています。当然、反対される方もいるかとは思いますが、全員がそう思うことは無いのではと思っています。
保護者 (女性)	● この案に賛同せず、神余小が無くなった場合でも、神余キャンパスを活用する可能性はあるのか。

発言者	要 旨 （● 保護者 ○ 教育委員会）
教育 委員会 （行政職） （教員 A） （教育長）	○ 例えば、神余小が無くなり神余小の子供が皆、館山小に行ってしまった場合、地域の協力無しに房南と他の地域からきた子供たちを神余キャンパスで学ばせることは難しいと思います。 ○ このプランについて、地域の方々へも説明させて欲しいと思っています。それらの地域の方々との意見交換結果を踏まえ有識者会議に伝えるべきと思います。 ○ 神余キャンパスを活用していくということであれば、校舎の管理は教育委員会になります。但し、キャンパスとして活用しない場合、教育委員会の管轄下で無くなる可能性もあり、その場合、市の財産として市として施設の活用を検討していくことになります。
保護者 代表 （女性）	● 教育委員会も神余小保護者も、子供のために想ってよく考えているという点は同じ。だが、予測値、見方の角度、経験が違うのでお互いの出した結論が違う。どちらが正解でどちらが間違っているということではない。 ● 教育委員会が、神余にできるだけ寄り添えるようにギリギリまで考えてきてくれた案に対して、保護者も突っぱねることはせず、向き合ってよく（資料を）読み込んだ。そして感想を伝えた。「我々の考えは変わらない。」といったところで落ち着いた。

令和 6 年 7 月 2 9 日 神余地区住民 意見交換会 議事録

発言者	要 旨 (● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会)
地区住民 (男性)	● 移住して 14 年になります。神戸小学校と富崎小学校が統合したが、その結果は素案の中に記載されていますか。
教育 委員会 (行政職)	○ 統合後の富崎小学校の子供たちの意見ですが、友達が沢山できた、一定規模の中で学習することで、今まで知らなかったことが知ることができ新鮮だった等の意見は頂きました。
地区住民 (男性)	● 過去に学校再編を行ったが、その結果また数年後に再編の話になっている。なんでこうなったのですか。
教育 委員会 (行政職)	○ 少子化の予測が甘かったのではないかというご意見は多く頂きます。神戸小と富崎小を統合すると決めたのは平成 23 年頃です。その当時、人口予測の問題がここまで全国的な問題だったかというところではありませんでした。その時の教育委員会の見込みが甘かったのではというご指摘を何回も受けますし、それはおっしゃる通りだと思っています。 ○ 平成 26 年頃、国(国立社会保障人口問題研究所)が、人口推計の方法を新しい視点で考え直しました。それは、その地域に出産適齢の女性の数が何人存在するのかという基準にした、いわゆる出生率だけではない視点を元にしたものです。それが所謂人口消滅自治体という言葉に繋がりましたが、そのような考え方が(房南学園を設置すると判断した)その当時はなく、行政側もそこまで将来を見通す力がなかった。それは真摯に反省しなければならないと思いますが、ここまでの加速的な少子化がその当時に起きると行政側は予測していませんでした。
地区住民 (男性)	● その地域に住んでいる人が食べていける、子供を育てていける、その生産力が必要だと思います。そこは行政として学校だけではなく、全体として活性化させていくことが必要なのかなと思います。
教育 委員会 (行政職)	○ ご意見ありがとうございます。市として何もやっていないかというと、実はそのようなことはありません。移住政策の部署を独立させ様々な施策を実施していますが、全国的に移住・定住施策については、いわゆる奪い合いの状態が続いている現状です。結果が出ていないと思われることは、申し訳ないと考えています。
保護者 (女性)	● 神余・房南キャンパスの使われる時間数について質問です。この案は教育委員会の方々が一生懸命考えて作ってくれたプランで、現実的な時間数は実際に行ってみてのことになると思います。今の案の時間数について神余キャンパスは全体の 119 時間(学年単位 30 時数弱)ということですが、全体の時間数を教えていただきたいです。なぜかという、すごく良いプランだと思いますし、神余・房南キャンパスを使うことで解消されているように見えますが、各学年が神余キャンパスを利用する時間はあまりにも少ないと見えるため、時間数については具体的に教えて頂きたいです。

発言者	要 旨 (● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会)
教育委員会 (教員)	○ 全体の時間の中で神余キャンパスを使う時数は、結論としてはほんの少しです。 ○ 学年にもよりますが1学年が1年間に勉強する時間数は、国で標準時数ということで決められています。例えば6年生を例にすると約 1,000 時間ですので、その全ての時間から見たら神余キャンパスを使う割合としてはすごく少ない時間になります。 ○ 半分の時間を神余キャンパスで学ぶということではなく、あくまで体験・探究的な勉強の部分を神余キャンパスで行うということで作らせていただいた案になります。
保護者 (女性)	● 6年生で言うと 1,000 時間の内 24 時間しか神余キャンパスを利用する時間が無いため1割にも満たない。神余キャンパスを活用する判断基準として、時数についても有識者会議に伝えていただければ現実的な印象になると思います。
教育委員会 (教員)	○ 時数について1週間にすると 30 時間です。そのなかで2割(6時間)を神余キャンパスで授業する場合、1日もしくは週3日の午後2時間ずつになります。全学年が行うことは移動や神余キャンパスでの授業内容・を考えたとき正直難しいです。 ○ 最大限この良さを生かすには、まずは案にある時間から始めるところかなと思います。あくまでも教育委員会で作った案なので、実際には子供たちと先生方でどんな学びを行うのかを考えて決めていきます。当然実際にはもっと増えるかもしれませんが、少なくなる可能性もあり得ます。
地区住民 (女性)	● 私は、豊房地区で開催された意見交換会に参加しましたが参加者は8人ぐらいでした。今日参加して、さすが神余だと思いました。本当に皆さん(神余地区)が一生懸命考えていることは敬意を表したいと思います。 ● 神余キャンパスの案は、教育長が出した苦肉の案だと思います。神余キャンパスというかっこいい名前まで付けて。 ● 神余キャンパスを利用する時間が 1,000 時間分の 119 時間(正確には学年単位で 25～30 時数)ということだが、教員も変わる中でその時間数も難しくなるのではないかと思います。 ● 旧富崎小を見てください。どんどん人口が減っています。旧神戸小を見てください令和元年の台風以降まだブルーシートの箇所があります。神余小もいずれそうになっていくのではないかと、そういったことは保証できますか。 ● 先程見通しが甘かったという話がありましたが、それは見通しの問題では無く、人が住んでくれという地域にしていけないこと。私は青木繁記念館でボランティアをしていますが、あの地域の過疎化はどんどん進んでいます。神余もそうになっていくのではないかと心配で、今日来られている人もいます。学校再編の話だけでなく、そういった事を心配している人もいます。 ● 神余キャンパスを活用するなどの教育目標が出されたことは、皆さんすごく進歩です。房南地区の意見交換会では、教育目標が先だという質問がたくさん出たそうです。そのため、教育目標が出されたことは良いこと。ただ実際地域がどうなるのかは不透明なわけで、それを皆さんが心配していると思います。 ● 教育委員会がこういう話を出してきたのは地域の皆さんの頑張りがあったからこそで、その結果が一步步進んでいると思いました。私は保護者・地域の皆さんに拍手してあげたいです。(会場拍手)

発言者	要 旨 (● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会)
教育委員会 (行政職)	○ 私達も神余の保護者の方々とこれまで幾度となく意見交換をしてきたからこそ、保護者の方々の思いを繋ぐための方策として考えたところです。それらを含め有識者会議の中で話をしていきます。 ○ 神余小を主体とした小規模特認校にするためには、房南小の子供が今後学年平均で10～15人くらいいる中で、神余小ではその人数は入りきれません。神余地区で新たな土地を購入し大きなグラウンドを作る、校舎を増築するなどが必要となります。それらを含め、有識者会議の中で議論し、判断していくべきかと思っています。 ○ 地域から学校が無くなるという議論についても保護者の方々と、再三意見交換をさせていただきました。学校が無くなったからと言って、全くその地域のコミュニティが無くなるのかというそうではなく、その先のことを各地域では考えて下さっている方々もいます。 ○ また、神余地区は富崎地区よりも若年層の人口の減少率が高くなっているという事実もございます。学校の有無も1つの要因になるかもしれませんが、それ以外の要因も統計データからすると読み取れるところで、それを保護者の方々にも説明をしてきました。
教育委員会 (教育長)	○ ご意見ありがとうございます。それぞれの地域で自分の学校が大切だという想いは、どの地域でも感じます。それぞれ歴史・文化のある学校なので、その学校に対しての愛着はどの地域にもあると非常に感じています。 ○ その中で私は昨年4月から地域を回っているなか、皆さん方と共通理解していきたいと思っているのは、地域ごとに自分の地域・学校が1番だと思っているとは思いますが、他者への理解を高めながら市民として考えていく、そんなような文化が学校再編を通じて醸成されていったらいいと感じています。綱引きや押し合いをするのではなく、みんなで共に考えていきたい。確かにこれは時間がかかります、意見の一致は難しいと思います。それでも嫌がらずに時間をかけ進めていきたいと思っています。
地区住民 (女性)	● 綱引きしているわけではないですよ。今の言い方はおかしいのではないですか。
教育委員会 (教育長)	○ 失礼しました。言葉が適切でなくごめんなさい。私の想いで話をさせていただきました。申し訳ありません。
地区住民 (男性)	● 素朴な疑問です。どうして房南なのですか。今まで神余は再編を経験していません。本当に今の子供達が房南に行って、本当に良かったと思えるのか？半信半疑なところがあります。教育委員会の見解をお願いします。
教育委員会 (行政職)	○ 神余地区と房南地区の隣接性も当然ながらあり、それは豊房小にも言えることですが、仮に神余小と豊房小を一緒にして小規模特認校とした場合、複式学級は解消できません。教育委員会は、教育効果の観点から複式学級の解消を目指していることが第1にあります。人口動態を含めて予測しても、まずその解消が、神余小と房南小であれば15年後においても複式学級の解消が出来るのではないかと見通しているところです。
地区住民 (男性)	● 規模の大きい学校に行くことは良いことだと思いますが、小さいところから大きいところへ行かされる子供たちの気持ちを考えてもらいたいと思います。

発言者	要 旨 (● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会)
	● 館山・西岬・豊房・北条・館野・九重の学校再編は3校だが、神余・房南は2校。なおかつ人数が少ない方から行くことは子供たちにとって辛いと思いますし、自分が子供なら辛いです。
教育委員会 (教育長)	○ 再編計画(素案)の中では、船形・那古も2校での再編です。ここも学校規模は随分違います。 ○ 小規模特認校ですので、その小規模の良さで学ばせたいと思っている方が、市内全域から通える仕組みを作りたいと思います。確かに小規模特認校の母体は2校ですが、そこには、市内全域から通う子供がいることも想定しています。 ○ 人数の少ない方が心細いというご心配ですが、ここについては(事前の交流事業などを含め)十分に対処していかなければと思っています。 ○ 神余地区で大切に継承されてきた文化・歴史が、館山市民はもちろん、もっと外にも広く知っていただけるような、そんなようなものができたらと思います。これは皆さんのご協力を頂けるのであればですが、そういった未来像というものも考えていければと思っていますところでは。
地区住民 (男性)	● 意見ではなく、想いを聞いていただければと思います。 ● 神余小は(今年)150周年を迎えます。先輩方からずっと伝統を守ってきた中で、今を迎えているのだと思います。再編の話が出てしまうのは寂しい思いです。何回でもないですが、学習発表会や楓祭りにも参加しました。人数が少なくても皆が生き生きとして、意見を言う時は、はっきりした言葉で話していました。人数が少ないながらも知恵を絞りやっているのを見てきました。保護者の方々も広報誌で賞を取ったり、PTAバレーを頑張ったりと地区の行事に協力してくれています。あえてこの時期に学校再編をしなくても、このままにしても良いのではないかという想いがあります。子供の数が減った際に、改めて考えていただければと思います。神余の皆さんは神余小が無いと本当に寂しいです。心の中というか見えない部分を大事にしたいです。(会場拍手)
地区住民 (女性)	● 私の知り合いで、富崎小学校から合併して房南小学校へ行った保護者がおり、偶然会いました。神余小の再編の話からそのお母さんが言うには「うち(房南)の学校は無くならないから神余が来るんだよね」という話でした。房南の方々、神余が足を運ぶことをどのように受け入れ・考え・受け止めているのかが、私達には伝わらないです。人数が増えて良かったという考えだと思います。大きい学校に行くことは子供たちの辛い想いだけでなく、保護者も同じなのかなと思います。 ● 教育委員会の方も、何度もこの校舎に足を運び、良い校舎だと言ってくれました。普通教科を房南キャンパスだけで行うのではなく、少ない学年を神余キャンパスで学ばせ、両校の体験ができるようなことも有識者会議の中で説いていただきたいです。 ● 教科で線引きするのではなく、房南の子供が神余に足を運ぶ回数、神余の子供が房南に足を運ぶ回数を同等にする、環境が違ふところで学ぶことが子供たちの成長に繋がると思いますのでご検討下さい。
教育委員会 (行政職)	○ 具体的な学校統合に向けては、学校再編計画の策定後、各学校で保護者やPTAを中心とする準備委員会を発足します。私どもが各地で意見交換する中で話をしているのは、学校規模に応じた人数を出すことは止めましょうということです。校名・校歌などは白紙の状態であり、それらはそこに集う方々と一緒に平等に公平に(統合前の学校規模によるのではなく)話

発言者	要 旨 (● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会)
	をしていければと思います。 ○ 神余・房南キャンパスを平等にというご意見について、当然有識者会議にお伝えします。
保護者 (女性)	● 私は移住2年目で学年PTAです。昨日も夏のお楽しみ会が地域の協力もあり大盛況に行われました。これだけ地域との繋がりが強い地域を私は知りません。移住する前に日本全国の小学校(フリースクールを含め)を調べました。小学校に行かなくてもいいかと思いましたが、入ってみたらより一層神余小で良かったなと強く思いました。 ● 神余小は館山が誇るべき文化財、日本が誇るべきものといっても良いのでは、と思うくらい素晴らしい学校です。 ● 先程から人口の見通しが甘かったという意見がありますが、少子化は何年も前から始まっています。館山市でも学校再編を10年ぐらい行っています。いつまで再編を繰り返すのですか、いつになったら地域に学校を残す大切さ、そういうところを考え始めてくれるのですか。
教育委員会 (行政職)	○ 何故、教育委員会が学校再編を考えているか、1番には子供たちにとって学校教育の何が最善かということです。最低でも1学年10人から15人ぐらいで、グループ活動や話し合い学習、色々な仲間・友達と触れ合う環境、それら子供たちに提供してあげたい。 ○ 地域にとっての学校の必要性は、私達も当然理解しています。しかしながら学校教育として、子供たちにとって何が1番大切かという視点で教育委員会は話をしています。学校教育として1番大切なところは何なのか?ということが保護者、地域の方々と教育委員会の意見の一致が見られないところです。
地区住民 (女性)	● 50歳になる娘がいますが、第一号の複式学級になった子です。それなりに彼女たちは頑張って勉強して、不自由もあったかとは思いますが。その後40年程複式学級が続き、今になって複式学級のことを言われても、神余の方々はどうか考えるのかなと思います。
教育委員会 (行政職)	○ 神余小の複式学級が40年経過していることは、保護者の方々からも伺い承知をしています。(配布資料にあるように)複式学級と言っても全校で40人程度いた状況ではなく、現在の神余小は全校19人、更に少なくなる予測がある中で、子供たちにとって本当にそれがベターなのか、教育委員会としては、この状態は是正したいと思っています。
保護者 (女性)	● 学校再編の話が出たとき、神余は直ぐ検討委員会が集まりました。他地区は揃えられないため、教育委員会が介入・運営しています。その時点で小学校に対する想いが違うと思います。 ● 神余で会議を行っていきな神余小は存続、他地区は再編に賛成という結果になりました。その後、突然教育委員会は小規模校を残すと言出し、何故か房南になりました。そこにこども園を入れる案になったと思います。計画ありきの案で不信感しかありません。 ● 小規模校として自覚し運営してきたことを差し置いてなぜ房南小を使うのか。房南の方々は小規模特認校が出来るぐらいで終わってしまっている。将来の結果が、目に見えてしまっていると思います。

発言者	要 旨 (● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会)
教育委員会 (行政職)	○ 計画ありきではないことは、これまでも説明してきました。その根拠として、房南地区の「学校のあり方を考える会」として結論を一旦出した「学校再編を行い一定の規模にすべき」との意見を、房南地区において保護者会を開き説明してきました。その時には小規模校を残す、小規模特認校を房南にするなどの案はありませんでした。 ○ 各地区の学校のあり方を考える会、その他保護者との話し合いを重ねるなかで、多数の保護者は、クラス替えのある学校規模を望む、保護者世代が通っていたような規模感のことは経験させてあげたい、という意見が多数でした。その一方、それぞれの地区の中で少数な意見ではありますが、小規模を望むとの意見もありました。 ○ それらの意見を踏まえた中で、小規模特認校をどこに作るのが良いのかを市内 10 校を見た中で、房南が最善だと判断しました。市内各地区の児童数予測、学校施設の状況、先進自治体の視察、行政としてのバランスなど、考えられる事項を洗い出した上で、15 年後でも複式学級を解消でき、最善な環境を提供できる場所と考え、素案を作りました。
地区住民 (男性)	● 各地区で実施した意見交換会の参加人数を教えてください。
教育委員会 (行政職)	○ 9地区で 75 名でした。
地区住民 (男性)	● 今日は、50 人集まりました。他地区の学校規模からすると、もっと集まって当たり前ではないか。 ● 房南の意見交換会に、神余の人が多く参加したのは、よその意見を聞いてみたいということだと思います。 ● よその地域では、気持ちは無いということでしょ。神余に 50 人他地区(全部)で 75 人そんな馬鹿な話はどこにあるのか。 ● 学校再編は、子供のために考えているのですか。教育長や教育委員会の皆さんには申し訳ないですが素案が出たときも、今までのことを考えると、疑われてもしょうがない状態 ● 子供・保護者のために学校を残して下さいと言っているのに、それを聞けないということは、誰がそれを決めているのか。県知事なのか文部大臣なのか。神余小の再編をするというなら、次の市長選まで待ってくださいよ。それぐらいの気持ちでいるということ。 ● 教育委員会から5年後、10 年後という話が出ているが、あなた方は、その頃に教育委員会にいますか。責任取れるのですか。 ● 房南は海拔何メートルか知っていますか。神余小は約 38m、房南は 26mぐらいだったと思います。危険な所に通わせることが子供のためなのですか。教育委員会が返事できないのであれば、次は報道機関(房日・読売・朝日・毎日・経済新聞・千葉日報)を全部呼んで下さいよ。その人たちに同意を求めましょうよ。 ● 神余は愚図っているわけではなく、神余小の小学校教育が原点であり、それを教育委員会が複式は、おかしいと言ってもこちらはそれを長年続けてきた。 ● 神余の保護者は、空き家対策を行い移住者もいる。神余が良いからと言って来てくれた人達にどこに行けというのか。その人たちの保証も考えてもらわなければならない。地区としては保証しきれないです。

発言者	要 旨 （● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会）
	● お金の問題だが、昭和 55 年に神余中学校が統合して以降、交通費を払い続けた。それを当時の教育長や教育委員会が預かっていますと言われてきた。その解決もしていません。 ● 今までの市長・教育長が、神余に対してでたらめだった。応援する人を決めなければいけないため、決断する人は知事なのか文部大臣なのかはっきりしてもらいたい。
教育委員会 (教育長)	○ 質問が多岐に渡るため、うまく答えられるかわかりませんが、まず、最後の質問に対してお答えします。 ○ 学校の設置は、地方公共団体または学校法人です。市町村立の学校であれば、市長が判断することになります。 ○ 教育委員会の職員も変わるだろうということですが、確かにここにいるのは、私以外は市役所の職員、あるいは学校の教員なので、異動はあろうかと思います。 ○ ここにいる職員は、個人的な想いから発言をするのではなく、職務に準じて一生懸命発言をさせて頂いていることをご理解いただきたいです。それは、全て教育長である私の命に依拠して発言をしていることなので、ある意味で私の責任として、受け止めて頂ければと思います。
地区住民 (男性)	● 神余小を運営するため、経費はどれくらいかかりますか。 ● 海拔の件は、どうですか。
教育委員会 (行政職)	○ 直近のデータは手元にありませんが、令和2年度の決算では約 1200 万円程です。教職員の人件費は、県が負担するためそこには含まれません。また4年前のデータで多少古くなっており、近年の物価高騰・光熱水費などを考慮すると、それ以上となっています。 ○ 房南小は、津波浸水区域には入っていません。
地区住民 (男性)	● 危険な箇所へ子供を通わせる、その気持ちを聞きたい。 ● 土砂崩れは、その土地のこともあるからどうしようもない。教育委員会は、神余の子供達に責任が取れるのか。房南へ行って地震が起きたときに、神余だったら助かったけど、房南だったから命を落としたとき、責任とれるのか。 ● 意地悪をしている訳でもなく、一番いい方法は地域・子供・保護者のため、その保護者が複式でも良いです、ここを残して下さいと言っているのに、なぜ揶揄するのか。何度も説明を受けたが、それは言い訳ではないか。 ● PTAの方や再編委員会の皆さんは、月に何度も遅くまで会議を行っています。その中で子供のために残そうという気持ちがある。そうした想いをどうして筆を取り取ってしまうのか。教育委員会は、子供のためという気持ちはありませんよね。
教育委員会 (教育長)	○ 教育委員会のその気持ちが伝わらないことは、残念に思います。
教育委員会 (行政職)	○ 教育委員会も子供のために想っています。しかし意見の一致が見出せていない所です。保護者の方が考える意見も尊重しています。教育委員会、現場の先生達が、どう考えているのかという視点です。
地区住民 (男性)	● 今の教育長、教育委員会には申し訳ないですが、今までの教育委員会が嘘だらけだった。昭和 55 年に神余中が二中と統合したとき、そのときの市長・教育長が、神余小は手を付けないと言っていた。長い歴史もあるが、嘘だらけの今までがあったから余計譲れない。そのまま

発言者	要 旨 (● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会)
	であって欲しいという想いです。結局のところ、もう少し神余のことを考えて欲しいと思います。
教育 委員会 (教育長)	○ 決して神余の皆さんに(言い方が適切ではないですが)悪いことをしようと思っている訳ではないことをご理解ください。 ○ 今日は、この時間の中で皆さんを説得して、ご理解頂くために来たのでは全くございません。意見交換をさせて頂き、平行線の部分やご理解頂けなかった部分は、率直に有識者会議へ報告させていただきます。
教育 委員会 (行政職)	○ 私は、3年程前から保護者会の方々と意見交換をさせて頂き、それら話し合いを通じて地域の学校に対する想いや、ポテンシャルを肌で感じたからこそ、今回の案を作らせて頂きました。決して蔑ろにするような思いで、このような案を作っている訳ではございません。その部分に関しては、これまで意見交換をしてきた保護者の方々も、わかって頂けると私は思います。
地区住民 (男性)	● 先程から子供のためと説明があるが、本当に子供のためなのですか。子供達の意見は聞いたのですか。房南小に行ったとき、神余小の方が良かったから学校なんて行きたくない、不登校になった場合は、どうフォローするのですか。具体的に教えて下さい。 ● 富崎小から房南小へ行った子供で、不登校になった子供はいませんか。そういった検証も必要なのではないですか。
教育 委員会 (教育長)	○ 各地域で学校再編が進められておりますが、再編の話は非常に大きな課題です。これは大人の我々が考えてもこれだけ難しい問題です。このことを子供に聞くことは子供の発達段階もあることなので聞き方が難しいのかなと思います。 ○ 子供の意見を無視するということは全くないです。やはり子供の意見を大切にしていかなければならないと思いますが、聞き方はやはり考えなければならぬと思います。
地区住民 (女性)	● 子供を馬鹿にしているのですか。子供だって意見がありますよ。
教育 委員会 (教育長)	○ 馬鹿にしているつもりはございません。子供には発達段階もありますので、聞き方は慎重にならなければならない、ということを申し上げたかったのです。
教育 委員会 (行政職)	○ 富崎小と神戸小統合後の不登校児についてのデータは、手元にありません。 ○ なお、不登校には(学校だけではなく)様々な要因があり、それを含めて再編との因果関係を全ての子供に対して立証することは難しく、そこまでは調べきれいていません。
地区住民 (男性)	● メンタル面などの原因も考えられるため、対策を考えてほしいです。
教育 委員会 (教育長)	○ 子供のメンタル面・心の問題に向き合うため、統合前後にスクールカウンセラーや子供に向き合えるような職員を多めに配置するような努力はしていきたいです。 ○ それで十分だと言い切れるわけではございません。再編後の教育効果あるいは課題に対しての検証を、有識者の協力を頂きながら進めていければ良いと一層強く思いました。
地区住民 (男性)	● 計画策定までの進め方を教えて下さい。計画を決める中で、地域の意見はどれくらい反映されるのでしょうか。

発言者	要 旨 (● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会)
教育委員会 (行政職)	○ まず、有識者会議へ各地区での意見交換の状況、特に資料5(神余地区との協議結果)の内容を報告します。その後、有識者会議から答申を頂き、それを受けた教育委員会が市長へ報告し市長が最終判断をします。その後パブリックコメント、市議会への意見聴取を行い決定する流れとなります。
地区住民 (男性)	● パブリックコメントで意見を出せば、計画が変わることもありますか。
教育委員会 (行政職)	○ パブリックコメントは、後の段階になってしまいますので、本日配布したアンケートで意見を提出いただき、それを有識者会議に報告します。 (その方がより早いタイミングで意見を出すことが出来る)
保護者 (女性)	● 1年前に移住してきました。移住する前は、子供を標準規模校へ通わせていましたが、テレビでたまたま神余小を見て、雰囲気が良いなと思い移住しました。 ● 子供は大人しく端っこにいますようなタイプの子でしたが、神余小へ来て自信を付けました。人前で話せるようになり、成長したなと感じています。 ● その中で、複式学級のデメリットを言われても、どうしても納得できません。自然に囲まれ毎日元気に過ごす子供を見て、ここに来てよかったと思っているのに、神余小が無くなってしまったら、私達はどうかしたいのですか。そういう人達のことも考えて欲しいと思います。 ● 財政面で厳しいことも理解していますが、人口を増やすような考えに変えてもらえませんか。
教育委員会 (教員)	○ これまで何回も保護者の皆さんと意見交換をさせて頂いているので、今のお話も何度も伺っているところです。ただ一方で、教育委員会が考えるところについても何度も申し上げていて、その中で意見の一致が見られなかったのも事実です。 ○ 一方的に教育委員会の考えを推し進めるのではなく、保護者・地域の考えを含め有識者会議に報告します。有識者会議での判断については、もう少しお待ちください。
地区住民 (女性)	● 小規模特認校の設置に関して、神余がダメで房南が良い理由、房南から見て神余が良いところを具体的にあれば教えてください。 ● 房南小の人数や建物のことを聞いたうえで、神余小が良いと言っているなかで、どうしてダメなのですか。
教育委員会 (行政職)	○ 先程から申し上げているように、素案に書いてある理由の通りです。学校教育として、より良いと思えるもの、それを実現可能な規模が房南だったということです。
地区住民 (女性)	● 小規模特認校は、学年 10～15 名とのことですが、それくらいの人数であれば、神余小でも良いのではないですか。房南から小規模校を望む子供を神余に通わせることで良いのではないですか。 ● 市内全域からスクールバスを出すということは、房南でなくても良いのではないですか。神余小を小規模校として残してくださいと要望しているのに、なぜダメなのですか。

発言者	要 旨 (● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会)
教育委員会 (行政職)	○ 学校教育環境として最善だと思える人数(小規模ながらも)から判断して、房南が良いとしています。 ○ また、神余・房南キャンパス案については、現時点では房南小の保護者には話をしていますが、神余の保護者の方々と相談して、これを話すことになりました。これを話した上で、房南の方々は小規模特認校に残りたいのか、それとも少し規模の大きい学校(館山小)に行きたいと思うのか、改めてまた調査したいと思います。
地区住民 (女性)	● 人数であれば、神余小でも対応できるのではないですか。神余小は各クラス 10 人規模が入れる広さがあります。小規模特認校が 10~15 人が理想ということであれば、神余小も 10 人で引っかけられます。言い訳を言われているようで納得できません。
教育委員会 (行政職)	○ 房南小の保護者にアンケートを取り分析したところ8~9割の保護者の方々は、現時点では小規模特認校に通わせたいという予測値があります。しかし、どういう教育環境・教育目標にするのか、その辺が出ないとわからないというご意見も3分の1程度ありました。 ○ 房南の方々には、(体験からの探求学習に重きを置く)教育目標について話をした上で、もう一度アンケートを取り分析したいと思います。房南の方々に話すタイミングについてですが、神余キャンパスを活用するには地域の協力が不可欠で、協力が無ければ運営が出来ません。よって房南の方々に話す前に、神余小保護者の方々と意見交換を重ねてきたところです。この後、房南の方々にはこのプランを元に、再度意向調査を行っていきたいと思います。
保護者 (女性)	● 以前の会議にて、移住に関して利便性を求めていると話があったが、その意見は単身世帯か所帯持ちどちらですか。私は所帯持ちです。移住を考えたときに小学校に近いところを選びます。それは親から見たら当たり前だと思いますが、世帯の確率を教えてください。
教育委員会 (行政職)	○ 例えば 1 つのデータとして、子育て世帯のみの人数では、館山地区・北条地区・船形地区・神戸地区という順になります。
保護者 (女性)	● その方たちは、何を1番に求めて移住されているのですか。
教育委員会 (行政職)	○ 理由までは手元にありませんのでお答えできません。移住政策担当の部署があり、そこで分析をしていますので、フィードバック出来ればと思います。
地区住民 (女性)	● 小規模特認校、過小規模特認校は1つでなければならないのですか。 ● 予算のこともあるかと思いますが、これだけ地域・保護者の意見もあるため、小規模校を2校作ることは出来ませんか。
教育委員会 (教育長)	○ 教育委員会が素案で1校とさせていただいたのは、館山市の人口規模、児童数を考えてのことです。千葉県内で小規模特認校を設置している自治体を調査した上で、素案には1校としました。もう1校あっても良いという意見に関しては、有識者会議で報告させていただきます。
教育委員会 (行政職)	○ 木更津市の人口は、12~13 万人で小規模特認校は4校です。

発言者	要 旨 （● 地区住民又は保護者 ○ 教育委員会）
地区住民 （女性）	● 小規模特認校は、市内全域から通ってくるとことを想定しているとのことですが、2校あってもそれぞれの学校が人数を保ち、運営することも可能性として考えられるのかなと思いました。
教育 委員会 （行政職）	○ 私たちは、児童数の可能性を考えた上で最善なのは1校だと考えています。小規模特認校を作ったからと言って、皆がそこに通うわけではありません。他自治体で実際に区外から通っているのは、学年全体数のうちで1%～1.5%です。 ○ 教育委員会としては通いやすい手段を確保して、なるべく 15 人に近づけ複式学級を解消出来る、そうした小規模特認校を設置したいと考えています。

小・中学校の再編に関する地区住民アンケート結果

(アンケート概要)

- 対象者：令和6年6月～7月／各地区意見交換会参加者 125名
- 手法：参加者への直接配布(その場での回答又は後日郵送・メール)
- 回答数：40件

I 学校再編計画(素案)に関すること

(居住地)	(意見)
船形地区	○ 児童が減少しているため、素案に基づく学校再編に賛成(30代/未就学・中学保護者) ○ 神余地区の熱量をこのままにしておくのはもったいないと思い、学校に変わる何かを残せると良いと思う。(50代/地区住民) ○ 中学校の再編を待たずに館山中学校へ進学する子供が増え、予定よりも早く館山一中の生徒数の減少が始まるのではないかと。(50代/地区住民) ○ 現在の船形小1・2年生は小学校、中学校の両方で再編のタイミングが生まれ、親としては忍びない思いである。希望者は中学校入学時に館山中へ入学させるなど、可能な範囲で柔軟な対応をお願いしたい。(30代/小学校保護者)
那古地区	
北条地区	○ 再編計画について知ることができ良かった。(80代/地区住民) ○ 沢山の意見を聞いて、急がずに進めてほしい。(80代/地区住民) ○ このまま計画を進めてほしい。(70代/地区住民) ○ 別の地域の説明会に参加した。再編後の学校運営についても改修工事を行い、子供たちが安全に通学できるように考えられていると感じた。(40代/小学校保護者) ○ 再編は待たなしの状況で、館山市に限らず全国的にも同じ問題に直面していると思う。何が正解かわからない、やってみないとわからない状況だが、行政が舵取りをお願いしたい。(40代/小学校保護者) ○ 市内最大規模の小学校に子を通わせているが、他の学区の子供と一緒にすることはあまり心配していない。他の地域での説明会に参加し、学校が無くなる地域の想いや考えが聞くことができ良かったと思う。(40代/小学校保護者) ○ 児童の教育環境は年々悪化している状況で、学校再編により教育環境が改善されるが、通学方法など不安な面もある。スクールバスには添乗員を付け、乗降の事故がないよう気を付けてほしい。(70代/地区住民)
館山地区	○ 素案の計画に賛成(70代/地区住民) ○ 少子化に伴い、再編は致し方ないと思う。複式学級は教員、児童ともに負担がかかり効率も悪いと、あり得ないと思う。ただ、市内でも地域によって少子化の差が更に広がってしまうのではないかと。(30代/未就学児保護者) ○ スクールバスの停留所は、安全な場所をお願いしたい。全教室に早急に、エアコンを取り付け

(居住地)	(意見)
	て欲しい。(30代/未就学児保護者)
西岬地区	○ 両親、子供の率直な意見をもっと聞くべきではないか。少ない気がする。(80代/地区住民) ○ 意見交換会への保護者への参加が少ないということは、「あきらめ」のようなものがある気がする。反対意見が少ないことが不思議(80代/地区住民)
房南地区	○ 小学校は小規模のメリットを考慮された計画になっているが、中学校も小規模のメリットを活かした教育を考えて欲しい。(40代/小学校・中学校保護者)
豊房地区	
神余地区	(他地区の説明会会場において寄せられた神余住民の方からのアンケート) ○ 昔から神余は豊房地区(豊房村神余)だったため、房南小との再編に驚いたが、小規模特認校とのことで納得した。(60代/地区住民) ○ 教育施設の大小だけでなく、教育の中身をもっと考慮・検討し、小規模特認校の設置場所を再度検討してほしい。(40代/中学校保護者) ○ 子供達のためと言っても、結局は財政の問題なのだなと感じてしまう。大規模・小規模校にもメリット・デメリットはあると思います。多様化している時代において、選択できる環境を売りにして里山の素晴らしい環境で子育てを楽しみたいと思っている方もいると思うので、子育て世帯の取り込みに力を入れるべきではないかと思う。この環境で子供たちと過ごしたいと思い移住してきたのに、その学校が無くそうとしているのがとても悔しい気持ちでいっぱいです。(40代/未就学・小中学校保護者) (神余地区会場におけるアンケート) ○ 再編に賛成している地域では“実施”で良いと思います。反対している地区(神余)では“実施せず”ではダメなのではないでしょうか。(40代/小学生保護者) ○ 房南小の方(保護者)に聞いていただきたいのですが、房南小が他地区の学校に統合するとした場合、どう思い、どうするのか。(40代/小学生保護者) ○ 保護者・地域住民の皆さんとの協議をして、意見集約を願います。(地区住民) ○ 今まで50年以上複式学級をやってきました。高校入学しても何も問題ありませんでした。(80代/地区住民) ○ 15人規模にこだわる発言が多く、それ以下の規模を望む声に耳を傾けない姿勢が強調されていた。(50代/地区住民) ○ 教育委員会の主張の中に「再編をして友達・仲間が増えたら嬉しく喜んでくれると感じる子供が多数であり、嫌がる子は極めて少ないと思う」とあるが、極めて少ない人数の子供を切り捨て、多数の喜んでくれる子供たちの世界を広げてあげるのが大人の役割ととれる。これは極めて一方的な論理で全く多様性を認めない残念な感覚だと思う。行政の手法としては仕方ないことかもしれないが、少数の意見に耳を傾けてしっかりとその意見を取り入れた案を作っていただきたい。(50代/地区住民) ○ コミュニティの問題と学校の問題は一体的に考える必要があると思う。それがより良い教育環境を作ることに繋がる。私は学校・家庭・地域の三者が一体となって子育てすることが、より良い環境だと信じている。それができている神余小を選んでUターンした。安定した生活を捨てUターンすることは、とても大きな決断であったが、子供たちが成人した今、とても良い判断をした

(居住地)	(意見)
	と思っている。もし仮に教育委員会が言うように、15 人規模以上がより良い教育環境だとすると、そのような学校はどこにでもあり、私は U ターンする必要はなかっただろう。館山にいるとき（高校まで）は、全く思わなかったが、外に出たときに神余の良さ館山の良さに気づくことができた。今回の保護者の方が言っていたが、神余地区は「館山の宝」・「日本の宝」くらい価値がある。それを活かすも殺すも行政次第だと思う。 (50 代／地区住民) ○ 長年にわたり提案し議論されたものであり、ここで結論を提示することが必要。神余地区の議論は煮詰まったと解釈する。これ以上説明会を開催し、統合への新たな案を提示したところで、同意を得られる可能性はないものと思います。最終決定権者の市長決裁を早く仰いで頂きたい。(匿名) ○ 意見交換会であるというので参加したが、住民側の疑問に対する説得の会のように感じられた。この会で出された意見が、この後どのように再編計画に反映されていくのか見守りたい。 (60 代／地区住民) ○ 房南学園の校舎を特認校として使い、神余キャンパスとして利用するという案がありきの話になっている。例えばその逆（神余小が特認校で房南を必要に応じて使用する）を考え直してみてもどうかと思う。地域を上げて学校を支えていこうとしている神余小こそが特認校として意味があると思う。同じような想いが房南地区にあるなら話は別。 (60 代／地区住民) ((新) 小規模特認校プランに関するアンケート) ○ 私たちが望む神余小学校の姿とかけ離れている。150 年の歴史を持つ神余小学校をそのまま残すことが、館山の今の子供たち、未来の子供たちのために良いと確信しています。 (40 代／小学生保護者) ○ 神余小学校あつての神余です。今のまま学校があれば良いと思います。 (70 代／地区住民) ○ 神余小は残してください。(80 代／地区住民) ○ 少子化が著しい中、止むを得ない選択であると解釈します。この事案の推進のため、具体的に各学校の特徴、教育環境などをアピールし、児童が希望する学校に行きたいことを尊重し、そのための通学手段の確保を行うことが肝要である。(匿名) ○ 神余に学校があつてこそ「地域の人達と協働して実践する教育」→「地域と共にあゆむ特認校」だと感じる。週に3日程度、それも午後の半日だけ通ってくる子供たちと協働していけるのかは疑問 (60 代／地区住民) ○ 今までの教育課題（画一的なカリキュラム等）を解決していけそうに感じています。そのためには生徒数の観点も重要とは認識していますがソフト面、特に地域の方々の関わり方がポイントと考えます。(50 代／地区住民) ○ 館山市で初の特認校ということもあり、ある程度の試行期間を設けて、ソフトランディングしていくようにしてみてもいかかでしょうか。房南小、神余小ともに特認校とし、地域の方々の関り方など特認校としての目的を果たすための KPI（生徒数・満足度）を定め、数年間それぞれで試行した結果をもってどうしていくのかを決めるのが良いと考えます。そのようにした方が、より子供たちにとって良い選択となると考えます。(50 代／地区住民)

(居住地)	(意見)
館野地区	
九重地区	○ 学校再編が人数合わせではないこと、小規模特認校へは、希望すればどこの地域からでも通えると聞いて安心しました。(40代/未就学児保護者)
無記名	○ 再編後、在校生が学校環境に馴染めるような体制づくりをしてほしい。 ○ 再編により、教育内容と環境面がどのように変化するのか、対比できるような資料を最終的に示せると良い。 ○ 再編により教職員の相当数が異動になると思う。学校に関連した民間事業者にも少なからず影響が出ると思う。その影響についても行政側のフォローができていければ良いと思う。

2 その他学校教育に関すること

(居住地)	(意見)
船形地区	○ 館山一中の3年生時に学校再編した場合、それまで頑張ってきた部活動で試合に出られなくなる可能性もあるため心配。A・B・C チームでの出場を検討して欲しい。 (30代/未就学・中学保護者) ○ 児童、生徒数を増やすため、他市・他県からの転入を期待したい。(50代/地区住民) ○ 発達障害の児童は年々増えてきている。支援級の強化を望みます。(50代/小学校保護者)
那古地区	
北条地区	○ 複式学級のことが心配になった。できる子供は良いが、わからないまま過ぎてしまう子供がいるかもしれない。教師の問題になる。(80代/地区住民) ○ 学校再編後の地域の学校の活用をどうしていくのか気になる。 (30代/未就学・小学校保護者) ○ 全ての子供達が、安全で安心して通学できるようにして欲しい。通学での危険個所の確認、保護者全域ボランティアの導入等、今後も柔軟に対応してもらいたい。私も保護者として必要に応じて支援を行っていきたい。(40代/小学校保護者) ○ 子供達に館山の良さと愛着心を持ってもらい、館山を離れてもいつかは帰ってきたいと思えるカリキュラムに取り組んで欲しい。(70代/地区住民)
館山地区	○ 小・中・高校でお金と性の授業を取り入れてほしい。もちろん各家庭でも教育すべきだが、学校でも積極的に取り組んでほしい。(30代/未就学児保護者) ○ 安房地域の高校は定員割れで誰でも入れる状況のため、緊張感が無いように感じる。どんどん都市部との格差を感じてしまう。(30代/未就学児保護者)
西岬地区	
房南地区	○ 小規模特認校の独自の計画だけ一人歩きせず、館山市全体で中学校卒業時の子供達がどんな姿になっていればよいのかを踏まえた上で、市全体で足並みを揃えた教育活動の展開を期待しています。(50代/未就学児・小学校保護者) ○ 房南小中一貫校を作るとき、別々の学校にしたのは小学6年の子供たちにリーダーシップをもつ機会を与えるためです。(60代/地区住民)
豊房地区	
神余地区	○ 戦後 GHQ が変えてしまった日本の学校教育、歴史教育、本当に日本人として悔しい想いです。日本の誇るべき教育、地域との繋がりが“少子化の波”という言葉で、どんどん潰されることに残念でなりません。子供は日本の宝、このままでは日本から子供がいなくなってしまう。(40代/小学生保護者) ○ 学校維持のための経費問題として、全校生徒 19 名に対して教職員が 10 名に及ぶのは誰が見ても採算上、かなりの歳費につながると思料できる。将来を見通した場合を想定すれば、他の行政ではおそらく統合 100%は免れないものと思われる。市全体にアピールして市民に認識を持ってもらうことが大切ではないか。(匿名) ○ 小規模特認校という形で今までも地域と共に実践してきた神余小の教育自体を理解しようと

(居住地)	(意見)
	する姿勢が再編委員会にはみられない。ただ人数割りのことばかりに囚われる考え方が変わらない限り、話し合いは平行線のままだと思う。(60代/地区住民)
館野地区	○ 児童への打診(覚悟・気持ち)を考えて欲しい。(60代/地区住民)
九重地区	○ 小規模特認校は、学校に行かない選択肢を普通なことにし、ホームスクーリングの支援をして欲しい。(40代/未就学児保護者) ○ 学校は楽しい場所、子供の意見で変えられる場所にして欲しい。(40代/未就学児保護者) ○ 地産の給食が食べられるようにして欲しい。(40代/未就学児保護者) ○ 「学校」のあり方について、「宿題は無くても良い、成績表・テスト無し」を取り入れて欲しい。そうすることで子供が主体的に考え学ぶことができるようになる。(40代/未就学児保護者) ○ 時間割を自分で決められる、プレーパークを月1回ほど開いて欲しい。(40代/未就学児保護者) ○ 子供たちに、色々と考えさせるような機会を多くとって欲しい。(40代/未就学児保護者)
無記名	○ 素案のポイントで財政負担の軽減が記述されているが、市の財政状況の先行きが不透明である中、是非とも財源確保をして教育環境の充実に充てて欲しい。 ○ 子供たちが将来に向けて夢の持てる学校生活であり、再編後は登校拒否が無いよう教職員の人的配置や子供同士の繋がりに配慮して欲しい。 ○ PTAを委託できないのか。夫婦共働きが当たり前の時代で、役員を負担に感じている保護者が多いと思う。お金で解決できるものなら、是非どこかに委託して欲しい。

3 学校跡地の利活用に関すること

(居住地)	(意見)
船形地区	○ 避難所、防災倉庫、ランデブーポイントなどの利用(30代/未就学・中学校保護者) ○ 世代を超えて利用できる施設、災害時の避難所、街の保健室的な役割、観光案内所(お年寄りによるボランティア)、地区の高齢者の中核となる施設(市役所の分室的な役割)(50代/地区住民) ○ 船形小は船形こども園の津波避難所として屋上に上がることになっている。再編後の避難場所、代替計画が心配である。(30代/小学校保護者) ○ 船形小は船形バイパス土地計画の事業案に学校跡地は議題に出ているのでしょうか。(50代/小学校保護者)
那古地区	○ 多くの人が集える施設(70代/地区住民)
北条地区	○ 児童数の激減は、地元住民にとって気落ちしてしまう。利用できる建物は校舎の一部でも良いから地域コミュニティ、防災機能のある施設にして欲しい。(70代/地区住民)
館山地区	○ 教室を個人・法人に貸し出し再利用して欲しい。会社や飲食、個展など、さらに特別教室や体育館ではイベントを開催しても良いと思う。(30代/未就学児保護者)
西岬地区	○ 地域コミュニティの場になることを期待している。(60代/地区住民)
房南地区	
豊房地区	
神余地区	
館野地区	○ 体育館は残して欲しい。(60代/地区住民)
九重地区	
無記名	○ 学校が無くなる地域は活力が削がれる思い。地域の意見はもちろんあるが、行政主導で地域おこしのための活用を検討して欲しい。 ○ 保存されるべき工作物や資料は埋没せずに管理し、後世に残して欲しい。 ○ 地域づくりの拠点としての機能も備えながら、施設の活用をして欲しい。

館山市教育委員会

教育部 教育総務課（学校再編推進室）

☐ TEL：0470-28-4377

☐ FAX：0470-23-3115

☐ e-mail：[kyousoumu@city.tateyama.chiba.jp](mailto:kyou soumu@city.tateyama.chiba.jp)